

JFA news

4 NO.432
2020.
月情報号

特集

部活動の 実情と これから

変わりゆく学校部活動、その役割とは
池田洋二 JFA学校部活動検討委員会委員長
福島隆志 JFA学校部活動検討委員
活動事例の紹介



覚醒、
異次元
コントロール。

adidas

100%
UNFAIR
PREDATOR
MUTATOR



がんばろう
ニッポン!

サッカーファミリーのチカラをひとつに!

JFA No.432 news

2020 4月情報号

サッカーファミリーの皆さまへ

日本サッカー協会(JFA)は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために2月27日から在宅勤務を導入しています。長期にわたる在宅勤務で多くの皆さまにご不便をおかけしていますことをお詫びするとともに、皆さまのご理解とご協力に心から感謝申し上げます。

JFAは現在、会議や会見、取材をWEBシステム等を用いて実施しています。本誌の取材につきましても安全性に十分配慮し、WEBシステムや電話、書面による取材などで皆さまに変わらぬ情報を届けてまいります。

JFAはこうした取り組みが新型コロナウイルス感染症の一日も早い収束に寄与するとともに、読者の皆さまに継続してサッカーをはじめとするさまざまな情報を提供し、ひいてはより良い社会の実現に向けた仕組みづくりの一助になればと考えております。

この困難を乗り越えるために今後もサッカーファミリーの皆さまと心を一つにし、感染拡大防止に取り組んでいきたいと考えています。今こそ、リスペクトとフェアプレーの精神を胸に、全ての人々が安心してスポーツを楽しめる環境を取り戻していきましょう。

公益財団法人 日本サッカー協会

JFAの理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

JFAのビジョン

サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、人々が幸せになれる環境を作り上げる。
サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、人々に勇気と希望と感動を与える。
常にフェアプレーの精神を持ち、国内の、さらには世界の人々と友好を深め、国際社会に貢献する。

JFAのバリュー

エンジョイ●スポーツの楽しさと喜びを原点とすること
プレーヤーズファースト●選手にとっての最善を考えること
フェア●オープンかつ誠実な姿勢で公正を貫くこと
チャレンジ●成長への高い志と情熱で挑戦を続けること
リスペクト●関わりのあるすべてを大切に思うこと

CONTENTS

特集 部活動の実情とこれから

003 変わりゆく学校部活動、その役割とは

004 池田洋二 JFA学校部活動検討委員会委員長

007 福島隆志 JFA学校部活動検討委員

010 事例紹介～部活動の形とは～

東京都品川区立荏原第一中学校
滋賀県近江八幡市立八幡西中学校
神奈川県中学校体育連盟サッカー専門部・横須賀ブロック
NPO法人幕総クラブ

【連載】

045 隔月連載 フットボールにできること
「Sports assist you～いま、スポーツにできること～」

046 隔月連載 フットサル道場
ブルーノ・ガルシア フットサル日本代表監督
「ピンチのときこそすべ振る舞い」

047 隔月連載 サッカー心育論
中山雅雄
「コーチとしての役割」

049 隔月連載 日本サッカータイムスリップ
「日本とオリンピック(3)」

050 オリンピックの記憶
伊東輝悦
「やってみないと、分からない!」

052 いつも心にリスペクト
大住良之
「グラウンド整備という文化」

※連載「クローズアップFA」は休載とさせていただきます

日本代表

059 2020 SheBelieves Cup
なでしこジャパン、3連敗で最下位に終わる

【特別企画】

054 日本サッカー協会、新体制の発足
田嶋幸三会長が3期目へ

【REPORT】

063 秋田県サッカー協会～アイスランド視察

017 月刊レポート～JFAリリースインフォメーション&活動報告

021 JFA加盟登録かわら版～プライバシーポリシーを変更

022 会議レポート

034 DATA BOX

038 JFA関連発行物のご案内

040 蹴球通信

066 日本サッカーミュージアム

067 サッカーファミリー広場
～アルベルト・ザッケローニ元日本代表監督からのメッセージ

068 次号予告

※本誌の記事・写真・図表などの無断転載を禁じます。
表紙・目次および本誌内のクレジットの記載のない写真
©JFA、©JFA/PR、©J.LEAGUE、©F.LEAGUE、©Walnia

TSUBASA

OFFICIAL
MATCH BALL

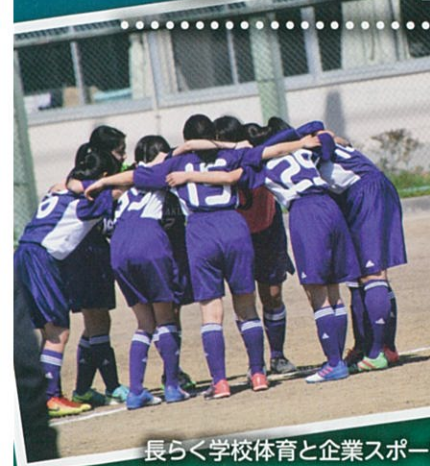


[特集]部活動の実情とこれから

変わりゆく

学校部活動、

その役割とは



長らく学校体育と企業スポーツに支えられてきた日本のスポーツ。Jリーグが誕生してからは、地域のクラブチームの活動も活発になってきたが、学校部活動は長年にわたって子どもたちの競技力や技術力の向上はもちろんのこと、人間形成や社会性を育むといった教育的観点からも重要な役割を果たしてきた。

サッカーでは、全国中学校サッカー大会は50回、全国高等学校サッカー選手権大会は98回と長い歴史を誇る。各チームが切磋琢磨する中で競技力は向上し、数々のプロサッカー選手を輩出してきた。日本が初めて世界の舞台に立ったFIFAワールドカップフランス'98では22人のメンバーのうち実に21人が高等学校体育連盟チーム出身だった。Jクラブのアカデミー出身者の台頭も著しいが、2018FIFAワールドカップロシアでも高校チームでプレーしていた選手は23人中12人と、全体の半数を占めた。

そのロシア大会で、ラウンド16敗退後にロッカールームをきれいに掃除して大会を去ったSAMURAI BLUE（日本代表）の振る舞いが世界から称賛された。また、1998年のワールドカップ以降からと言われるサポーターのスタンドのゴミ拾いも日本サッカーを象徴するものだ。それもまた清掃や礼節を重んじてきた日本の教育や部活動での習慣が表れた行為と言える。

一方、近年の社会情勢や経済の変化などによって教育に関わる課題が複雑化、多様化したことにより、学校部活動が大きな改革を求められている。

2018年、スポーツ庁は「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を制定した。これは、中学校の運動部活動を主たる対象としたもので、成長期にある生徒が心身ともにバランスのとれた生活を送れるよう、部活動の指導や運営に係る体制を整備することを目的につくられたものだ。

同ガイドラインには、適切な数の部活動を設置することや外部の部活動指導員の任用、暴言や体罰の禁止、部活動を合理的で効果的にするために目標や内容を明確にすること、適切な練習時間や休養日を設けることなどが盛り込まれている。

2020年4月からは「公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン」が策定され、公立学校の教育職員の時間外業務上限の目安（月45時間、年間360時間）が定められた。

日本サッカー協会（JFA）は18年に部活動検討委員会を立ち上げ、手引きの作成や合同チームへの取り組みなどを行い、学校部活動における課題に向き合ってきた。スポーツ庁のガイドライン策定から2年が経過し、学校部活動ではどのような変化が起きたのか。また、高校も含めて現在の部活動が抱える課題やこれからの部活動の形について考えていく。

※対面取材時は対人距離を2m以上確保し、インタビューは手洗い消毒の上、マスクを着用。そのほか、電話で取材するなど、新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底して実施しました

池田 洋二

JFA学校部活動検討委員会 委員長 インタビュー



古くから学校教育の中に取り込まれている部活動。日本においてその重要度は非常に高い。一方で、少子化や教員の働き方改革、指導者不足など学校部活動における課題は複雑化・多様化している。JFAは、これらの課題にどう向き合い、解決策を講じているのか。学校部活動検討委員会の活動を振り返るとともに、これからの部活動について池田洋二委員長に聞く。

○インタビュー日：2020年3月14日
※取材は2m以上の距離を確保し、インタビュアーはマスクを着用して実施

IKEDA Yoji

**部活動を頑張りたい教員が
続けられる環境を**

—まずは中学、高校の運動部活動における現状について教えてください。

池田 2018年3月20日にスポーツ庁から「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が出されました。以来、公立中学校では平日と土日それぞれ1日以上の休息日を設け、平日の練習は長くとも2時間程度、土日は3時間程度で活動するというガイドラインに沿う形で部活動が行われています。

今年4月からは「公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン」が適用されます。こちらは文部科学省から出されているもので、公立の高校もその対象になり、教員の超過勤務時間に月45時間以内、年360時間以内という上限が設けられます。

私が暮らしている鳥取県では、時間外勤務で部活動が占める割合は、公立中学校で月に約37%、公立高校では約58%でした。この時間外勤務には教材研究などの業務も含まれますが、中学校

では工夫をすればこれまで通り部活動を行えるでしょう。しかし、高校は平均で45時間を超えているのでそうとう難しい。部活動を全くしていない高校もあれば、月に80時間を超える学校もありますからね。鳥取県という人口の少ない県でこの数字ということは他の都道府県でもっと多い可能性があります。

今の段階では現場が大変になることが実感できていませんし、危機感があまりないと思います。法律が変わって半年も経てば、課題はたくさん出てくるでしょう。そのときにはすでに遅いと考え、JFAは学校部活動検討委員会ですまざまな課題と向き合ってきました。

—委員会では主にどのようなことに取り組んだのですか。

池田 18年に発足した当初は課題がたくさんありました。その中で、まずは「兼職兼業」という形で業務時間外でも希望する職員が指導できるような方策を考え、嘆願書を作成しました。

—どのような内容でしょうか。



ムが指導者を見つけられるようにシステムを改修します。

— 2年間の活動の手応えをお聞かせください。

部活動に対する個人的な思いはありますか。

池田 文部科学省が提示する時間を基準にすると、学校は部活動で生徒の競技力向上や自己実現を目指すことが難しくなります。嘆願書には外部指導者が派遣できるようにするまでは、教員が活動できるようにしてほしい。そういう内容を記しました。

池田 もう一つは少人数の部活動継続のための「合同部活動」への取り組みです。合同チームの大会参加の規定や指導者の派遣システムの見直しは、検討委員会での最初の議題でした。大会参加については、JFAと中体連、高体連のルールが多少異なる部分がありました。1チームに1人以上いる場合は合同チームとして認められませんが、少しでも大会に参加できる子どもを増やすためにそのルールを見直し、1人以上のチームとの合同を認めて都道府県大会への出場を可能にしました。

共働きの家庭が増え、これまで家庭で担ってきたしつけや教育が学校に委ねられるようになってきました。教員は業務時間外でも生徒指導や登下校時の安全指導などを懸命に行っていました。教員の長時間労働を解消するために、急に「それは業務ではない」と言われても、学校は子どもたちを家庭や地域に戻すことができません。それは部活動も同じです。部活動を社会体育に移行する方向で対策が講じられていますが、現状ではその仕組みが整っていません。だからせめて社会がバックアップできるまでの間、今やっている形も継続できるようにしてほしいといった内容を嘆願書に盛り込みました。「教員の長時間労働の解消」も「教育の一環」として「部活動」も両方必要です。大切な

は子どもたちを犠牲にしない仕組みだと思います。

教育の一環である部活動は日本サッカーの礎でもある

— あらためて日本サッカーにおける部活動の役割とはどのようなことですか。

池田 部活動は日本特有の文化です。18年のFIFAワールドカップに出場した選手のうち約半数が高体連出身です。田嶋幸三会長もかねてから、「日本サッカーの選手育成は、都道府県の学校とクラブに支えられている」と言っています。クラブだけではなく、学校部活動が支えているということが重要なポイントです。

池田 部活動には教育的な側面が多くあるということですね。

池田 私は、サッカーを通して子どもを育てる、というスタンスで教員を務めてきました。自分が教えてきた生徒たちの中には日本代表選手になりたい子どももいれば、うまくないけれどサッカーが好きという子もいました。勝利を目指して戦わないとモチベーションが続かないという子どももいれば、サッカーを楽しくできればいいという子もいます。いろいろな生徒がいる中で指導者はどのように彼らの夢や目標を支えていくかを考えるべきです。巢立っていった生徒たちの中には、上のレベルでプレーする選手もいますし、テレビで見ても応援する者もいますが、皆がどこかでサッカーに関わってくれています。

池田 学校の環境下で運動や芸術といった、自分が興味を持った分野に自由に取り組めることが学校部活動の最も良いところです。勝ち負けではないんです。そのために学校部活動が教育課程の中に入って必修クラブ(※)になった時代もありました。昔から部活動が大事な教育の一環であるということは、

池田 委員長は長く教員としてサッカーを指導してきましたが、学校

が指導者を見つけれらるようシステムを改修します。

池田 文部科学省が提示する時間を基準にすると、学校は部活動で生徒の競技力向上や自己実現を目指すことが難しくなります。嘆願書には外部指導者が派遣できるようにするまでは、教員が活動できるようにしてほしい。そういう内容を記しました。

池田 もう一つは少人数の部活動継続のための「合同部活動」への取り組みです。合同チームの大会参加の規定や指導者の派遣システムの見直しは、検討委員会での最初の議題でした。大会参加については、JFAと中体連、高体連のルールが多少異なる部分がありました。1チームに1人以上いる場合は合同チームとして認められませんが、少しでも大会に参加できる子どもを増やすためにそのルールを見直し、1人以上のチームとの合同を認めて都道府県大会への出場を可能にしました。

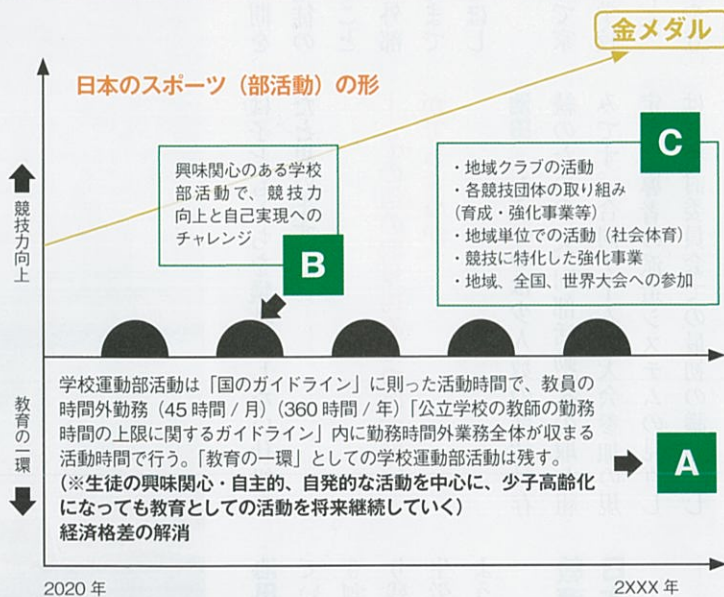
池田 委員長は長く教員としてサッカーを指導してきましたが、学校

池田 私は、サッカーを通して子どもを育てる、というスタンスで教員を務めてきました。自分が教えてきた生徒たちの中には日本代表選手になりたい子どももいれば、うまくないけれどサッカーが好きという子もいました。勝利を目指して戦わないとモチベーションが続かないという子どももいれば、サッカーを楽しくできればいいという子もいます。いろいろな生徒がいる中で指導者はどのように彼らの夢や目標を支えていくかを考えるべきです。巢立っていった生徒たちの中には、上のレベルでプレーする選手もいますし、テレビで見ても応援する者もいます。皆がどこかでサッカーに関わってくれています。



部活動検討委員会では「もっとプレーしたい選手」と「もっと教えたい教員」の両方に向けた施策を軸に取り組みました

将来のスポーツ文化『学校部活動』の方向性 ～学校教育の一環としての部活動と社会体育との共存～



A 教員の働き方改革内での「教育の一環としての部活動」の継続

活動場所 学校施設
指導者 顧問(学校職員)
活動日 月曜日～金曜日+土日の練習試合・大会等
活動時間 公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン内
謝金報酬 時間外勤務手当額
目的 生徒の興味関心のある活動を減らさず、将来の自己実現に向けて学校教育として継続する。

B 技術向上を望む生徒が多い学校教育内の部活動(現在の形に近い) ※県体協の関わりあり

活動場所 学校施設
指導者 [兼職兼業]の顧問(学校職員・部活動指導員・外部指導者)
活動日 月曜日～日曜日(学校運動部活動ガイドライン)
活動時間 原則「学校運動部活動ガイドライン」遵守 + 練習試合、合宿、大会等に参加
謝金報酬 時間外勤務手当額と同額
目的 技術向上など活動意欲のある生徒のモチベーション向上実現のための学校教育として継続する。

C 学校部活動以外に、競技力向上を目指して、地域でのクラブ等で行う活動(社会体育) ※競技力向上との関係で、都道府県体協との関わり合い

活動場所 学校施設、地域、公共施設他
指導者 地域クラブの指導者、各競技団体指導者、外部指導者
活動日 月曜日～日曜日(活動団体により異なる)
活動時間 各活動団体により異なる
謝金報酬 各団体により定めあり
目的 学校外の活動を通じ競技力向上を目指すと共に、自己研鑽しながら社会体育と学校教育に取り組む。

指導要領にも入っていますし、学校がすごく大事にしていることです。生徒は部活動で競技以外のことも学びます。しかし、学校が构子定期に行政で決められた形でやってしまうと、この前のワールドカップにおける日本代表のロッカーームの話ではないですけど、整理整頓なども疎かになってしまいかもしれませんが、それは一つの例ですが、そういった部分以外でも日本の教育の良かったところが崩れていく

のではないかと危惧しています。——**将来の部活動はどのような形になっていくのでしょうか。**
池田 学校教育の一環としての部活動と社会体育との共存、これは委員会でも考えている将来の部活動の方向性です。この図は検討委員会で最終的な日本の学校スポーツ文化の形としてJFA理事会で承認を受けました(左図)。Aは教育的

側面を重視した部活動、Bは先ほど話した学校部活動の中で競技力を高めようという部活動、Cは地域クラブのように学校外で競技力を高められる部活動を指しています。上に行けば競技力、下に行けば教育の一環ということですね。この中でAは経済格差の解消、教育の機会均等を意味します。これをなくしてしまうと経済的な理由でクラブに行けない子どもが活動できなくなっ

てきます。今でも公立と私立で差が開いてきていますが、家庭の経済力と学力の差が比例するようにスポーツもだんだんと差が開いていきます。BやCがなくなったとしても、Aは学校がある限りは続くでしょう。AとCは現状でも問題なく続いていくでしょう。ただ、Bをどう考えるか。もちろんBは全ての学校がそうである必要はありません。それぞれの学校の特色に合わせて都道府

県にいくつかあればいいのではないかといいことで、このBの形を残しながら、この三つが絡み合った形が日本の将来の部活動の形になることが望ましいと考えています。
※中学校では1972年、高校では73年改訂の学習指導要領から、クラブ活動は特別活動の一領域として必修とされた。その後、2002年に中学校で、03年には高校で必修のクラブ活動は「総合的な学習の時間」に吸収・統合される形で廃止となった。

Interview

福島 隆志 JFA学校部活動検討委員

(日本中学校体育連盟サッカー競技部長)

2018年にスポーツ庁から策定された「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を受けて中学年代の部活動で大きな変化が起きた。福島隆志JFA学校部活動検討委員(日本中学校体育連盟サッカー競技部長)に中学年代の部活動における実情や課題について聞いた。

○電話インタビュー日：2020年3月19日



2018年9月22日撮影

サッカーファミリーをキーワードに 中学年代の課題に向き合う

**活動時間の制限で
公立中学校は厳しい
立ち位置に**

”持続可能“というキーワードに沿う形でガイドラインを実現してきたと思います。

— 中学年代の部活動に変化はありますか。

— 実際に教員の負担は減っているのでしょうか。

福島 公立中学校ではスポーツ庁の出したガイドラインに沿う形で活動しています。導入前は朝練習が文化になっていた地域もありましたが、今では大方の学校で朝練習は廃止されています。“過度な時間を費やさない”、

福島 私は日本中学校体育連盟のサッカー競技部長として、どちらかというとプレイヤーズファーストものを見ようというスタンスで、あえて働き方改革と部活動の活動時間をリンクさせて考えてきませんでした。

— 活動時間が減少したこと
で、けがが少なくなったという
ような報告はありますか。

福島 サッカーの場合は、指導者のライセンス制度が早い時期から整っていて、系統を立てて勉強してきた先生が他の種目よりは多いと思います。今まで

た。JFAの部活動検討委員会では働き方改革に焦点を当ててきましたが、適切な活動時間で部活動を続けようというのは多くのところで定着してきています。現場では肯定的に捉える向きがあり、時間を有効に使うという方向に変わってきていると思います。

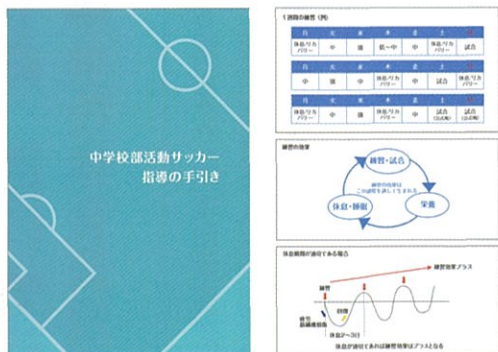
— 土日のどちらかを休むようになったことでリーグ戦にも影響はあるのではないのでしょうか。

福島 リーグ戦が組みにくくなりました。しかし、それは予測できたことです。特に私立中学校では土曜日に授業がある学校も多いので、そうすると日曜日しか試合が組まれません。

「中学校部活動サッカー指導の手引き」の案内

JFAが部活動をサポートするため、2018年7月に作成したハンドブック。「JFAのサッカー部活動に対する考え」「指導上の留意点」など18項目にわたって書かれている。また練習計画を立てる上で活用できる「活動予定表」も掲載。下記からダウンロードができる。

https://www.jfa.jp/coach/physical_training_club_activity/guidance.html



も指導者の裁量の中で、きちんとオフは週一回取るとか、うまく時間のやりくりはできていました。B級スタンダードと言われるように、B級ライセンス取得者がすごく増えてきました。その中で、仮にライセンスを持っていない指導者が自分の近隣の学校にいたら、そういう指導者もサポートしながらみんなまでステップアップしていくという流れがあります。ですから、急にけがが減ったとか、トラブルが減少したということはありません。それはJFAの指導者ライセンス制度

の賜物です。

——「もっと活動したい」という声が増えることで中学校よりクラブチームを選択する生徒が増えていくのでしょうか。

福島 そうですね。それは、中体連で頑張っている生徒の比較対象はクラブチームになります。クラブは活動の時間もスポーツ庁の時間でくくられませんが、だから土曜日に試合をして次の日に遠征に行くことも

チームのほうが多いので、中体連の子からもっとやりたいと声があるのは事実です。しっかりとプランニングした中で活動日数を確保しているクラブチームを選択する選手が増えることはある意味必然的で、それはそれで良いことだと思います。ただ、地域によってはクラブチームに通いにくい子どももいると思います。最近はクラブの数も増えてきましたが、行くのであれば遠方まで足を伸ばさないといけない。そういう地域の子どもは中学校でプレーすることを選択せざるを得ないので、

よりパフォーマンスを発揮できるように大会にしようという動いています。それからJFAがスポーツ庁のガイドラインを踏まえて制作した「手引き」をもっと有効活用する学校が増えてほしいと思っています。今はウェブ上でしか見られないので、手元に冊子であると良いと思います。チームに配布してほ

——中体連としては何かしら手を打つ予定ですか？

はいサッカーをしていました。顧問の菊地洋至先生はガイドラインを十分考慮してトレーニングをとっても効率的に行っていると思います(P11参照)。そういう取り組みをみんなでもっと共有していけば、部活動の中で一定の強化はできるのではないかと思います。

効率的なトレーニングは中学年代全体の流れに

——公立中学校でも効率の良い練習ができればチームの強化は可能でしょうか。

私立でも日章学園や青森山田といったいわゆる強豪校も、当然、公立よりも時間的には長いと思いますが、本当に科学的なトレーニングを行っていますし、そのようなところを

福島 まずは全国中学校サッカー大会(全中)を魅力的な大会にすることです。大会は学校が稼働中の時期にはできないので、夏の長期休暇中に涼しい地域で開催するなど、選手が

福島 そうですね。東京都の荏原第一中学校は昨夏の全中に出場し、初戦で青森山田中学校に敗れましたが、とても良



公立の荏原第一中学校(写真)は効率的な練習で全国大会出場を果たした

公立中学校も学べるというの
かなと思います。

——効率的なトレーニングは時
間の制限がある公立中学校だ
けではなく、中学年代全体の
キーワードになっていくとい
うことですか。

福島 全体でかなり浸透して
きていると思います。中体連の
場合は、私立と公立の先生同士
がすごくオープンに情報交換
しています。指導者のみなさん
と一緒に成長していこうとい
うスタンスです。ガイドライ
ンに沿った公立のトレーニング
を私立にも参考にしていただ
けたらうれしいです。

——話は変わりますが、中学校
ではサッカー未経験の指導者
はどのくらいいるのでしょ
うか。

福島 調査をしたことはあ
りませんが、10校あればサッ
カーを専門とされている指導
者がいるのはだいたい6校く
らいあると思います。それ以
外は専門外の方が見ていま

す。ただ、地域によって差があ
ると思います。

——サッカー未経験で指導者や
審判員ライセンスを持っていな
い先生方への接し方はいかが
でしょうか。

福島 サッカーの場合は、指導
者が未経験者であれば「審判の
割当を押し付けることはしな
いようにしよう」と申し合わせ
ています。それはサッカーの現
場が楽しいと思ってもらえるよ
うにするためです。まずは勉

強して、審判であればまず4級
を取ることをお勧めして、練習
試合を組んだときに一緒にやっ
てみる。そういうコミュニケーション
は取れていますし、どの
都道府県でもすごく大事にし
ていることです。それはやはり
JFAの「サッカーファミリー」
というキーワードが大きいと
思っています。

——これからの課題はどのよう
なことが挙げられますか。

福島 先ほども言いましたが、
まずは全中改革



より魅力的な大会にするために全国中学校サッカー大会の冷涼地開催を目指す。
写真は第50回全国中学校サッカー大会決勝より

です。中学年代
では最高峰の戦
いとして高円宮
杯JFA全日本
U-15サッカー選
手権大会があっ
て、クラブだけ
のクラブユース選
手権(U-15)大会
と中体連の全中
が軸になっていま
す。近年、中体連
のチームで高円宮
杯に行けるチーム
は限られてしまし

たが、クラブユース選手権に負
けない魅力的な全中をつくる
ことは大事です。そう簡単に
はいきませんが、目標にできる
夢舞台はしっかり整えたいと
思います。

あとは毎日の活動の中で、子
どもたちが魅力ある指導者のも
とで主体的にサッカーができる
環境ですね。暴力暴言は今でも
中体連の中でも報告が上がって
きています。まずはそれらをゼ
ロにしていこう。サッカーは
楽しいと子どもたちが思える雰
囲気をつくりたいと思います。

——合同部活動は数が増えて
いると聞きました。

福島 数は増えていますが課
題もあります。合同チームの
場合は、中体連の規定がサッ
カーだけでなく、全種目を通し
ての一律の規定になります。基
本、中体連としての基準は、サッ
カーであれば11人に満たない
学校同士が合同するというの
が原則なんです。それだと救
済できないチームや選手が出
てきます。そこで人数が足りて
いるチームに足りないチームを吸

取させるとか、人数が足りない
チームに足りているチームから
選手を派遣するなど、都道府県
の状況によってローカルルール
を認めています。サッカーは大
丈夫だと思おうのですが、競技に
よっては強化に使うようなこと
が起りうるかもしれません。
中体連としてはなかなかそこ
の規定を緩和できないので、合
同チームがうまく進んでないの
が現状です。

——JFAと中体連の合同チ
ームのルールが異なるのはそう
いう事情があるんですね。

福島 そういうことです。こ
こはなるべくJFAのルールに
変えてもらえないかと意見を
出しています。ただ、いろいろ
な種目の取り組みを考えたと
きに、中体連はある意味、学校
対抗という枠組みがあるので、
そこを簡単に崩せない。崩し
た場合に今の持続可能な部活
動と相反する強化をするよう
な行動など大きな支障がでて
くる可能性があるのです。慎重に
ならざるを得ないという状況
です。

事例紹介 ～ 部活動の形とは ～

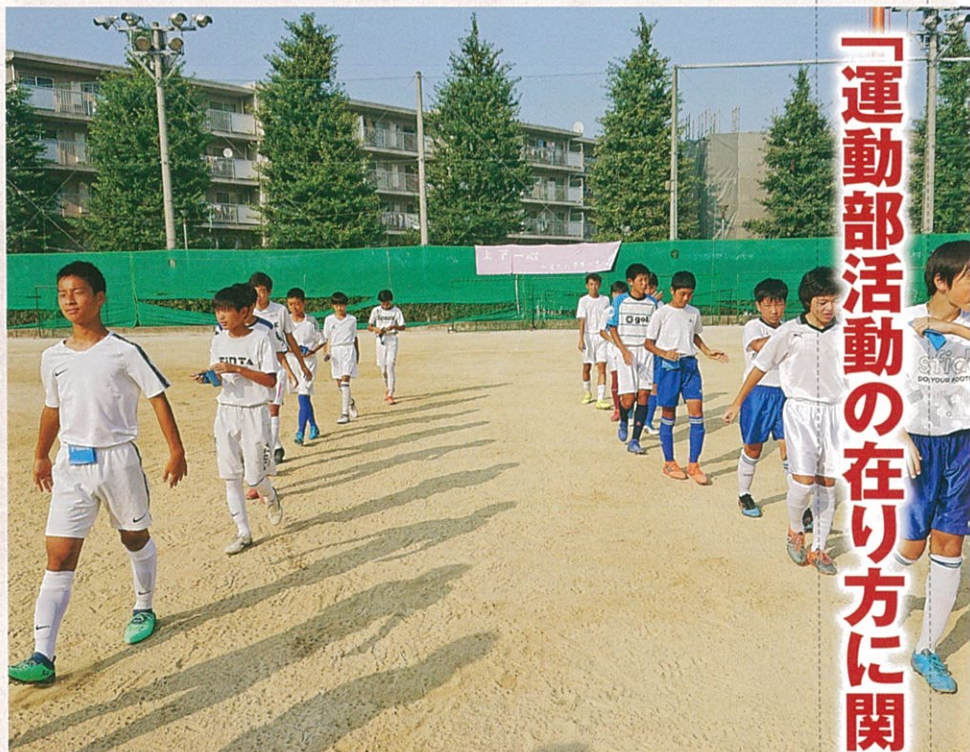
部活動の形は一つではない。地域や環境によってさまざまな課題があり、それぞれに合った取り組みがある。

今回は、「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」に沿った形で活動しながら全国大会に出場した品川区立荏原第一中学校、JFAが作成した「中学校部活動サッカー指導の手引き」を活用している近江八幡市立八幡西中学校、合同部活動として地域の生徒を迎え入れている横須賀フットボールクラブ、学校と地域クラブの連動を実現している幕総クラブの事例を紹介する。

※取材は2m以上の距離を確保し、インタビュアーはマスクを着用して実施

「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」への取り組み

東京都品川区立荏原第一中学校



効率の良いトレーニングだけでなく 周囲の協力や理解が必要

2019年8月、第50回全国中学校サッカー大会に関東代表として出場した品川区立荏原第一中学校は、同年3月にスポーツ庁が策定した「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」に則って活動している。全国大会では一回戦で青森山田中学

公式戦や練習試合を日曜日に実施することが多いが、その場合は土日に練習と試合を行い、平日のオフを一日増やすなど、「週当たり2日以上休養日を設ける」というガイドラインの基準に則して活動している。

主な練習場所は学校のグラウンドだが、他の部活動との併用でサッカー部が独占できるわけではない。ガイドラインでは平日の活動時間は「2時間程度」に設定されている。菊地氏はその中でいかに効率的なトレーニングをするかに腐心している。

「4日のうち2日はグラウンド全面を使えますが、残り2日は野球場と半分ずつ。全面でも縦70m、横45mくらいなので、正式なピッチの半分ほどの広さで練習します。3学年で70人前後の部員がいる中、狭いスペースで効率的な練習ができるように考えています」

菊地氏は全ての部員が多くボールに触られるよう、「DOO（実行）の確保」を意識したメニューを考え、トレーニングに取り入れているという。

「全面のときは部員を4つのグループに分け、グラウンドを4分割して、このグループはポゼッション練習、このグループはシュート練習などとローテーションさせています。半面のときはグラウンドを使わなくてもできる走りのメニューも取り入れますが、走るだけにならないよう、こちらもいくつかのメニューを用意して交代で行います。僕らスタッフも毎回練習に参加できるわけではありませんが、なるべく各グループに配置し、選手たちを声をかけたり、順番待ちをしている部員には「今はどっちの選択肢のほうが良かった？」などと考えさせます。選手同士にもディスカッションさせるように促しています」

菊地氏はもともと「朝から晩まで毎日練習してもパフォーマンスが上がらなければいけないし、休養も必要」という考えを持っていました。その点、適切な休養日を定めたガイドラインは「過度なプレータイムから部員を守るものにもなる」と菊地氏は語る。

一方で、保護者の中で審判員の

資格を持つ人が公式戦の審判や宿泊を伴う大会の引率を買って出ってくれたり、ガイドラインの「生徒のニーズを踏まえたスポーツ環境の整備」に記された「保護者の理解と協力」も部活動を運営する上で大きな要素になっている。「公立中学校として制約がある中、地域と連携しながら取り組んでいるモデルケースとして発信していきたい」という声も保護者の間から出ているそうです。菊地氏は「学校の理解も含め、ありがたいですね」と謝意を示している。



サッカー部顧問の菊地洋至氏

「中学校部活動サッカー指導の手引き」の活用例

滋賀県近江八幡市立八幡西中学校



らない。「中学校部活動サッカー指導の手引き」は、そんなサッカー部の顧問や指導者、あるいは選手にとって有益なテキストとなるように作られたものだ。

滋賀県の近江八幡市立八幡西中学校でサッカー部の顧問を務める福原孝洋氏は、作成された当初から「手引き」を指導に取り入れている。

福原氏は教員となった後に公認C級コーチライセンスを取得。指導者養成講習会で学んだことを生徒の指導に生かしているが、動き方改革の導入によって活動日数、活動時間が制限されるようになり、限られた時間内で行える効果的なトレーニングを探っているときにこの「手引き」の存在を知った。「部には経験者もいれば初心者もいて、女子もいます。その子たちが一緒にできる基本的なメニューやドリル練習を、生徒たちがやりやすい形で行うにはどうすればいいのかを参考にしたいかった」というのが取り入れた理由だ。

「以前は3時間半から4時間、けっこうだらだらと練習してい

て、系統立てたメニューも組めていなかったそうだが、現在は「ウオーミングアップから個人技術、グループ技術、そしてゲームと、流れを意識しながらメニューを組み立てられるようになった」という。

また、1週間のスケジュールにも「手引き」を取り入れた効果が表れている。

「基礎練習に重点的に取り組む日をつくったり、試合前日はゲーム中心にしたり、といったことを意識しています。八幡西中はもともと水曜日の部活動が休みで、週末も基本的には土日どちらかの活動だけになるので、オフ前日は強度の高いメニューを取り入れ、逆にオフ明けは強度を上げないとか、そういったことも考えるようになってきました」

福原氏自身は、「手引き」を参考にするようになったことで「ドリル練習や基本的な技術がどうして必要なのかを以前よりも考えるようになり、限られた時間の中で多くのことを吸収できるメニューを考えたいと思うようになった」という。そうやって考案

したメニューに取り組む部員たちも「楽しそうに練習するようになったし、基本練習で取り組んだことをグループ練習の際に発揮し、こちらの意図に気づいてくれる部員が増えた」と手心えを語る。

「部員たちには、基本技術や判断力をしっかり養い、高校に進学してもサッカーを続けていってほしい」と語る福原氏。「手引き」の導入は、部員たちとサッカーの結びつきにも少なからず影響を与えていきそうだ。

系統立てた練習で選手の考える力が養われた

日本サッカー協会(JFA)が2018年7月に作成した「中学校部活動サッカー指導の手引き」は中学校のサッカー部の顧問や指導者を対象にした手引書で、

選手が安全に無理なく、効果的かつ効率的な活動ができるようまとめたものだ。練習計画の立て方や練習の頻度・強度に関する

考え方、指導の留意点、実際のトレーニングの流れや内容について細かく解説されている。

公立中学校などの場合、サッカー部の顧問にサッカー経験者が就いているとは限らない。また、プレー経験があっても効果的な練習計画やトレーニングメニューを組み立てられるとも限



サッカー部顧問の福原孝洋氏

「選抜」を女子全員の受け皿に

神奈川県中学校体育連盟サッカー専門部・横須賀ブロック



下、横須賀ブロックでは、この状況に二石を投じる活動を行っている。各校から女子選手を集めて選抜強化講習会を開き、女子だけで活動できる場をつくったのだ。

活動の中心となっているのが、

同県の横須賀市立神明中学校サッカー部の顧問を務める熊谷健太郎氏である。熊谷氏は宮城県南三陸町の出身・気仙沼高卒で、24歳で教員になると同時にサッカー指導者のキャリアをスタートさせた。2018年にJFA公認A級U-15コーチライセンスを取得し、7年前から横須賀ブロックのブロック長や神奈川県トレセンコーチも務めている。

熊谷氏はブロック長に就任する際、前任者から「横須賀ブロックの各学校のサッカー部に、女子が2、3人いる。選抜の活動を展開してみたらどうか」と助言を受けたという。

「横須賀ブロックでは、中学サッカーの現状に危機感と夢を持った先生方が20年以上も前から選抜強化講習会を行ってきました。1年生から3年生まで学年ごと

に年度始めに選考会を行い、25〜60人の選手を選出します。年に20回程度、休日に活動を行ってきたのですが、そこに「女子」のカテゴリーを新たに加えることになりました（熊谷氏）

2013年には、浦賀中学校サッカー部が横須賀ブロックから初めて神奈川県代表として全国大会に出場した。また、2020年には、選抜強化講習会に参加していた葉山中学校出身の鈴木唯人選手が市立船橋高校を経て清水エスパルス入りを果たしている。チームでも個人でも目に見える成果が出ている。13年当時、熊谷氏は浦賀中学校サッカー部の顧問兼監督を務めていただけに、部活動や選抜強化講習会の意義を強く感じている一人でもあるのだ。

「横須賀ブロックでは、学校のサッカー部の先生たちが全員、いずれかの選抜チームの指導に携わっています。選抜活動の際には選手たちを指導するだけではなく、指導者同士でも、指導方法や選手個々の状況、横須賀ブロッ



等々力陸上競技場で行われた3地域合同による神奈川県中学女子フェスティバル。良い環境でプレーできるとあって、選手たちも笑顔だった

選抜強化講習会が現状共有の場所

幼い頃からサッカーをしてきた少女たちにとって、中学校進学はサッカーを続けるかやめるかの判断を迫られる一つの転機となる。フィジカル面で明確な男女差が出てくるこの時期、女子だけでプレーできる環境は限られ

ている。そのため、ボールを蹴り続けることを決断した女子選手も多くは、男子と同じチームで活動を続ける。しかし、男女間で身体能力の差が表れる中学2年生、3年生になったとき、彼女たちがレギュラーとしてピッチに立つのは、容易なことではない。

神奈川県中学校体育連盟サッカー専門部・横須賀ブロック（以

クの育成コンセプトを共有し、知見を深め合ってきました」と、指導者のボトムアップにもつながっていることを強調する。

上達させたいけれど、まずは場をつくること

横須賀ブロックにはベースとなる選抜強化講習会の仕組みがあったが、女子チームの指導に関してはそれがなかった。そこで

女子選抜の初代監督を務めることになった熊谷氏は、各地に赴いてJFAナショナルトレセンなどの活動を見学した。「女子に携わっている指導者のコーチングは驚きでした。選手への接し方が柔らかく、丁寧。練習後のさりげないアプローチもすごく勉強になりました」と、ナショナルトレセンコーチの指導からノウハウを学んだ。

こうして14年、横須賀ブロックで女子選抜の活動がスタートした。

男子の場合は文字通り選手を「選り抜く」が、女子は総数が30名未満であるため、参加意思のある選手は全員が参加できる。熊谷氏は女子選抜の活動について「もちろん上達させたいけれど、まずは場をつくること」と、強化以上に育成や普及を重視している。「女子同士がプレーできる場を設けることで、純粹にサッカーと向き合える場をつくってあげたい」と思った。1年目に希望者を募って23人でスタートしたときは規律を徹底することから始めました」

熊谷氏の言う「規律」とは、集合時間を守る、忘れ物をしない、あいさつや返事をするといった基本的なこと。それは、ピッチ外

だけではなく、ピッチ内にも及んだ。

「中には思いをうまく表現できない子もいます。プレーがうまくいかなければ、イライラしたり、前向きになれなかったり。もちろん、技術面の指導もしますが、最も強調したのは『年齢は関係なく、こうして集まっているからには元気に、前向きに、みんなやっつけよう』ということですよ」

それまで所属するチームでは試合に出場できなかった女子が、選抜チームでピッチに立つことで新たな役割を担う。選抜の活動では、普段は男子に遠慮していた上級生の女子が下級生を引っ張り、下級生が上級生を支えるような姿も見られるようになったという。そして、チームに戻ってから、女子の選手たちがそれまで以上に積極的にチームに関わる姿が見られるようになった。「所属するチームでは(3年生になると、女子選手はベンチに入ることが多くなります。それでも努めて男子に声をかけたリ、ウォーミングアップを入念にやったり、そういう姿を見て『女子部門を設けて良かった』と思いました」と熊谷氏は語る。

これまで6年間にわたってこの活動を続けてきたことで、女子

のベースアップにつながっている。

「少子化の影響を受けてサッカー部に入部する子ども数が減少し、男子の活動自体が縮小している影響もあるかもしれない」と前置きした上で、「女子選手が自分のチームに戻ってからも、試合に出るケースが目立つようになってきました。中にはチームの攻撃の起点になるような選手もいます。同時に、男子選手も感化されたり、先生方の指導力の向上につながっています」と熊谷氏は言う。

自分のビジョンを いかに周りに広げるか

成果が出ている一方、課題も見えてきた。それは、中学生年代での女子サッカーの普及率が低いことだ。実際、神奈川県の中学校地域で女子選抜の活動をしているのは、8地域中4地域であり、選抜チームを結成できたとしても、彼女たちが戦う公式戦の場が整備されていない。

中学年代で女子サッカーが行われていることを認知してもらうために、中学生の県大会が地元・横須賀で行われるときには、男子の試合の合間に女子チーム

のエキシビジョンマッチや女子選抜の練習を組み込み、指導者や保護者へのアピールを続けた。

こうした活動の甲斐あって、女子選抜がまだないブロックの、数名の女子が所属している中学校から横須賀ブロックの選抜練習会に参加の打診があり、合同練習が実現したケースもある。それでも全体としての認知度や活動率はまだまだ低いのが現状だ。

「男女に関わらず、神奈川県全体の『中学』の活動をより活性化させたい。神奈川県全ての地域で『部活動』を選んでくれた男子はもちろん、女の子たちにもサッカーに集中でき、楽しめる環境をつくってあげたい。それをベースにして少しでも日本代表につながっていく選手が出てきてほしい(熊谷氏)」

女子選手を育成するためには、男性はもちろん、女性の指導者の増加も望まれる。日々の練習や遠征はともかく、ピッチ外でも女子に寄り添うことができる女性の引率者が必要になってくるからだ。

女子の選抜活動を始めるようと考えている地域へのアドバイスとして、熊谷氏は「人材」の重要性を

説く。

「横須賀ブロックでは、同じブロック内の中学の指導者や先輩方から『一緒にやろう』とお願いいただきました。仲間として共に活動してくれる先生たちの存在が本当に大きかったです。決して一人ではできない。感謝しています。いかにビジョンや夢、志を多くの先生たちに広げて『共鳴』していただけるか。これは女子サッカーの発展に限らず必要な要素だと思います」

中学年代の女子選手たちは、なかなか自分たちに合った活動の場を得られない。それでもサッカーをプレーすることを選ぶ彼女たちに適した場所をつくるためには、個々の思いのほかにも周囲の理解と協力が不可欠なのだ。



横須賀ブロック長を務める熊谷健太郎氏。2011年の東日本大震災で故郷が被災したが、「被災地でもサッカーが人々に与える力の大きさを実感した」と語る

「クラブ十学校」で最高の環境を



NPO法人幕総クラブ

サッカーは、11人からなる二つのチームがプレーする競技であり、試合に登録されなかった選手たちは、スタンドから仲間を応援することになる。ヨーロッパで長きにわたって活躍している長友佑都選手が明治大学時代にスタンドで太鼓を叩いていた話はつとに有名だが、ポ



テンシャルを秘めている選手にプレーする場所、成長する機会を与えられていない実情は他にもあるかもしれない。

千葉県の幕張総合高校も、多くのサッカー部員を抱えており、以前はなかなか全員にプレーする機会を与えることができなかった。その打開策として島田洋氏（現、千葉県サッカー協会ユースダイレクター）は、幕張総合高校サッカー部の顧問を務めていた2012年に「FC MAKUHARU」を創設した。「幕張総合高校サッカー部の部

実戦で得られる経験値は練習より圧倒的に大きい

海外から日本を訪れる指導者の多くが日本に総合型スポーツクラブがないことに驚く。子どもたちがどのようにスポーツに取り組むのか疑問を抱くそう

だ。しかし、部活動の存在を知ると、日本にも子どもたちがスポーツのできる場所があることを理解する。元日本代表監督のイビチャ・オシム氏も、日本の部活動のすばらしさを称えた一人だった。

とはいえ、部活動にも課題はある。例えば、1学年に数十人の部員が集まる強豪校では、プレーの機会が平等に与えられないことがこれまでも問題視されてきた。

員数が1学年で60人まで増えて、合計180人ほどになったんです。県リーグに複数のチームが出場することはできなかったのですが、全員を公式戦に出場させてあげたかった。そのためには別チームをつくる必要がありました。クラブチームの活動に参加しながら、試合を数多くできる経験をさせてあげたかったです」

島田氏が公式戦にこだわったのは、選手が実戦で得られる経験値が練習と比べて圧倒的に大きいと感じていたからだ。勝利と

いう目標に向かうことで、日々の取り組みも真剣さが増す。また、試合で自信を得られたり、新たな課題を見つかったりすることができ、その後の成長曲線は全く異なるものになる。

クラブチームを立ち上げる前の段階で、島田氏は総合型スポーツクラブ「幕総クラブ」というNPO法人を立ち上げていた。幕総クラブでは、幕張総合高校サッカー部のOBを中心とする社会人選手が活動しており、地域の子もたちにサッカー教室も開いていた。そのチームを母体に高校生年代のチームをつくることにしたのだ。日本クラブユースサッカー連盟の規定には、「複数の学校の選手が所属していなければならない」という項目があったが、幕総クラブには当時から早稲田高校の選手が参加していたこと、さらにNPOとして地域の貢献活動をしてきた実績があったため、「FC MAKUHARU」を無事にスタートさせることができた。

**FC MAKUHARI 創設で
選手に選択肢が生まれる**

FC MAKUHARI が立ち上がったことにより、幕張総合高校にもメリットが生まれた。学校の活動では教員の負担が増え、NPO 法人の活動には教員以外の指導者もかわるようになる。また、使われていなかった学校のグラウンドやさまざまな設備を有効に活用することにもつながる。

公営のスポーツクラブでサッカーをするには一定の費用がかかる。一方で、公立でも放課後にグラウンドを貸して活動しているのは、千葉県でも幕張総合高校くらい。学校はその時間の運営を民間に委託して、そこで得た利益を部活動の経費に充てるなどしているという。島田氏は「グラウンドを民間に開放することで、地域の人々にとっても学校が身近な存在となり、その学校の PR にもつながると語る。

今度こそ、地域で知名度が高くなった FC MAKUHARI だが、活動をスタートした頃は選手たちが高校2年生、3年生に進級する際、どっちかでプレーするかの意思は個々に確認していた。高



FC MAKUHARI でプレーする選手たちにとって最大のメリットは、選択肢があること。さまざまな形でサッカーに関わることができる

サッカー部で活動を続けるか、試合に出られる可能性が高い FC MAKUHARI で活動するかを選択する。

「2年生のときに FC MAKUHARI で活動した生徒が、3年生になるタイミングで再び高体連のサッカー部に戻った例もあります。逆に3年生になる時に FC MAKUHARI を選ぶ選手もいます。より多くの選択肢を与えられることができているのかなと感じています」

FC MAKUHARI の活動を始めた当初は、選手たちがどのような反応を見せるか不安もあったという島田氏だが、それは杞憂(きゆう)に終わった。「高体連で試合に出場できなかった選手が FC MAKUHARI で公式戦の経験を積み、レベルアップしていく姿を目の当たりにしました。幕張総合高との合同練習の際に紅白戦をしても、良い勝負をしたりするわけです。『環境が選手のレベルを上げるんだ』と1年目から感じました」と、選手たちの成長スピードが上がっていることに驚かされた。

また、保護者にとっても自分の子どもを応援する機会が増えたことで、サポートがより手厚く

なった。少子化の影響を受けて FC MAKUHARI の入部希望者が少なくなったときも、父母会から「この活動は重要だから、継続できるように支援しよう」という声が上がったという。

**日本には学校がある
その環境を活用すること**

今年から FC MAKUHARI は、近隣の学校の生徒にも門戸を開くことにした。「全ては難しいですが、ある程度は子どもたちが求めるサッカーを提供する。そういう環境をもっとつくってあげたいと思っています」と、島田氏は言う。

FC MAKUHARI の活動がモデルケースとなり、学校とクラブチームが共同する事例が増えていくことも願っている。

「Jリーグでは、柏レイソルが、私たちのやり方を参考にしている。大柏高校と連携しています。ほかに、われわれをモデルケースにしているチームがいくつか出てきていて、考え方は広まっています。学校にとっても、宣伝効果があると思いますし、こうした活動を通じて『あの学校に行きたい』と思ってもらうことも大切でしょう。ヨーロッパに地域に根

差したスポーツクラブがあるように、日本には学校があります。その環境を積極的に活用することが、今後の日本サッカーの普及と強化につながると思います」

2020年から、幕張クラブのトップチームはNPO法人から独立して活動していくことになった。現在、千葉県2部リーグに所属するこのチームを強化していくことで、「町のクラブとして人々が自然と集まってくる場になればいいと思います。欲を言えば、将来的には日本フットボールリーグ(JFL)に参入し、幕張クラブで選手を育ててプロにも輩出できるようなクラブになれたらいいと思っています」と島田氏は言う。

2020年4月には、「高円宮記念JFA夢フィールド」が千葉県に完成し、運用が開始される。日本サッカー界の新たな拠点からほど近いところで活動している幕張クラブにとって、各年代の日本代表チームの存在が間近になり、刺激を受けるだろう。今後も民間のスポーツクラブと学校がリンクして活動するモデルケースとして、選手が平等にサッカーをできる環境を創出していく。

新型コロナウイルス感染拡大防止に向けたJFAの取り組み 5月末までJFA事業を中止／延期

JFAは2月以降、新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた徹底した予防策を講じてきた。

2月25日に政府から「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」が発表されたのを受け、2月27日から在宅勤務（リモートワーク）に移行することを決定。JFA主催の会議・イベントなどについてはその必要性を慎重に再検討した上で、原則として延期・中止にすることを決めた。

2023年のFIFA女子ワールドカップの招致活動などのため、2月下旬からヨーロッパとアメリカを歴訪していた田嶋幸三会長が3月8日に帰国。9日後の17日に田嶋会長から新型コロナウイルスの陽性反応が出たことから、JFAは、3月14日の理事会に出席した役員とオブザーブした職員らのその日の行動履歴を確認し、濃厚接触者と判定された者に対して保健所からの指導で2週間の自宅待機と健康状態の観察を行った。また、JFA全役職員、契約職員／派遣職員、コーチングスタッフに対しても活動を自粛するよう要請し、同じく、JFAハウスに事務所を置く各連盟、企業、団体の役職員の健康状態の確認と経過観察を要請する

など必要な措置を取ることにした。

3月20日にはJFAハウスの11階、10階、4階、3階、1階、B1階の全てと、7階、6階のJFA専用部と共用部、9階、8階の共用部、エレベーター内の消毒作業を行った。また、在宅でのリモートワークも4月10日まで延長することを決め（その後、5月6日まで延長することが決まった）、3月29日の定時評議員会と同日の理事会は初めてウェブ会議システムを利用して行われた。

なお、感染者数の急増に伴って医療体制もひっばくしており、4月に入ってから政府から「今がまさに国内の急速な感染拡大を回避するために極めて重要な時期」という見解が連日にわたって示され、4月7日には緊急事態宣言が発令されることが決まった。JFAはこの状況に鑑み、5月末まで全ての主催事業（トレーニング、講習会、研修会、視察等を含む）を延期、または中止とすることを決定した。6月以降の対応についても、政府の発表や厚生労働省の新型コロナウイルス感染症対策専門家会議の提言などを受け、5月上旬にあらためて検討することとした（4月10日時点）。

JFAアカデミー福島・熊本宇城・堺・今治の卒校式を中止 ※2月27日・28日発表

JFAはJFA アカデミー福島および熊本宇城、堺、今治の卒校式を中止することを決定した（福島・熊本宇城は2月27日、堺・今治は同28日に発表）。

新型コロナウイルスに関して、国内での健康被害を最小限に抑える上で極めて重要な時期である、という政府の対策基本方針が発表されたことを受けての判断となった。

【実施概要】※中止

■JFAアカデミー福島9期生卒校式

開催日時：2020年3月2日（月）13:30～

開催場所：御殿場高原時之栖・御殿場高原ホテルB.U

出席者：福島県・静岡県関係者、福島県・静岡県サッカー協会関係者、学校関係者、JFA関係者（須原清貴専務理事・今井純子女子委員長）等

■JFAアカデミー熊本宇城9期生卒校式

開催日時：2020年3月14日（土）10:00～

開催場所：宇城市小川総合文化センター

出席者：熊本県・宇城市関係者、熊本県サッカー協会関係者、学校関係者、JFA関係者（岩上和道副会長）等

■JFAアカデミー堺6期生卒校式

開催日時：2020年3月13日（金）15:00～

開催場所：J-GREEN堺クラブハウス

出席者：堺市関係者、大阪府サッカー協会関係者、学校関係者、JFA関係者（今井純子女子委員長）等

■JFAアカデミー今治3期生卒校式

開催日時：2020年3月17日（火）14:30～

開催場所：今治市朝倉公民館

出席者：今治市関係者、愛媛県サッカー協会関係者、学校関係者、JFA関係者（岩上和道副会長・手塚貴子女子副委員長）等

なでしこジャパン

MS&ADカップ2020と国際親善試合を中止 ※3月13日、4月2日発表

JFAは、4月11日（土）と7月16日（木）に開催予定だったなでしこジャパン（日本女子代表）の「MS&ADカップ2020」と、6月に予定してい

た国際親善試合の開催中止を決定した。さまざまな状況を考慮し、関係者と協議を重ねての決定となった（3月13日および4月2日発表）。

【中止を決定した試合】

■MS&ADカップ2020

対戦：なでしこジャパン(日本女子代表)対 ニュージーランド女子代表
日時：2020年4月11日(土)15:00キックオフ(予定)
会場：宮城/ユアテックスタジアム仙台 ※3月13日発表

対戦：なでしこジャパン(日本女子代表)vs 対戦国未定
日時：2020年7月16日(木)キックオフ未定
会場：京都/サンガスタジアム by KYOCERA ※4月2日発表

■国際親善試合

対戦：なでしこジャパン(日本女子代表)vs 対戦国未定
日時：2020年6月6日(土)or 7日(日)キックオフ未定
会場：栃木/カンセキスタジアムとちぎ ※4月2日発表

東京オリンピック・パラリンピックが延期

※3月24日発表

3月24日、安倍晋三首相と国際オリンピック委員会(IOC)のトーマス・バッハ会長が電話会談を行い、2020年夏に開催予定だった東京オリンピック・パラリンピックの1年程度の延期を合意、後に行われたIOC臨時理事会でこれが正式に承認された。

この東京オリンピック・パラリンピックの延期決定を受けて、U-23日本代表の森保一監督となでしこジャパンの高倉麻子監督が次の通り、コメントを発表した(3月24日発表)。

【東京オリンピックに関する監督コメント】

■森保一 U-23日本代表 監督

人々の命と健康があってこそそのオリンピックだと思っています。延期になったとしても、大会までの一回一回の活動に最善を尽くすことに変わりはありません。各活動を充実させて、東京オリンピック開催時によりパワーを持って臨めるよう、これまで積み重ねたものをさらに積み上げていきます。

世界中の人々に平穏で当たり前の日常生活が戻るよう、この状況が収

束を迎えることを願っています。選手・スタッフをはじめ、開催準備のために多くの方がご尽力されてきたと思いますが、今後とも、粘り強く、大会成功に向けて共に頑張っていきたいと思います。

■高倉麻子なでしこジャパン監督

スポーツに人生をかけることができるのも、またそれを応援し、楽しむことができるのも、世界の平和と人々の健康があってこそです。東京オリンピックの開催延期を受けて、選手それぞれの心に動揺はあると思いますが、チームはこれまで通り、粛々と揺るぎなく成長していくこと、頂点を目指すことだけを考えて、与えられた時間を最大限生かして前進していきたいと思っています。新型コロナウイルスで苦しんでおられる方々が回復され、世界中の人々が笑顔で平和の祭典であるオリンピックを迎えられることを願っています。

FIFA eネーションズカップ2020 JFA予選を中止

※3月30日発表

JFAは、「FIFA eネーションズカップ2020 JFA予選」の中止を決定した(3月30日発表)。

同大会は、サッカーe日本代表選手を決定する大会として、当初の日程(3月8日)を延期して実施する方法を模索していた。しかし、新

型コロナウイルス感染予防に対するさまざまな状況、また、大会のレギュレーション、スケジュール、参加する選手や全てのスタッフの健康を第一に考え、関係者らと協議を重ねた結果、開催を断念することとなった。

6月のFIFA ワールドカップカタール 2022 アジア 2 次予選兼 AFC アジアカップ中国2023 予選が開催延期

※4月1日発表

JFAとタジキスタンサッカー連盟、キルギスサッカー連盟は、6月に開催予定だったFIFAワールドカップカタール2022アジア2次予選兼AFCアジアカップ中国2023予選の2試合を延期することを決定した。3月9日付でアジアサッカー連盟から3月と6月のFIFAインターナショナルマッチウィークに開催される同大会について、開催延期を前提に各協会間で決定することの提案があったことを受け、JFAと両協会と協議を重ね、試合に関わる全ての方々の健康を最優先に考えて延期を決めた(4月1日発表)。

【中止を決定した大会】

日時：2020年6月4日(木)キックオフ時間未定
対戦：SAMURAI BLUE(日本代表)対タジキスタン代表
会場：兵庫/ノエビアスタジアム神戸

日時：2020年6月9日(火)キックオフ時間未定
対戦：SAMURAI BLUE(日本代表)対キルギス代表
会場：大阪/パナソニック スタジアム 吹田

U-16 インターナショナルドリームカップ 2020 JAPANを中止 ※4月2日発表

JFAは、新型コロナウイルスの感染予防に対する現在の状況に鑑み、6月7日(日)から14日(日)に予定していた「U-16インターナショナルドリームカップ2020JAPAN」の開催を中止することを決定した。同

大会は2015年に創設されたU-16世代の国際大会で、U-16日本代表を含む4カ国の代表チームが参加し、毎年開催されていた(4月2日発表)。

高円宮杯 JFA U-18サッカープレミアリーグ2020開幕延期 ※4月3日発表

JFAは4月18日(土)に延期した「高円宮杯 JFA U-18サッカープレミアリーグ2020」の開幕をさらに延期することを決定しました。新型コロナウイルスの流行状況を考慮し、試合に関わる全ての方々の健康

と安全を最優先とした上での決定となった。開幕時期は決定次第、発表する。

天皇杯 JFA 第100回全日本サッカー選手権大会の開幕延期 ※4月7日発表

JFAは5月末までに主催する全ての会議・イベント・競技会などの事業を原則として延期・中止することから、5月23日(土)・24日(日)より開催予定だった「天皇杯 JFA 第100回全日本サッカー選手権大

会」の1回戦を延期することを決定した。なお、各都道府県代表決定期限を5月10日(日)までとしていたが同様に延期する。

日本サッカー協会

JFAハウス、高円宮記念JFA夢フィールドを禁煙

JFAは3月31日、一部改正された健康増進法の2020年4月からの全面施行にあたり、JFAハウス(東京都文京区)と高円宮記念JFA夢フィールド

(千葉県千葉市)の敷地内を全面禁煙とすることを発表した。

2020年JFA・Jリーグ特別指定選手

JFAは下記選手を「2020年JFA・Jリーグ特別指定選手」として認定した。

【2020年JFA・Jリーグ特別指定選手】

選手 : 榊山 諒乃介(かばやま りょうのすけ)

ポジション : MF

生年月日 : 2002年9月17日

身長/体重 : 171cm / 68kg

所属元 : 興国高校

所属歴 : SSクリエイト⇒RIP ACE SOCCER CLUB

受入先 : 横浜F・マリノス

認定日 : 2020年2月27日

選手 : 田川 知樹(たがわ ともし)

ポジション : GK

生年月日 : 2002年9月18日

身長/体重 : 180cm / 74kg

所属元 : 興国高校

所属歴 : 大阪市ジュネッサFC ⇒ 大阪市ジュネッサフットボールクラブ

受入先 : 横浜F・マリノス

認定日 : 2020年2月27日

選手 : 真瀬 拓海(ませ たくみ)

ポジション : DF

生年月日 : 1998年5月3日

身長/体重 : 175cm / 70kg

所属元 : 阪南大学

所属歴 : 南市川JFC⇒JSC CHIBA⇒市立船橋高校

受入先 : ベガルタ仙台

認定日 : 2020年3月4日

選手 : 青木 義孝(あおき よしたか)

ポジション : DF

生年月日 : 1998年9月2日

身長/体重 : 175cm / 73kg

所属元 : 拓殖大学

所属歴 : 八王子CBXフットボールクラブ⇒FC町田ゼルビアジュニアユース⇒FC町田ゼルビアユース

受入先 : FC町田ゼルビア

認定日 : 2020年2月27日

選手 : アビアタウィア 久(あびあたういあ ひさし)
 ポジション : DF
 生年月日 : 1998年10月18日
 身長/体重 : 191cm / 83kg
 所属元 : 流通経済大学
 所属歴 : 愛知フットボールクラブU-12⇒愛知フットボールクラブ
 U-15⇒東邦高校⇒流通経済大学ドラゴンズ龍ヶ崎
 受入先 : ベガルタ仙台
 認定日 : 2020年3月19日

選手 : 大久保 智明(おおくぼ ともあき)
 ポジション : MF
 生年月日 : 1998年7月23日
 身長/体重 : 170cm / 62kg
 所属元 : 中央大学
 所属歴 : ビートル11⇒東京ヴェルディジュニア⇒東京ヴェルディ
 ジュニアユース⇒東京ヴェルディユース
 受入先 : 浦和レッズ
 認定日 : 2020年3月19日

選手 : 高木 友也(たかぎ ゆうや)
 ポジション : DF
 生年月日 : 1998年5月23日
 身長/体重 : 175cm / 70kg
 所属元 : 法政大学

所属歴 : パディーサッカークラブ⇒パディージュニアユース⇒法政
 大学第二高校
 受入先 : 横浜FC
 認定日 : 2020年3月19日

選手 : 根本 凌(ねもと りょう)
 ポジション : FW
 生年月日 : 2000年2月3日
 身長/体重 : 183cm / 83kg
 所属元 : 鹿屋体育大学
 所属歴 : 茅ヶ崎小和田F.C.⇒シュートJrユースFC⇒上田西高校サッ
 カー部
 受入先 : 湘南ベルマーレ
 認定日 : 2020年3月24日

※JFA・Jリーグ特別指定選手: サッカー選手として最も成長する年代に、種別や連盟の垣根を越え、「個人の能力に応じた環境」を提供することを目的とした制度。全日本大学サッカー連盟、全国高等学校体育連盟サッカー部、またはJクラブ以外の大学運営(学校法人)のチームに所属する学生選手、もしくは日本クラブユースサッカー連盟の加盟チームの所属選手を対象にJFAが認定した選手に限り所属チーム登録のまま、Jリーグ等の試合に出場可能となる。

2020年JFA・なでしこリーグ特別指定選手

JFAは下記選手を「2020年JFA・なでしこリーグ特別指定選手」として認定した。

【2020年JFA・なでしこリーグ特別指定選手】

選手 : 小暮 千晶(こくれ ちあき)
 ポジション : GK
 生年月日 : 1999年3月12日
 身長/体重 : 168cm / 56kg
 所属元 : 神奈川大学
 所属歴 : FCフェニックス館林⇒AC館林フェリス⇒前橋育英高校

受入先 : ニッパツ横浜FCシーガルズ
 承認日 : 2020年2月21日

※JFA・なでしこリーグ特別指定選手: サッカー選手として最も成長するユース年代に組織や連盟等の垣根を越え、「個人の能力に応じた環境」を提供することを目的とした制度。2020プレナスなでしこリーグ(1部・2部)に加盟していないチームに所属する各年代の日本女子代表選手、またはそれに準ずるレベルの選手の中からJFA女子委員会の認定を受けた選手が、所属チーム登録のまま2020プレナスなでしこリーグ加盟チームで活動し、さらにその試合に出場することができる。

Jリーグ

2020 Jリーグ明治安田生命 Jリーグ および Jリーグ YBC ルヴァンカップ の開催延期

Jリーグは、新型コロナウイルスへの感染予防および拡散防止のため、2020明治安田生命 Jリーグ および 2020 Jリーグ YBC ルヴァンカップ の開催延期を決定。3月12日時点では4月3日の再開を目指していたが、3月25日には4月3日以降に開催予定だったJ1第7節～第12節とJ2第8節～第12節、J3第5節～第6節、ルヴァンカップグループステージ第4節～第6節

の開催延期、4月8日には4月25日以降に開催予定だったJ1第13節～第15節とJ2第13節～第17節、J3第7節～第10節、ルヴァンカッププレーオフステージ第1戦試合の開催延期をそれぞれ発表した。5月30日以降の試合開催については、感染拡大の状況などを鑑みて判断する予定となっている(4月8日時点)。

2020シーズンの大会方式を変更し、特例ルールを適用

Jリーグは、3月19日の臨時実行委員会で2020明治安田生命Jリーグの全カテゴリーでの「昇格あり」「降格なし」の特例ルール適用を決定した。3月17日の理事会では、同実行委員会の総意により決定されることを条件に承認されていた。村井満Jリーグチェアマン（JFA副会長）は「今後、さまざまな困難が想定されるが意志をもってサッカーを続けよう、というのが一番の思い。今後、公式試合が再開された場合において、ホームスタジ

アムの利用頻度や試合日程の過密状況、アウェイゲームやホームゲームの連戦格差など、競技の不正が生じた場合でも降格リスクを回避することで、サッカーを継続していくことを実行委員の皆さまと合意した」とコメント。特例ルールでは、J1に昇格はなく、J2はJ1に2クラブが昇格、J3はJ2に2クラブが昇格する（条件を満たさない場合は昇格クラブ数に変動あり）。



サッカーファミリー復興支援金

日本サッカー協会（JFA）は、東日本大震災で被災した地域のサッカーファミリーが、これまで通り、サッカーを楽しむことができるよう、サッカー環境の復興を目的に「サッカーファミリー復興支援金」口座を開設しています。集まった復興支援金は、運用細則に基づいて運用されます。

銀行口座 三菱UFJ銀行（0005） 渋谷支店（135）
普通預金 口座番号0290451 公益財団法人日本サッカー協会
サッカーファミリー復興支援金口座
※ご利用金融機関が設定する振込手数料はご負担願います。

「暴力等根絶相談窓口」を設置しています

日本サッカー協会（JFA）は、サッカーの活動現場における組織的または個人的な暴力行為の早期発見と是正および再発防止を目的に、「暴力等根絶相談窓口」を設置しています。

設置場所：公益財団法人日本サッカー協会
利用方法：【電話】050-2016-1990、【FAX】03-3830-2005
※FAXの場合は、日本サッカー協会の公式Webサイト（www.jfa.jp）より、所定の用紙をダウンロードし、必要事項を記入してお送りください。
利用時間：平日10:00～15:00（土日祝・年末年始除く）

JFA加盟登録かわら版

プライバシーポリシーを変更

この度、JFA ID、KICKOFF、JFAスクエアに関わるサイト（以下、本サイト）のプライバシーポリシーを変更致しました（改訂日：2020年2月12日）。変更点は次の通りです。

・【1. 登録情報の取得、管理及び利用主体】

以下の下線太字部分を追記しました。

登録情報は、以下に従って、公益財団法人日本サッカー協会をはじめとする地域・都道府県サッカー協会、公益社団法人日本プロサッカーリーグ、一般社団法人日本フットボールリーグ（Jリーグ）、Jリーグ所属クラブ、一般財団法人日本フットサル連盟およびその他公益財団法人日本サッカー協会定款第6条に規定する加盟団体、国際サッカー連盟（FIFA）、並びにアジアサッカー連盟、東アジアサッカー連盟およびその他FIFAに加盟する各国協会（以下総称して「サッカー協会グループ」といいます）によって共同で利用されます。

・【2. 登録情報の取得と利用の目的】

以下の下線太字部分を追記・訂正しました。

※下記に加え、カッコ内の数字が一部変更されています。

(2)主催大会、講習会、試験等の開催案内、サッカー協会グループおよびサッカー協会グループ協賛企業の商品やサービス、キャンペーンのご案内、その他登録者にとって有益と思われる情報の送付

(5)国内外の選手登録および移籍手続き

(8)当協会および当協会協賛企業の商品・サービスの提供

(14)メールマガジンの配信

(15)サービス改善、登録者調査のためのアンケートの実施

・【6. 登録情報の開示、訂正、削除、利用停止等】

以下の下線太字部分を追記しました。

本ポリシーへの同意をもってメールマガジンその他のJFAが登録者にとって有益と思われると判断した情報の提供についても同意したものとみなします。もともと、JFAが登録者にとって有益と思われると判断した内容においても、直接的に登録管理とは関係のないチケット優待及びプロモーションなどキャンペーンメールの受信を希望されない場合、送付されるキャンペーンメールの末尾のリンクから、当該情報の配信をいつでも中止することができます。

なお、プライバシーポリシーの全文は以下よりご確認ください。

<https://jfaid.jfa.jp/html/privacy.html>





公益財団法人日本サッカー協会 2020年度第3回理事会／第4回理事会

公式URL: <https://www.jfa.jp/>

日本サッカー協会（JFA）は2020年3月14日、2020年度第3回理事会を東京都文京区のJFAハウスで開催した。決議、報告された事項は、下記の通り。なお、第4回理事会は3月18日に書面を実施された（決議事項：定時評議員会 開催）。

決議事項

- | | |
|--|----------------------|
| 1 定時評議員会 開催…………… P22 | 4 各種規則 改正…………… P23 |
| 2 天皇杯 JFA 第100回全日本サッカー選手権大会 競技会形式変更… P22 | 5 役員等予定者 選出…………… P23 |
| 3 選手の用具に関する運用緩和…………… P22 | |

定時評議員会 開催

下記の通り、定時評議員会を開催する。 ※詳細は28～32ページ参照

- 開催日時：2020年3月29日（日）13:00～
- 会場：高円宮記念JFA夢フィールド（千葉県美浜区美浜11）
※ウェブ会議システムを用いて、遠隔地からの出席を可能とする。
- 議題：決議事項
(1) 評議員3名 選任の件

- (2) 理事28名、監事3名 選任の件
- (3) 役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規則 改正の件

報告事項

- (1) 理事会で選定・選出する役員等予定者の件
- (2) 2019年度 事業報告・決算の件

天皇杯 JFA 第100回全日本サッカー選手権大会 競技会形式変更

天皇杯 JFA 第100回全日本サッカー選手権大会の大会形式全体を見直したい。今回の見直しの主たる背景は、新型コロナウイルスの感染拡大防止対応によってリーグ戦等が延期されていることから、大会形式の見直しにより、J1、J2チームの天皇杯出場日程を緩和し、当初予定されていた天皇杯大会日程をリーグ戦等に利用できる機会を提供するものである。同時に、ナショナルカップとしての天皇杯の価値を毀損しないことを担保した。

なお、今回の見直しは第100回大会に限定するものであり、第101回大会以降の大会形式の設計への影響はない。

なお、本議案の理事会上程にあたっては、事前に天皇杯実施委員に個別連絡し事前承認を得ており、3月18日開催予定の第2回天皇杯実施委員会にて追認予定。

競技会形式（変更後）：

- 8回戦制（現行より1回戦増）
- 88チーム出場（現行の出場チーム枠のまま）

※主な変更点

- ① 現行のラウンド16（4回戦）の開催日・予備日を活用し、5回戦を追加設定（8回戦制）
- ② J1・18チーム：4回戦（R32）より出場

- ③ J2・10チーム（昨年順位1～10位）：3回戦より出場
 - J2・12チーム（昨年順位11～22位）：2回戦より出場
（J1・J2は通常2回戦から出場のところ、なるべく上位回戦からの出場）
- ※アマチュアシード・都道府県代表は、1回戦から出場

日程：

- 1回戦 5月23日（土）・24日（日）
- 2回戦 6月10日（水）
- 3回戦 7月8日（水）
- 4回戦 8月19日（水）
- ラウンド16（5回戦） 10月14日（水）
- 準々決勝 11月3日（火祝）・4日（水）
- 準決勝 12月19日（土）
- 決勝 1月1日（金祝）

※今後の調整により、開催日が変更になる可能性がある
※4月7日、1回戦が延期されることが決定

〔参考／変更前の競技会形式〕

- 7回戦制 88チーム出場
- ※J1・J2は、2回戦（R64）から出場
- ※アマチュアシード・都道府県代表は、1回戦から出場

選手の用具に関する運用緩和

グラスルーツのさまざまな現場において選手が大きな負担なくサッカーを楽しめる環境とするため、ユニフォーム等の選手の用具に関する運用が緩和されるよう、下記の手順で制度を変更する。

【手順】

1. 本理事会にて承認後、「選手の用具に関する運用緩和について」の通達を地域・都道府県サッカー協会および各種連盟に発信
2. 2020年4月よりJFA主催大会の大会要項において運用緩和を開始
3. 2020年10月理事会においてユニフォーム規定を改定

左ページ左上へ続く

【検討の経緯】

ユニフォーム等の選手の用具の運用に関して、全国大会のルールがそのままグラスルーツの地区レベルの大会まで及んでいるケースがあり、チームや選手、保護者から「運用が厳しすぎる」という意見が多く寄せられている。本来であれば、グラスルーツの競技会においては大会要項に規定することで状況に応じて柔軟に対応可能であるが、実際は「日本サッカー協会の規程に準ずる」等、全国大会レベルのルールがそのまま適用されていることが多い。

このような現状を見直すため、グラスルーツの競技会において全国大会と同様の厳しい運用を行うことの妥当性や一部の競技会で運用を緩和した場合の影響、緩和の程度等について、競技会委員会の各種大会部会や審判委員会等において検討を重ねた。その結果、現行のユニフォーム規程からユニフォームの運用に関する条項を削除し、ユニフォームの運用だけでなく、競技規則であるアンダーウェアやソックスの色の色も大会要項に明記することで運用緩和できるようにする。

1. 運用緩和開始とユニフォーム規程の改定のスケジュール
 - 2020年4月 JFA主催大会の大会要項にて運用開始
 - 2020年10月 ユニフォーム規程改定
2. 各競技会のレベルに応じた選手の用具に関する運用緩和の内容
 - (1) ソックス等の色
 - ① ソックス等の色は問わない
 - (2) アンダーシャツ、アンダーショーツ、タイツの色
 - ① アンダーシャツの色は問わない。原則、チーム内で同色のものを着用する。
 - ② アンダーショーツおよびタイツの色は問わない。原則、チーム内で同色のものを着用する。

- (3) 正・副2着のユニフォームの準備と組み合わせの決定
 - ① ユニフォームは1着以上を持参(2着以上が好ましい)。
 - ② 対戦するチームのユニフォームの色彩が判別し難い場合、主審は、いずれのチームがピブス等を着用することを決定する。
 - ③ ユニフォームのデザイン、ロゴ等が異なっても、主たる色が同系色であれば着用することができる(ピブス等も可)。
 - ④ ゴールキーパーのショーツ、ソックスはフィールドプレーヤーと同系色でもよい。

3. ユニフォーム規程の改定内容(予定)

2020年10月の本協会理事会において、ユニフォーム規程を改定する予定。ユニフォーム規程はユニフォームを作成するための規程とし、次の運用に関する部分を削除する。

・第3条〔着用義務〕

チームは、公式競技会の試合においては、当該公式競技会に登録したユニフォームを着用しなければならない。

・第4条〔ユニフォームの色彩〕

3. チームは、公式競技会の試合会場に正・副2組のユニフォームを持参しなければならない。
4. 主審は、対戦するチームのユニフォームの色彩が類似しており判別しがたいと判断したときは、両チームの立ち会いのもとに、その試合において着用するユニフォームを決定する。
5. 前項の場合、主審は、両チームの各2組のユニフォームのうちから、シャツ、ショーツ及びソックスのそれぞれについて、判別しやすい組み合わせを決定することができる。

各種規則 改正

下記のそれぞれの規則を改正する。

【主な改正点】

- (1) 競技会規則
 - ・競技会名称と掲載順を変更する。
- (2) 個人情報保護規則
 - ・総務部を個人情報管理を統括する部門とし、各部における管理ルール遵守を監督する。

また、各部における責任者を明確にし、管理を徹底する。
 ・法令の改正等に適宜対応するため、理事会決議ではなく、会長決裁で改正可能とする。

(3) 各種委員会組織運営規則

- ・監査・コンプライアンス委員会を「コンプライアンス委員会」に改称し、委員会の役割を明確化する。
- ・アスリート委員会を新設する。

役員等予定者 選出

役員等推薦委員会より、役員等予定者のリストが提出された。理事および監事は、3月29日に開催される定時評議員会で選任され、その他の予定者については、同日、定時評議員会後に開催される理事会にて選定する。

※詳細は29～32ページ参照

【2020年新理事の考え方】

次期理事会の方針

- (1) 継続性 過去→未来へ
- (2) サッカー →本質、スポーツの理解、価値
- (3) スポーツ庁ガバナンスコードへの対応
- (4) 女性理事の登用
- (5) 外部理事の登用
- (6) 新人の登用 →後継者

(1) 継続性

・公益財団法人として、女子のプロ化、ユース大会のスケジュール調整等現行規約の規定に伴い、すぐに変えることは難しい。(9地域、Jリーグ等)マーケティング戦略。部活動。ユース年代大会スケジュール。

(2) サッカー

・スポーツの本質と価値を理解している

(3) スポーツ庁ガバナンスコードへの対応

- ・4年の猶予期間(2023年まで)がある
- ・2020年は、スポーツ庁によるJFAの承認が行われる
- ・現行足りないもの・調整の必要のあるもの

① アスリート委員会

② 理事の任期等

従って、今回アスリート委員長を設置、理事に選任する

(4)女性理事の登用

ガバナンスコードにおいて、40%以上女性を登用することが定められている。現行の規約からするとすぐに満たすことは難しいが、2年後に向け、規約を変更し、現行よりも女性を多く登用する。

(5)外部理事の登用

外部理事の定義を確認し、現行で十分と考えられるが、スポーツ庁とのすり合わせが必要

(6)新人の登用

積極的に取り入れるようにしていく
国際担当

<新理事会がこの2~4年のタームでやらなければならないこと/やるべきこと>

1. 国内サッカーカレンダーの最適化、改革
[担当：田嶋、村井、林]
2. 女性の活躍、プロ化、グラスルーツ推進
[担当：岩上、今井、手塚、佐々木、山岸]
3. 技術委員会 三位一体+普及のさらなる推進、幕張NFCの活用
[担当：今井、黛、山岸]
4. VARの導入とレフェリーの養成・改革、女性レフェリーの養成
[担当：黛、山岸]

5. ガバナンス・コンプライアンス

[担当：田嶋、須原、西本、福田、佐藤]

6. 評議員・ステークホルダーの選定、選挙制度 改革

[担当：田嶋、三好、須原]

7. サッカーファミリー・登録の拡大、グラスルーツ推進

[担当：林、今井、池田洋二]

8. 健康・シニアへの投資

[担当：植田、宗政、池田浩]

9. 47FAの強化、部活動の整備

[担当：池田洋二、櫻井]

10. 施設・スタジアム整備→1年を通してプレーできる環境整備、グリーンプロジェクト、ポット苗

[担当：徳田]

11. 社会貢献活動、プロモーション・情報発信

[担当：日比野]

以上のことを実行できる理事を選任する

報告事項

1 JFAアジア貢献事業 指導者海外派遣(継続).....	P24	7 JFAマッチコミッショナー新規認定.....	P25
2 指導者ライセンス認定.....	P24	8 JFA・Fリーグ特別指定選手制度要項改定.....	P26
3 2020年度指導者養成体制.....	P24	9 審判インストラクター・審判員の海外派遣.....	P27
4 大会役員 国際試合への派遣.....	P25	10 なでしこジャパン海外強化指定選手制度.....	P27
5 JFAロングバイル人工芝ピッチ公認(更新).....	P25	11 JFA・なでしこリーグ特別指定選手制度.....	P27
6 47都道府県サッカー協会における技術担当者専任化.....	P25	12 裁定委員会に関する懲罰(裁定委員会).....	P28

JFAアジア貢献事業 指導者海外派遣(継続)

アジア貢献事業の一環として海外に派遣している指導者2名を引き続き選任する。

(1)JFAアジア貢献事業 チャイニーズ・タイペイサッカー協会/ 女子代表GKコーチ

名 前：大友 麻衣子(おとも まいこ)

保有資格：JFA C級・JFA GK-C級

派遣期間：2020年3月1日~2020年12月31日

(2)JFA アジア貢献事業 カンボジアサッカー連盟/審判ダイレクター

名 前：唐木田 徹(からきだ てつ)

保有資格：JFA1級審判インストラクター

AFC Regional Referee Instructor

派遣期間：2020年4月1日~2021年3月31日

指導者ライセンス認定

指導者に関する規則第4条「ライセンスの認定」に基づき、2016年度S級コーチ養成講習会を修了し、本協会技術委員会が適格と認めた下記1名についてS級コーチライセンスを認定する。

名 前：中山 雅史(なかやま まさし)

指導チーム：アスクラ口沼津 U-18

生年月日：1967年9月23日

資格：2016年 A級コーチジェネラルライセンス取得

指導歴：2019年~ アスクラ口沼津 U-18コーチ

※2016年度S級コーチ認定者数：21名/21名中(左記1名含む)

※現S級コーチライセンス保持者数：498名(左記1名含む) 2020年2月26日現在

2020年度指導者養成体制

2020年度指導者養成体制について、JFAインストラクターとして眞藤邦彦(しんどう くにひこ)氏を追加で選任する。

大会役員 国際試合への派遣

大会：AFCチャンピオンズリーグ2020 グループステージ
 対戦：ジョホール・ダルル・タクジム（マレーシア）vs. 水原三星ブルーウィングス（韓国）

開催地：マレーシア/ジョホールバル
 試合日：3月3日
 マッチコミッショナー：北村 俊

JFAロングハイル人工芝ピッチ公認（更新）

申請者（施設所有者）：東京都
 施設名：駒沢オリンピック公園総合運動場 第二球技場（東京都世田谷区駒沢公園1-1）
 使用製品：積水樹脂株式会社 ドリームターフ PT2040RS+ACS65
 公認期間：2020年4月7日～2021年4月6日
 公認番号：第014号

申請者（施設所有者）：東京都
 施設名：駒沢オリンピック公園総合運動場 補助競技場（東京都世田谷区駒沢公園1-1）
 使用製品：積水樹脂株式会社 ドリームターフ PT2040RS+ACS65
 公認期間：2020年4月7日～2021年4月6日
 公認番号：第015号

申請者（施設所有者）：公益財団法人神戸市スポーツ協会
 施設名：神戸レディースフットボールセンター（兵庫県神戸市向洋町中7丁

目1-1)

使用製品：積水樹脂株式会社 ドリームターフ PT2065RS+U-02-CF (Br)、PT2065RS+U (LOG)-06-CF (Br)
 公認期間：2020年3月14日～2023年3月13日
 公認番号：第136号

申請者（施設所有者）：愛知県
 施設名：愛知県口論義運動公園（愛知県日進市北新町西口論義323-8）
 使用製品：株式会社アストロ アストロピッチDS N-60
 公認期間：2020年3月9日～2023年3月8日
 公認番号：第190号

<特記事項>

- ・使用製品は、JFAロングハイル人工芝公認規程に基づく製品検査（ラボテスト）を完了している。
- ・当該施設は、JFAロングハイル人工芝公認規程に基づく現地検査（フィールドテスト）を実施し、基準を満たしている。

47都道府県サッカー協会における技術担当者専任化

47都道府県サッカー協会における技術担当者の専任化については、2019年10月理事会において47都道府県サッカー協会（FA）向け補助金交付を決議し、各FAと協議の上、技術委員会が決定することとした。
 これを受け、FAから申請のあった候補者について技術委員会で審査した結果、下記の通り新たに1FAで決定した。今後、未定となっているFAについては、申請があり次第、随時審査を行う。

- ・前回までに決定したFA：10FA
- ・今回決定したFA：1FA
- ・合計：11FA

【技術担当者専任化承認者一覧】（専任者設置FA数：11/47FA）

FA名	名前	保有ライセンス	年齢	備考
北海道	藤代 隆介	S級	46	
岩手県	嶋尾 直軌	S級/GK-C級	45	
茨城県	原田 精一郎	A級ジェネラル	47	
千葉県	島田 洋	S級	52	※今回報告
山梨県	保坂 不二夫	S級	62	
長野県	鮎田 敏	A級ジェネラル/A級U15	61	
静岡県	石井 知幸	S級	57	
島根県	上野 敏夫	A級ジェネラル	62	
岡山県	神戸 昌宏	A級ジェネラル/GK-A級	44	
徳島県	羽地 登志晃	A級ジェネラル	41	
鹿児島県	大久保 毅	A級ジェネラル	42	

JFAマッチコミッショナー新規認定

【JFAマッチコミッショナー認定制度】に基づき、194名を新規JFAマッチコミッショナーとして認定する。
 いずれも、都道府県サッカー協会の推薦を受け、eラーニングによる講習会の受講を完了している。

【2020年度JFAマッチコミッショナー新規認定者（一覧）】

北海道：阿部恵理子、五十里伸幸、伊藤一志、梶野滋子、片山悟、勝谷忍、川合信、川前昌市、菅野学、児玉啓秀、佐藤英隆、高橋大輔、多田健太郎、土橋史人、中田孝一、中山恵介、野呂泰啓、藤森静、二川亘、宮嶋啓一、森信博
 青森県：小田幸司、齋藤翔、佐々木公昭、中山順哉、成田恵悦、成田春彦、成田悠介
 宮城県：上田雅和、及川裕也、大平俊明、木口寛、黒澤尚、齋藤誠、桜井洋輔、澤村東、竹川輝彦、平塚博之
 秋田県：浅野正樹、佐藤秀樹

山形県：大沼満
 福島県：石井和芳、佐藤茂雄、内貴俊也
 茨城県：橋崎裕史
 栃木県：相楽亨、櫻井誠、速水仁、山口雄二
 群馬県：草間洋平、御供英宏、本木靖
 埼玉県：池田一義、小林不二男、吹田敦、村山秀樹、森田洋正
 千葉県：有田公晴、高澤篤、高梨泰里、中野友美、林一賀
 東京都：遠藤雅己、高橋武良
 神奈川県：岩永修幸、小森哲史、嶋田広志、西川稔司、広瀬邦彦、藤原禎、諸星輝一、山田泰史
 山梨県：清水祐至、水下翼
 長野県：奥田真央、下條貴史、菅原基信、竹下英三、土屋好史、中村築、早川広樹、平出孝太
 新潟県：磯部智洋、内山拓也、上村茂、巒田敏博、黒津唯史
 富山県：朝倉優太、折谷一、澤崎謙一、館裕紀、中井裕、古市茂、松浦高士

次ページを上へ続く



石川 県：吉田泰、吉田亮介
 福井 県：岡崎護、金松健一、久保直也、小泉博靖、西田収、松井義弘、山下綱章
 静岡 県：仲村昌倫、成嶋徹
 愛知 県：青山健太、坂野隆広
 三重 県：池田浩之、磯和広也、市川裕也、小山美佳、細野裕貴、水谷亜樹、水谷宗太郎
 滋賀 県：岩崎崇、上山一登司、上村敏、田中実、谷口雅則、西海佐二
 京都 府：西村健一郎
 大阪 府：加藤厚人、小崎知広、渋谷公次、中川佳裕、村井博司
 兵庫 県：長谷川亮一
 鳥根 県：石橋稔明
 岡山 県：城井田成美
 広島 県：岡野幸彦、勝山正比呂
 山口 県：秋本光彦、厚母陽一郎、植野真生、内田博之、岡野富司雄、金田真澄、國村明宏、近藤邦朗、近藤政則、佐藤秀之、中倉義徳、西村康隆、水室栄治、松野下真、宮本孝雄

香川 県：今井栄爾、清家太健介、西河由彦
 高知 県：池添紀夫、市川省二、小笠原巧、門田伸廣、長崎周一
 福岡 県：長慎也、辻大輔、寺本由紀、松尾英樹、渡邊透
 佐賀 県：原田秀昭
 長崎 県：菊地芳彦、七條直樹、西津邦彦
 熊本 県：岩切怜、牛嶋晟、倉門勝城、倉田孝一、作本貴典、志岐晃、竹内篤、武田昭二、藤島浩樹、松岡司、道永昌扶、宮原理、村上孝治、森一樹、山下克己
 大分 県：荒川幸大、井上順子、上野貴士、工藤高信
 宮崎 県：田重田尊盛、野村翔悟
 鹿児島県：伊知地大志、五領壮太、新田康彦、古里洋平、峯島道彦
 沖縄 県：上原伸、金城秀文、小嶺作、高良育寛、田平敬志

JFA・Fリーグ特別指定選手制度要項改定

JFA・Fリーグ特別指定選手制度の要項を、下記の通り改訂する。

【変更点】

(1)従来、各クラブから特別指定選手の活動報告を確認し、必要に応じてテクニカルスタッフに報告していたが、今後は全ての報告書をテクニカルスタッフと共有し、内容に応じてテクニカルスタッフから各クラブの強化担当者へフィードバックする。

※選手の育成状況を共有し、選手の情報収集、年代別代表チームでの活動機会の創出、ユース年代環境整備との連携を図る。

(2)申請理由が本制度の趣旨と合致しないクラブに対しては、強化担当者による強化の視点での当該選手の分析および育成プランの記載を依頼する。

(3)その他、事務処理の要領を以下の通り変更する。

- ①提出書類の一部を原本から複写に変更。
- ②申請・承認のスケジュールを変更。
- ③認定期間については、これまで3カ月毎にクラブからの活動報告・翌3カ月分の活動予定表の提出をもって継続の意思表示をする必要があったが、クラブから認定解除申請が提出されるまで認定期間を継続する。一方で3カ月毎の活動報告・活動予定表の提出を義務化し、選手の育成状況を確認する。

【JFA・Fリーグ特別指定選手制度】

1.目的

本制度はフットサル選手として最も成長する年代に、種別や連盟の垣根を越え、「個人の能力に応じた環境」を提供することを目的とする。受入先のFクラブが当該選手の高い能力をさらに伸ばすための環境を有し、且つ、同選手をFリーグの公式試合に積極的に出場させる具体的計画を有することを本協会による認定の条件とする。

2.概要

下記3.に定める要件をすべて満たし、受入先のFリーグ所属クラブ（以下、「Fクラブ」という）の申請に基づき公益財団法人日本サッカー協会（以下、「本協会」という）が認定した選手（以下、「特別指定選手」という）は、所属チームに登録したまま受入先のFクラブの選手としてFリーグ等の試合に出場可能となる。

3.認定要件

- ・日本国籍を有するか又は外国籍扱いしない選手（本協会「加盟チーム規則第10条に該当する選手」）であること
- ・JFAフットサル加盟登録選手であること

- ・Fリーグに所属していないチームに所属する選手であること
- ・申請年度4月2日時点で23才以下であること
- ・競技を行う上で身体的支障が無いと証明されたこと

4.受入先クラブ

選手を受け入れることができるクラブは次の通りとする。

- ・Fリーグ所属クラブ

5.認定基準および手続き

受入先のFクラブは、下記に定める手続きに従い、当該選手の所属チーム、選手本人（※選手が未成年の場合は法定代理人の同意も必要）及び受入先クラブの三者間（所属チームがクラブチームの場合は当該選手が在籍する学校を含めた四者間）で合意した上で、本協会フットサル委員会に対し特別指定選手に係る申請を行うものとする。

- ・受入先Fクラブは、別添の覚書（「特別指定選手の活動に関する覚書」）を選手等との間で締結する。
- ・受入先Fクラブから認定解除申請が提出されるまで、選手は特別指定選手として認定されるものとする。なお、特別指定選手として認定される期間（以下、単に「認定期間」という）は、本協会による認定日から当該日の属するFリーグ登録年度の終了日（3月31日）までとする。
- ・認定期間中、Fクラブは本協会より指定された期日までに特別指定選手の活動報告及び活動予定（3カ月分）を本協会に提出するものとする。活動報告書の提出がなされない場合や活動実績が認められないと本協会が判断した場合には、特別指定選手の認定解除となる場合もある。
- ・認定期間中毎月、選手が延べ20日以上受入先Fクラブにおいて活動し、或いはFリーグ公式戦に1試合以上ベンチ入りまたは出場すること。
- ・Fクラブは、当該選手の高い能力をさらに伸ばす環境を有し、且つ、同選手をFリーグ公式試合に積極的に出場させる具体的計画を有すること。
- ・1クラブで同時期に受入れることのできる特別指定選手は、3名までとする。
- ・認定期間満了によって自動的に認定解除となる。

6.認定解除

受入先Fクラブまたは選手が特別指定選手の認定期間中に認定解除を希望する場合、受入先Fクラブは本協会に対し所定の書式にて認定解除申請書を提出しなければならない。この場合、受入先Fクラブは覚書締結時に合意したすべての者から解除に関する合意を得なければならない。

本協会は、以下の場合に認定解除することがある。

- ・受入先Fクラブが報告書の提出義務を怠った場合

左ページ左上へ続く。

- ・当該活動が本制度の目的に反すると本協会が判断した場合
- ・上記の他、受入先Fクラブまたは選手が「特別指定選手の活動に関する書」または本要項に違反した場合

7.活動対象試合

「Fリーグ特別指定選手」として承認され、且つ「日本フットサルリーグ要項」第53条に定める届出を受理された選手は、次の試合への出場資格を有するものとする。

- ・Fリーグ
- ・プレーオフ
- ・リーグカップ戦
- ・プレシーズンマッチ

8.申請書類

受入先Fクラブは、以下の全ての申請書類を本協会フットサル委員会へ提出する。
 ※提出は全て指定する宛先にデータで毎週火曜日までに提出するものとする。
 ※本協会は、原則として翌週の火曜日までに認定の可否について回答する。但し、提出された書類に不備があった場合や、本協会の休業日があった場合等はさらに時間を要することがある。

- ・Fリーグ特別指定選手申請書
- ・活動予定表（当月分を含む3カ月分）
- ・覚書（写）
- ・メディカルチェック報告書（写）

9.懲戒罰の消化対象試合

特別指定選手が所属チームの試合で受けた懲戒罰は、所属チームの同一競技会における直近の試合に適用し、Fリーグ試合には適用しないことを原則とする。また特別指定選手がFリーグ試合で受けた懲戒罰は、Fリーグの同一競技会における直近の試合に適用し、所属チームの試合には適用しないことを原則とする。ただし、JFA懲罰規程第4条第1項から第12項に該当する場合については、JFA規律委員会が懲罰を決定する。

10.経費

選手の活動にかかる下記の経費は、実費を受入先クラブが負担するものとする。

項目	内容
傷害保険	傷害保険（傷害に関する補償）に関わる経費
メディカルチェック	受診費用

審判インストラクター・審判員の海外派遣

委員会、大会・試合など	役職	名前	試合日または派遣期間	場所
Women's Olympic Football tournament Tokyo 2020 Preliminary Competition: Asian Zone Final Round Group A	{役員}アセッサー	深野悦子	2月3日～9日	韓国/済州
AFCチャンピオンズリーグ2020: Group B Match No.3 Pakhtakor vs Shah Rukh FC	{役員}アセッサー	上川徹	2月17日	ウズベキスタン/タシケント
AFCカップ2020: Playoff Central 2nd Leg・FC Khujand vs PFC Neftchi	{役員}アセッサー	岡田正義	2月26日	タジキスタン/ホジェンド
AFC Men Referee Recruiting 2020 - 1st Assessment Visit	{役員}リクルーター	岡田正義	2月7日	オマーン/アルシーブ
AFC Futsal Referee Recruiting 2020 - 2nd Assessment Visit	{役員}リクルーター	松崎康弘(セミナー)	2月8日	インドネシア/メダン
AFC Referee Academy - Introductory Module 1 Batch 2019	{役員}インストラクター	山岸佐知子	2月10日～14日	マレーシア/クアラルンプール
Women's Olympic Football tournament 2020 Preliminary Competition: Asian Zone Final Round	審判員	山下良美、坊園真琴	2月1日～2月13日	オーストラリア/シドニー
AFCカップ2020: Group A Match No.1 Al Ahli FC vs Hilal Alquds Club	審判員	東城稔、野村修、武部陽介	-	レバノン/ベイルート
AFCカップ2020: Group C Match No.1 Riffa vs Qadsia SC	審判員	荒木友輔、唐紙学志、峯城巧	2月11日	バーレーン/マナマ
AFCチャンピオンズリーグ2020: Group C Match No.1 Sharjah vs Al Taawoun FC	審判員	佐藤隆治、山内宏志、三原純、山本雄大	2月11日	UAE/シャルジャ
AFCチャンピオンズリーグ2020: Group D Match No.2 Al Ain FC vs Sepahan FC	審判員	木村博之、越智新次、西橋勲	2月11日	UAE/アルアイン
AFC Champions League 2020: Group B Match No.4・Shabab Al Ahli Dubai vs Al Hilal SFC	審判員	木村博之、越智新次、西橋勲、荒木友輔	2月17日	UAE/ドバイ
AFCチャンピオンズリーグ2020: Group H Match No.3 PSM Makassar vs Shan United FC	審判員	山本雄大、野村修、武部陽介	2月26日	インドネシア/ジャカルタ
AFC Referee Fitness Re-Test	審判員	平間亮	2月7日	マレーシア/クアラルンプール
AFC REFEREE ACADEMY - Introductory Module 1 Batch 2019	審判員	長峯滉希、渡邊杏紗	2月10日～14日	マレーシア/クアラルンプール

なでしこジャパン海外強化指定選手制度

なでしこジャパン海外強化指定選手を下記の通り、新たに認定した。

(1)横山 久美(よこやま くるみ)

所属チーム: Washington Spirit (アメリカ女子1部リーグ)
 生年月日: 1993年8月13日 (27歳)

身長/体重: 155cm / 52kg

ポジション: FW

なでしこジャパン出場数: 43試合 (17得点)

認定期間: 2020/2021シーズン(契約期間)開始から終了まで

※出場数は2020年2月20日時点

JFA・なでしこリーグ特別指定選手制度

(1)千葉 玲海菜(ちば れいみな)

ポジション: FW
 生年月日: 1999年4月30日
 身長/体重: 162cm / 57kg
 所属歴: すずかけサッカースポーツ少年団

リベルダード磐城

藤枝順心高校サッカー部

所属元: 筑波大学女子サッカー部

受入先: ジェフユナイテッド市原・千葉レディース

承認日: 2020年2月14日

次ページ左上へ続く



(2)今田 紗良(いまだ さら)

ポジション:FW
生年月日:2000年3月24日
身長/体重:163cm/58kg
所属歴:プレイバリー上津役サッカークラブ
ひびきサッカースクールU-15
Club Milla Cero Ladies
ひびきサッカースクールU-15
藤枝順心高等学校サッカー部
所属元:帝京平成大学女子サッカー部
受入先:ジェフユナイテッド市原・千葉レディース
承認日:2020年2月14日

(3)木暮 千晶(こぐれ ちあき)

ポジション:GK
生年月日:1999年3月12日
身長/体重:168cm/56kg
所属歴:FCフェニックス館林
AC館林フェリス
群馬育英学園私立前橋育英高校女子サッカー部
所属元:神奈川大学女子サッカー部
受入先:ニッパツ横浜FCシーガルズ
承認日:2020年2月21日

裁定委員会に関する懲罰(裁定委員会)

裁定委員会(委員長:本林徹)より報告された懲罰案件について報告する。

【事案1】

- 1. 当事者 奈良クラブ
- 2. 懲罰の種類 罰金100万円
- 3. 懲罰の起算日 2020年1月24日
- 4. 懲罰の理由 本協会懲罰規程第34条(3)「加盟団体の名誉または信用を毀損する行為を行ったとき」に該当
- 5. 事案の概要 複数年にわたる入場者数の水増し行為

【事案2】

- 1. 当事者 第4種チームのコーチ
- 2. 懲罰の種類 6カ月間のサッカー関連活動停止
- 3. 懲罰の起算日 2020年1月24日
- 4. 懲罰の理由 本協会指導者に関する規則第20条(7)暴力・暴言を用いての指導を行わないことおよび懲罰規程第34条(1)「本協会の各種規程・規則に違反したとき」に該当
- 5. 事案の概要 自チームの未成年選手に対する暴力行為

【事案3】

- 1. 当事者 登録指導者
- 2. 懲罰の種類 6カ月間のサッカー関連活動停止

- 3. 懲罰の起算日 2020年1月24日
- 4. 懲罰の理由 本協会懲罰規程第34条(5)「刑罰法規に抵触する行為を行ったとき」に該当
- 5. 事案の概要 未成年選手に対する暴力行為

【事案4】

- 1. 当事者 第3種チームの監督
- 2. 懲罰の種類 1年間のサッカー関連活動停止
- 3. 懲罰の起算日 2020年1月24日
- 4. 懲罰の理由 本協会懲罰規程第34条1項(5)「刑罰法規に抵触する行為を行ったとき」に該当
- 5. 事案の概要 未成年者へのわいせつ行為

【事案5】

- 1. 当事者 第4種チームの元監督
- 2. 懲罰の種類 3カ月間のサッカー関連活動停止
- 3. 懲罰の起算日 2020年4月15日
- 4. 懲罰の理由 本協会懲罰規程第34条1項(2)「本協会の指示命令に従わなかったとき」に該当
- 5. 事案の概要 サッカー関連活動停止期間中に加盟チームの活動に参加した



公益財団法人日本サッカー協会 2020年度定時評議員会

公式URL <https://www.jfa.jp/>

日本サッカー協会(JFA)は2020年3月29日、2020年度定時評議員会を開催した。決議、報告された事項は、下記の通り。

決議事項

- 1 評議員3名 選任 P29
- 2 理事28名、監事3名 選任 P29
- 3 役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規則 改正 P31

評議員3名 選任

下記3名の評議員が退任するため、各評議員推薦加盟団体から推薦があった3名を選任する。

1. (一社)宮城県サッカー協会

- (1)選任する評議員：佐藤 俊幸(さとう としゆき)／常務理事
- (2)辞任する評議員：櫻井 寛(さくらい さとる)／副会長

2. 株式会社鹿島アントラーズ・エフ・シー

- (1)選任する評議員：小泉 文明(こいずみ ふみあき)／代表取締役
- (2)辞任する評議員：庄野 洋(しょうの ひろし)／取締役相談役

3. 東京フットボールクラブ株式会社

- (1)選任する評議員：石井 豊(いしい ゆたか)／強化部長
- (2)辞任する評議員：大金 直樹(おおがね なおき)／取締役社長

4. 選任された評議員の任期

定款第18条(評議員の任期)の規定により、選任した評議員の任期は、評議員の任期満了の時までとなるため、2022年度に関する定時評議員会(2023年3月)の終結の時までとなる。

理事28名、監事3名 選任

■理事(会長・副会長・専務理事・常務理事・理事)、監事

※54～55ページに関連記事あり。年齢および現職は2020年3月29日現在

1. 理事(会長・副会長・専務理事・常務理事・理事)予定者

[会長]

(1)田嶋 幸三(たしま こうぞう)／62歳
 現職：(公財)日本サッカー協会 会長
 生年月日：1957年(昭和32年)11月21日
 出身地：熊本県天草郡苓北町
 学歴：1980年3月 筑波大学体育専門学群 卒業
 職歴：1980年4月 古河電気工業株式会社 入社
 1983～1986年 西ドイツケルンズスポーツ大学 留学
 1987年3月 筑波大学大学院修士課程体育研究科 修了
 1988～1995年 立教大学一般教育学部 講師、助教授
 1996～2004年 筑波大学 客員助教授
 2006年7月 (財)日本サッカー協会 専務理事
 2010年7月～2012年6月 (財)日本サッカー協会 副会長(専務理事兼務)
 2012年6月～2016年3月 (公財)日本サッカー協会 副会長
 2016年3月～ (公財)日本サッカー協会 会長
 2006年8月～2010年7月 (社)日本プロサッカーリーグ理事
 2007年4月～2019年6月 (財)日本オリンピック委員会 理事／常務理事(2013年6月～)
 2019年6月 (公財)日本オリンピック委員会 副会長
 2011年10月～2012年 国際サッカー連盟(FIFA) タスクフォーストランスヘアレンシー&コンプライアンスメンバー
 2015年6月～ 国際サッカー連盟(FIFA)理事／カウンスルメンバー(2016年～)
 2011年1月～2015年6月 アジアサッカー連盟(理事)
 2011年3月～ アジアサッカー連盟(AFC)技術委員会委員長
 2011年8月～2013年 アジアサッカー連盟(AFC)評価特別委員会委員長
 2011年3月～ 東アジアサッカー連盟(EAFF)副会長
 2016年3月～2018年3月 東アジアサッカー連盟(EAFF)会長
 サッカー歴：1976年 浦和市立南高校 全国高等学校サッカー選手権大会優勝
 1979年 筑波大学蹴球部 全日本大学サッカー選手権大会優勝 日本学生選抜選手 ユニバーシアード大会、ムルデカカップ等出場
 1979～1980年 日本代表選手 インターナショナルAマッチ7試合出場
 1980～1983年 古河電気工業株式会社 サッカー部 日本サッカーリーグ 39試合出場、6得点、3アシスト
 1985～1989年 西ドイツサッカー指導者資格B級ライセンス取得
 1996年 (財)日本サッカー協会公認S級コーチライセンス取得
 1983～1986年 ブンデスリーガ1部 バイヤー・レバークーゼンにてコーチ研修
 1999～2000年 U-16日本代表チーム監督
 2001年 U-17日本代表チーム監督 FIFAU17サッカー世界選手権大会
 2002年 U-19日本代表チーム監督 AFCユースサッカー選手権

[副会長]

(2)村井 満(むらい みつる)／60歳
 現職：(公財)日本サッカー協会 副会長
 生年月日：1959年(昭和34年)8月2日
 出身地：埼玉県川越市
 学歴：1983年3月 早稲田大学法学部 卒業
 職歴：1983年4月 株式会社日本リクルートセンター入社(現株式会社リクルートホールディングス)
 2000年4月 同社執行役員(人事担当)
 2004年3月 株式会社リクルートエイブリック代表取締役社長(後に株式会社リクルートエージェントに社名変更、現株式会社リクルートキャリア)
 2008年7月～2014年1月 (社)日本プロサッカーリーグ理事(非常勤)(2012年4月～(公社)日本プロサッカーリーグ)
 2011年3月 株式会社リクルートエージェント 代表取締役社長退任
 2011年4月 RGFHongKongLimited 取締役社長
 2013年4月 同社社長
 2013年12月 同社社長退任
 2014年1月～ (公社)日本プロサッカーリーグチェアマン
 2014年4月～ (公財)日本サッカー協会副会長
 (3)岩上 和道(いわがみ かずみち)／67歳
 現職：(公財)日本サッカー協会 副会長
 生年月日：1952年7月8日
 出身地：埼玉県浦和市(現さいたま市)
 学歴：1978年3月 東京大学文学部英語学英米文学科 卒業
 職歴：1978年4月 株式会社電通 入社
 2004年4月～2008年3月 株式会社電通 第5営業局長
 2008年7月 株式会社電通 執行役員
 2015年4月～2016年3月 株式会社電通 顧問
 2016年3月～2018年3月 (公財)日本サッカー協会事務総長
 2016年3月～2018年3月 (一社)東アジアサッカー連盟事務総長(兼職)
 2017年4月～2019年3月 (一社)日本女子サッカーリーグ理事(兼職)
 2018年3月～ (公財)日本サッカー協会 副会長
 2019年4月～ (一社)日本女子サッカーリーグ 理事長
 スポーツ団体役員歴：
 2012年5月10日～2015年3月 ラグビーワールドカップ2019組織委員会 評議員
 2012年3月31日～2013年11月 柔道グランドスラム東京 参与
 2012年3月31日～2015年7月 日本スポーツ産業学会 理事
 サッカー歴：2004年4月～2008年3月 電通第5営業局 サッカー部
 (4)林 義規(はやし よしのり)／65歳
 現職：(公財)日本サッカー協会 副会長
 生年月日：1954年5月5日
 出身地：東京都江東区
 学歴：1977年3月 早稲田大学教育学部教育学科 卒業
 職歴：1977年4月～2020年3月 暁星学園中学校 教諭
 スポーツ団体役員歴：
 1986年4月～1986年10月 東京都団体選抜 コーチ

次ページ左へ続く



1987年4月～1987年10月 東京都国体選抜 監督
 1995年1月～1995年4月 日本高校選抜 監督
 2002年4月～2009年3月 全国高体連サッカー専門部 技術委員長
 2003年4月 日本サッカー協会 技術委員
 2006年4月 早稲田大学ア式蹴球部 強化委員長
 2010年4月～2014年6月 東京都サッカー協会 理事
 2012年4月 高門宮杯U-18サッカーリーグ実施委員会 委員長
 2012年6月～2020年3月 日本サッカー協会 理事
 2012年6月 日本サッカー協会 2種大会部会 部会
 2014年6月～2018年5月 東京都サッカー協会 副会長
 2018年6月～ 東京都サッカー協会 会長
 2020年3月～ 日本サッカー協会 副会長
 サッカー歴：1964年4月～1973年3月 暁星小学校・中学校・高等学校サッカー部
 1973年4月～1977年3月 早稲田大学ア式蹴球部
 1977年4月～1979年3月 東京都教員団サッカーチーム

【専務理事】

(5)須原 清貴(すはら きよたか) / 53歳
 現 職：(公財)日本サッカー協会 専務理事
 生年月日：1966年6月18日
 出身地：岐阜県
 学 歴：1991年3月 慶応義塾大学法学部法律学科 卒業
 2000年5月 米国HarvardBusinessSchool(MBA) 卒業
 職 歴：1991年4月～2001年3月 住友商事株式会社(貴金属ディーリング部、米国住友商事貴金属部、非鉄金属部、映像メディア事業部)
 2001年4月～2002年12月 ポストンコンサルティンググループ東京事務所コンサルタント
 2003年1月～2004年6月 CFOカレッジ株式会社 代表取締役社長
 2004年7月～2008年12月 株式会社GABA 取締役副社長兼最高執行責任者(COO)
 2009年3月～2014年12月 キンコーズ・ジャパン株式会社 代表取締役社長兼最高経営責任者(CEO)
 2015年1月～2015年9月 ベネッセホールディングス株式会社 国内英語カンパニー長
 ベルリッツ・ジャパン株式会社 代表取締役社長
 2016年3月～2018年3月 株式会社ドミノ・ピザジャパン 代表取締役兼最高執行責任者(COO)
 2018年3月～ (公財)日本サッカー協会 専務理事
 スポーツ団体役員歴：
 2014年4月～2018年3月 (公財)日本サッカー協会 審判委員会 委員
 2014年4月～現在 たまがわりリーグ(東京都世田谷区)レフェリートレセンチーフアドバイザー
 2016年3月～2018年3月 (公財)日本サッカー協会 理事
 2018年3月～2020年2月 (公社)日本プロサッカーリーグ 理事
 2018年3月～現在 株式会社Jリーグ 取締役
 2018年6月～現在 (公財)日本オリンピック委員会 評議員
 2019年7月～現在 アジアサッカー連盟競技委員会 委員
 サッカー歴：
 2009年4月～2011年3月 潮田サッカークラブ(東京都世田谷区)代表
 2014年4月～現在 3級審判インストラクター

(6)植田 昌利(うへだ まさとし) / 59歳
 現 職：(公財)日本サッカー協会 常務理事、(公財)東京都サッカー協会 副会長 兼 専務理事、(一社)日本フットボールリーグ 監事、(一財)全国社会人サッカー連盟 評議員、(公財)東京都体育協会 副理事長
 学 歴：明治学院大学 卒業
 サッカー歴：高校サッカー部、2級審判員、3級審判インストラクター
 職 歴：株式会社東急コミュニティー、(公財)東京都サッカー協会

(7)原 博実(はら ひろみ) / 61歳
 現 職：(公社)日本プロサッカーリーグ 副理事長、(公財)日本サッカー協会 常務理事、(株)Jリーグ 取締役
 学 歴：早稲田大学 卒業
 サッカー歴：早稲田大学サッカー部、三菱重工サッカー部、日本代表選手、浦和レッズコーチ・監督、FC東京監督等
 職 歴：三菱重工(株)、(公財)日本サッカー協会、(公社)日本プロサッカーリーグ等

(8)池田 洋二(いけだ ようじ) / 64歳
 現 職：(公財)日本サッカー協会 副会長、(一財)鳥取県サッカー協会 会長

学 歴：東京学芸大学 卒業
 サッカー歴：東京学芸大学サッカー部、鳥取県立高校サッカー部監督、鳥取県国体成年男子選手・監督
 職 歴：鳥取県公立小・中学校・県立高校 / 教諭・教師・校長

(9)櫻井 寛(さくらい さとる) / 62歳
 現 職：(一社)宮城県サッカー協会 副会長
 学 歴：宮城教育大学 卒業
 サッカー歴：高校サッカー部
 職 歴：宮城県公立小・中学校 / 教諭・教頭・校長

(10)田中 厚(たなか あつし) / 60歳
 現 職：(公財)日本サッカー協会 理事、(公社)富山県サッカー協会 副会長 兼 専務理事、(一社)北信越サッカー協会専務理事
 学 歴：富山大学 卒業、富山大学経済学専攻科 修了
 サッカー歴：富山大学サッカー部、富山全教、1級審判員、1級審判インストラクター
 職 歴：富山県立高校教諭、(公社)富山県サッカー協会

(11)徳田 康(とくだ やすし) / 62歳
 現 職：(公財)愛知県サッカー協会 専務理事、(一社)東海サッカー協会 常務理事
 学 歴：筑波大学 卒業
 サッカー歴：筑波大学蹴球部、名古屋サッカークラブ
 職 歴：愛知県立高校教諭

(12)田中 克紀(たなか かつき) / 53歳
 現 職：(一社)和歌山県サッカー協会 専務理事
 学 歴：和歌山県立和歌山北高校
 サッカー歴：三菱電機サッカー部
 職 歴：三菱電機(株)、フジ住宅(株)等

(13)宗政 潤一郎(むねまさ じゅんいちろう) / 62歳
 現 職：(公財)日本サッカー協会 理事、(公財)広島県サッカー協会 専務理事、(一社)中国サッカー協会 専務理事
 学 歴：武蔵大学 卒業
 サッカー歴：武蔵大学体育会サッカー部、マツダサッカークラブ選手・監督、広島四十雀サッカークラブ、広島県国体成年男子監督、MUNE広島フットボールクラブ監督
 職 歴：東洋工業(株)、MUNE広島フットボールクラブ代表、(公財)広島県サッカー協会 等

(14)矢間 雅司(やま まさじ) / 60歳
 現 職：(一社)徳島県サッカー協会 副会長、徳島県立鳴門高校 教頭
 学 歴：日本体育大学 卒業、日本体育大学大学院 修士課程修了
 サッカー歴：高校サッカー部、2級審判員、2級審判インストラクター
 職 歴：徳島県立高校教諭・教頭

(15)竹田 孝(たけだ たかし) / 60歳
 現 職：(一社)九州サッカー協会 専務理事、(公財)日本サッカー協会 理事、福岡市立福岡高校 教諭
 学 歴：福岡教育大学 卒業
 サッカー歴：福岡教育大学サッカー部、福岡教員サッカークラブ
 職 歴：福岡市立高等学校教諭等

(16)大金 直樹(おおがね なおき) / 53歳
 現 職：東京フットボールクラブ(株) 代表取締役社長
 学 歴：筑波大学 卒業
 サッカー歴：筑波大学蹴球部、東京ガスサッカー部
 職 歴：東京ガス(株)、東京フットボールクラブ(株)

(17)反町 康治(そりまち やすはる) / 56歳
 現 職：サッカー指導者
 学 歴：慶應義塾大学 卒業
 サッカー歴：慶應義塾大学体育会サッカー部、全日空横浜サッカークラブ、横浜フリューゲルス、ベルマーレ平塚、日本代表選手
 職 歴：全日本空輸(株)、Jリーグ選手・監督等

(18)今井 純子(いまい じゅんこ) / 54歳
 現 職：(公財)日本サッカー協会理事、女子委員長 FIFA Task Force for the women's Football、アジアサッカー連盟女子委員会 委員、(公財)日本スポーツ協会 理事
 学 歴：筑波大学 卒業、筑波大学 博士課程修了

左ページ左上へ続く



サッカー歴：筑波大学女子サッカークラブ、Portobello Football Club (アイルランド)、F.C.PAF
職歴：(公財)日本サッカー協会等

(19)手塚 貴子(てづか たかこ) / 49歳
現職：(公財)日本サッカー協会 理事・女子委員会 副委員長、ブランカFC 代表
学歴：日本大学 卒業
サッカー歴：日テレ・ベレーザ、日本女子代表選手、浦和レッズ・レディース監督等

(20)佐々木 則夫(ささきのりお) / 61歳
現職：(公財)日本サッカー協会 理事、十文字学園女子大学 副学長、大宮アルディージャ
トータルアドバイザー
学歴：明治大学 卒業
サッカー歴：明治大学サッカー部、日電関東 / NTT関東サッカー部、大宮アルディージャ 監督、
なでしこジャパン 監督等
職歴：日本電信電話公社、エヌ・ティ・ティスポーツコミュニティ株式会社、(公財)日本
サッカー協会、十文字学園女子大学

(21)北澤 豪(きたざわ ほう) / 51歳
現職：(公財)日本サッカー協会 理事・フットサル委員長、(一社)日本障がい者サッカー
連盟 会長
学歴：修徳高校 卒業
サッカー歴：本田技研工業サッカー部、読売クラブ、ヴェルディ川崎、東京ヴェルディ1969、日
本代表選手等
職歴：本田技研工業(株)、(有)ケイティービー等

(22)飯 俊行(いはずみ としゆき) / 64歳
現職：(公財)日本サッカー協会審判委員会 常勤インストラクター
学歴：日本体育大学 卒業
サッカー歴：日本体育大学サッカー部、埼玉教員サッカークラブ
職歴：埼玉県立高校教諭、(公財)日本サッカー協会

(23)山岸 佐知子(やまぎし さちこ) / 46歳
現職：(公財)日本サッカー協会審判委員会 女子部会長、(公財)千葉県サッカー協会 理
事・審判委員長、AFC Referee Academy Educator
学歴：東京女子体育短期大学 卒業
サッカー歴：東京女子体育短期大学、女子国際主催、サッカー女子1級審判員、サッカー1級審判
員
職歴：国立スポーツ科学センター、東京大学附属病院、(公財)日本サッカー協会等

(24)池田 浩(いけだ ひろし) / 58歳
現職：(公財)日本サッカー協会 理事・医学委員長、順天堂大学保健医療学部理学療法
学科 教授
学歴：順天堂大学医学部 卒業、順天堂大学医学部大学院 修了
サッカー歴：順天堂大学医学部サッカー部、日本代表チームドクター
職歴：順天堂大学医学部等

(25)三好 豊(みやし ゆたか) / 51歳
現職：(公財)日本サッカー協会 理事・法務委員長、アジアサッカー連盟 法務委員会 委員、

東アジアサッカー連盟 法務委員会 委員、森・濱田松本法律事務所パートナー弁護
士、米国ニューヨーク州弁護士

学歴：慶應義塾大学法学部 卒業、米国ジョージワシントン大学ロースクール(LL.M.) 卒
業
職歴：森・濱田松本法律事務所等

(26)日比野 克彦(ひびの かつひこ) / 61歳
現職：(公財)日本サッカー協会 社会貢献委員長・参与・アドバイザーボードメンバー、
東京藝術大学 美術学部 美術学部長
学歴：東京藝術大学 卒業、東京芸術大学大学院 修了
サッカー歴：東京芸術大学サッカー部選手・顧問
職歴：東京芸術大学等

(27)鈴木 寛(すずき ひろし) / 56歳
現職：(公財)日本サッカー協会 理事、東京大学公共政策大学院 教授、慶應義塾大学政
策・メディア研究科 教授
学歴：東京大学 卒業
サッカー歴：通商産業省サッカー部
職歴：通商産業省、参議院議員、文部科学副大臣、文部科学大臣補佐官等

(28)山口 香(やまぐち かおり) / 55歳
現職：(公財)日本サッカー協会 理事、筑波大学体育系 教授、(公財)日本オリンピック委
員会 理事、(公財)日本バレーボール協会 理事、東京都教育委員会 委員、コナミホ
ールディングス(株) 社外取締役
学歴：筑波大学 卒業、筑波大学 修士課程修了
スポーツ歴：日本代表女子柔道選手、1988年ソウルオリンピック銅メダル、1984年ウィーン世
界柔道選手権大会金メダル等
職歴：武蔵大学人文学部教授、筑波大学体育系教授等

2. 監事予定者

(1)佐藤 太郎(さとう たらう) / 62歳
最終学歴：東京外国語大学 卒業
サッカー歴：東京外国語大学サッカー部、バイオニア川越工場サッカー部、墨東60
職歴：バイオニア(株)、モンテリーズ・ジャパン(株)

(2)西本 強(にしもと つよし) / 46歳
現職：日比谷パーク法律事務所 パートナー弁護士、米国ニューヨーク州弁護士
学歴：東京大学 卒業、米国コロンビア大学ロースクール 修士課程(LL.M.)修了
職歴：西村総合法律事務所、日比谷パーク法律事務所等

(3)福田 雅(ふくだ まさし) / 44歳
現職：(公財)日本サッカー協会 監事、(一社)CLUB LB&BBB 代表理事、(一社)東大LB
会 理事、(公財)東京都サッカー協会 理事、(一財)関東大学サッカー連盟 監事、
みずほ証券(株)、公認会計士
学歴：東京大学 卒業
サッカー歴：東京大学運動会A式蹴球部選手・監督・女子監督、東京ユナイテッドFC監督、文
京LBレディース監督、東京都国体成年男子監督
職歴：PwC税理士法人、日興シティグループ証券(株)、みずほ証券(株)等

役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規則 改正

役員及び評議員の報酬並びに費用に関する右記の規則の改正をする。
詳細はJFA公式Webサイトに参照。

【改正の概要】
第2条(定義)における、用語の統一化。

報告事項

- 1 理事会で選定・選出する役員等予定者 P31
- 2 2019年度 事業報告・決算 P32

理事会で選定・選出する役員等予定者

役員等予定者について、それぞれ下記のリスト掲載者を候補者として理事会に
て選出する。

- 1. 会長・副会長・専務理事・常務理事予定者 ※29~31ページ参照
- 2. 各委員会委員長予定者 ※55ページ参照
- 3. 名誉役員予定者

【名誉役員】※()は現役職

- | | |
|----------|------------|
| 1 高円宮妃殿下 | 名誉総裁(名誉総裁) |
| 2 大仁 邦彌 | 最高顧問(名誉会長) |
| 3 川淵 三郎 | 相談役(相談役) |
| 4 小倉 純二 | 相談役(最高顧問) |

5	大東 和美	顧問(顧問)
6	釜本 邦茂	退任(定年)(顧問)
7	馬淵 明子	顧問(顧問)
8	赤須 陽太郎	参与(参与)
9	綾部 美知枝	参与(参与)
10	池田 正利	退任(任期満了)(参与)
11	岩城 健	参与(参与)
12	大倉 健史	参与(参与)
13	岡島 正明	参与(参与)
14	岡田 武史	参与(参与)
15	小川 勇二	参与(参与)
16	福林 徹	退任(任期満了)(参与)
17	佐々木 一樹	参与(参与)
18	瀧井 敏郎	参与(参与)
19	田中 道博	退任(任期満了)(参与)

20	手嶋 秀人	参与(参与)
21	中西 哲生	参与(参与)
22	中野 幸夫	参与(参与)
23	野田 朱美	参与(参与)
24	原 秋彦	参与(参与)
25	日比野 克彦	理事(参与)
26	藤縄 信夫	参与(参与)
27	松崎 康弘	参与(常務理事)
28	上田 栄治	参与(理事)

【退任予定者】※()は退任事由

1	釜本 邦茂	顧問(定年)
2	池田 正利	参与(任期満了)
3	福林 徹	参与(任期満了)
4	田中 道博	参与(任期満了)

2019年度 事業報告・決算

■2019年度 事業報告

2019年度の事業報告が行われた。詳細は、JFA公式Webサイトに掲載。

■2019年度 決算

2019年度は、正味財産ベースで収入が約200.8億円(予算比+9.0億円)で、収

入は2018FIFAワールドカップロシアの前年(2017年度)と同程度の収支規模に。支出は192.0億円(予算比-3.6億円)で着地した。この結果、損益に該当する当期正味増減額は+8.8億円で予算比+12.5億円となった。

■正味財産増減計算書内訳表

平成31年/2019年1月1日から令和元年/2019年12月31日まで

単位:円

科目	公益目的事業会計	収益事業等会計			法人会計	内部取引等消去	合計
		自己所有の建物の賃貸事業	登録・オンラインシステム事業	小計			
I 一般正味財産増減の部							
1 経常増減の部							
(1) 経常収益							
① 基本財産運用益	6,223,589						6,223,589
② 登録料			2,048,134,500	2,048,134,500			2,048,134,500
③ 事業収益	16,343,528,828	16,767,108	166,687,364	183,454,472			16,526,993,300
<代表関連事業収益>	3,533,281,283						3,533,281,283
<競技会開催事業収益>	701,906,143						701,906,143
<指導普及事業収益>	551,140,671						551,140,671
<JFAフットボールセンター事業収益>		15,730,590		15,730,590			15,730,590
<機関誌収益>	143,888,666						143,888,666
<事業関連収益>	10,402,571,561	1,036,518		1,036,518			10,403,608,079
<競技会収益>	694,520,724						694,520,724
<社会貢献事業収益>	270,974,983						270,974,983
<日本サッカーミュージアム運営事業収益>	43,189,057						43,189,057
<サッカーファミリ-復興支援収益>	2,055,740						2,055,740
<登録事業収益>			166,687,364	166,687,364			166,687,364
④ 受取補助金等	864,689,782				9,851,274		874,541,056
⑤ 雑収益	221,937,072	224,057,315	21,396,492	245,453,807			467,390,879
経常収益計	17,436,379,271	240,824,423	2,236,218,356	2,477,042,779	9,851,274	0	19,923,273,324
(2) 経常費用							
① 事業費	14,766,096,108	15,987,376	1,122,188,167	1,138,175,543			15,904,271,651
<代表関連事業費>	4,459,663,291						4,459,663,291
<競技会開催事業費>	1,780,002,286						1,780,002,286
<指導普及事業費>	5,336,945,150		531,712,535	531,712,535			5,868,657,685
<JFAフットボールセンター事業費>	154,415,488	15,174,179		15,174,179			169,589,667
<機関誌事業費>	114,502,996						114,502,996
<事業関連費>	2,546,753,783	813,197		813,197			2,547,566,980
<社会貢献事業費>	260,088,502						260,088,502
<日本サッカーミュージアム運営事業費>	60,286,177						60,286,177
<オンラインシステム事業費>			46,172,085	46,172,085			46,172,085
<登録事業費>			544,303,547	544,303,547			544,303,547
<サッカーファミリ-復興支援事業費>	53,438,435						53,438,435
② 管理費	2,814,582,365	123,509,116	107,490,954	231,000,070	222,635,287		3,268,217,722
経常費用計	17,590,678,473	139,496,492	1,229,679,121	1,369,175,613	222,635,287	0	19,172,489,373
当期経常増減額	△ 144,299,202	101,327,931	1,006,539,235	1,107,867,166	△ 212,784,013	0	750,783,951
2 経常外増減の部							
(1) 経常外収益							
① 賠償金	154,196,001						154,196,001
経常外収益計	154,196,001	0	0	0	0	0	154,196,001
(2) 経常外費用							
① 寄附金					22,831,000		22,831,000
経常外費用計	0	0	0	0	22,831,000	0	22,831,000
当期経常外増減額	154,196,001	0	0	0	△ 22,831,000	0	131,365,001
他会計振替前当期一般正味財産増減額	9,896,799	101,327,931	1,006,539,235	1,107,867,166	△ 235,615,013	0	882,148,952
他会計振替額	596,196,104	△ 101,327,931	△ 730,483,186	△ 831,811,117	235,615,013	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	606,092,903	0	276,056,049	276,056,049	0	0	882,148,952
法人税・住民税及び事業税		70,000		70,000			70,000
当期一般正味財産増減額	606,092,903	△ 70,000	276,056,049	275,986,049	0	0	882,078,952
一般正味財産期首残高	22,402,653,088	49,583,563	394,238,533	443,822,096	0	0	22,846,475,184
一般正味財産期末残高	23,008,745,991	49,513,563	670,294,582	719,808,145	0	0	23,728,554,136
II 指定正味財産増減の部							
① 受取寄附金	0						0
② 一般正味財産への振替額	△ 590,123						△ 590,123
当期指定正味財産増減額	△ 590,123						△ 590,123
指定正味財産期首残高	590,123						590,123
指定正味財産期末残高	0						0
III 正味財産期末残高	23,008,745,991	49,513,563	670,294,582	719,808,145	0	0	23,728,554,136



日本サッカー協会（JFA）は2020年3月29日、2020年度第5回理事会を開催した。決議された事項は、下記の通り。

決議事項

1 役員等 選定	P33	4 重要な使用人 選任	P33
2 代表理事および業務執行理事 選定	P33	5 シニア・アドバイザー契約更新	P33
3 副会長の会長職務代行順位決定	P33		

役員等 選定

第3回理事会においてそれぞれ右記の予定者として承認されたリスト掲載者を、それぞれ選定する。 ※詳細は29～32ページ参照

1. 会長・副会長・専務理事・常務理事
2. 各委員会委員長
3. 名誉役員

代表理事および業務執行理事 選定

代表理事および業務執行理事を、下記の通り選定する。

・代表理事：会長 田嶋 幸三

・業務執行理事：副会長 村井 満、岩上 和道、林 義規
専務理事 須原 清貴

副会長の会長職務代行順位決定

「理事及び監事の職務権限規則」第8条 第2項に基づく副会長の会長職務代行順位を、下記の通りとする。

- 第1順位 村井 満 副会長
- 第2順位 岩上 和道 副会長
- 第3順位 林 義規 副会長

【参考】理事及び監事の職務権限規則（副会長）

第8条 副会長の職務権限は、次のとおりとする。

会長を補佐し、この法人の業務を執行する。

会長が欠けたとき又は会長に事故あるときは、理事会が予め決定した順序によって会長の業務執行に係る職務を代行する。

3ヶ月に1回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告する。

重要な使用人 選任

事務総長は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第90条（理事会の権限等）第4項第3号に規定する「重要な使用人」に該当するため、右記の通り選任する。

・事務総長：湯川 和之（重任）

シニア・アドバイザー契約更新

岡田武史氏の、シニア・アドバイザー契約を更新する。

・岡田 武史／参与／株式会社今治、夢スポーツ 代表取締役会長

<職務>

常務理事会にアドバイザーとして出席し意見を具申

アドバイザーボードの統括および取りまとめ

その他本協会の運営全般に関し、会長およびその他の理事へのアドバイス

<委嘱期間>

2020年4月1日から2022年3月に開催される定時評議員会終結の時まで

<その他委嘱事項>

将来構想委員会の委員 ※シニア・アドバイザー契約の範囲外

- ① なでしこジャパン 2020 SheBelieves Cup
- ② 全日本大学選抜 第34回デンソーカップチャレンジサッカー 宮崎大会(中止)
- ③ JFA 第31回全日本O-30女子サッカー大会(中止)
- ④ JFA 第31回O-40女子サッカーオープン大会(中止)
- ⑤ JFA 第25回全日本フットサル選手権大会(中止)

※NCS: ナショナルコーチングスタッフ、NTC: ナショナルトレセンコーチ
 VAR: ビデオアシスタントレフェリー、AVAR: アシスタントビデオアシスタントレフェリー

なでしこジャパン 2020 SheBelieves Cup

<スタッフ>

○監督: 高倉麻子(NCS) ○コーチ: 大部由美(NCS) ○GKコーチ: 大橋昭好(NCS) ○フィジカルコーチ: 広瀬統一(NCS/早稲田大学)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	池田咲紀子	浦和レッズレディース	MF	初本結花	日テレ・東京ヴェルディベレーザ
	山下杏也加	日テレ・東京ヴェルディベレーザ		長谷川唯※3	日テレ・東京ヴェルディベレーザ
	平尾知佳	アルビレックス新潟レディース		杉田妃和	INAC神戸レオネッサ
DF	熊谷紗希	オリンピック・リヨン(FRA)	FW	三浦成美	日テレ・東京ヴェルディベレーザ
	松原有沙	ソシエタス神奈川相模原		遠藤純	日テレ・東京ヴェルディベレーザ
	三宅史織	INAC神戸レオネッサ		菅澤優衣香	浦和レッズレディース
	土光真代	日テレ・東京ヴェルディベレーザ		岩淵真奈	INAC神戸レオネッサ
	清水梨紗	日テレ・東京ヴェルディベレーザ		田中美南	INAC神戸レオネッサ
MF	富川麻都	日テレ・東京ヴェルディベレーザ	上野真実	愛媛FCレディース	
	南萌華	浦和レッズレディース	池尻菜由	マイナビバルタ仙台レディース	
	中島依美	INAC神戸レオネッサ	小林里歌子※1	日テレ・東京ヴェルディベレーザ	
	猪本光	浦和レッズレディース	植木理子※2	日テレ・東京ヴェルディベレーザ	

(熊谷は2日にダラスでチームに合流)

※1: ケガのため不参加
 ※2: 追加招集
 ※3: ケガのため離脱

FRA: フランス

<スケジュール>

3月2日 集合、成田発、ダラス経由、オーランド着
 3日 トレーニング (University of Central Florida)
 4日 公式トレーニング (Exploria Stadium)
 5日 2020 SheBelieves Cup
 第1戦 vs ス페인女子代表 (同上)
 トレーニング
 (Barker Family Stadium & Cahall-Sandspur Field)、
 移動
 7日 公式トレーニング (Red Bull Arena)
 8日 第2戦 vs イングランド女子代表 (Red Bull Arena)
 9日 トレーニング (ホテル内)、移動
 公式トレーニング (Toyota Stadium)
 10日 第3戦 vs アメリカ女子代表 (同上)
 11日 ダラス発
 12日 成田着、解散
 13日

順位	アメリカ	スペイン	イングランド	日本	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	アメリカ	1 0 0	2 0 0	3 0 1	9	3	0	0	6	1	5
2	スペイン	0 0 1	1 0 0	3 0 1	6	2	0	1	4	2	2
3	イングランド	0 0 2	0 0 1	1 0 0	3	1	0	2	1	3	-2
4	日本	1 0 3	1 0 3	0 0 1	0	0	0	3	2	7	-5

○勝ち(勝点3)、△引分け(勝点1)、●負け(勝点0)

第1戦

なでしこジャパン **1** (前半1-1 後半0-2) **3** スペイン女子代表

●2020年3月5日 16:23 ●Exploria Stadium ●試合時間:90分 ●審判員:[主審] Ekaterina Koroleva ●審判員:[副審] Deleana Quan、Kathryn Nesbitt [第4の審判員] Lucila Venegas ●観衆:7,528人

日本(監督:高倉麻子):[GK](18)山下杏也加 [DF](2)清水梨紗(4)熊谷紗希(5)南萌華<→64'(3)三宅史織> [MF](6)杉田妃和(7)中島依美(17)三浦成美(19)遠藤純<→HT(16)富川麻都> [FW](8)岩淵真奈<→77'(23)上野真実>(9)菅澤優衣香<→HT(15)田中美南>(13)池尻菜由<→57'(10)初本結花>

控え:(1)池田咲紀子(2)平尾知佳(11)植木理子(12)猪本光(14)長谷川唯(20)松原有沙(22)土光真代

スペイン(監督:Jorge Vilda):[GK](1)LOLA Gallardo Núñez [DF](2)ONA Batlle Pascual (5)IVANA Andrés Sanz(7)MARTA Corredera Rueda<→87'(3)AINHOA Vicente Moraza>(20)ANDREA Pereira Cejudo [MF](11)ALEXIA Putellas Segura<→80'(6)AITANA Bonmati Conca>(12)PATRICIA Guijarro Gutiérrez<→HT(17)LUCÍA García Córdoba>(14)VIRGINIA Torrecilla Reyes [FW](8)MARÍA FRANCÉSICA Caidentey Oliver<→HT(21)SHEILA García Gómez>(9)MARTA Cardona De Miguel<→78'(22)ALBA Redondo Ferrer>(10)JENNIFER Hermoso Fuentes<→67'(19)AMANDA Sampedro Bustos>

控え:(13)SANDRA Paños García-Villamil(23)MASUNCIÓN Quiñones Goicoetxea(4)IRENE Paredes Hernández(15)LEILA Ouahabi El Ouahabi(16)MARÍA PILAR León Cebrián(18)ÁNGELA Sosa Martín

[日本]44'岩淵真奈(1-1)
 得点 [スペイン]8'ALEXIA Putellas Segura(0-1), 48', 78'LUCÍA García Córdoba(1-2)(1-3)

第2戦

なでしこジャパン **0** (前半0-0 後半0-1) **1** イングランド女子代表

●2020年3月8日 14:23 ●Red Bull Arena ●試合時間:90分 ●審判員:[主審] Ekaterina Koroleva ●審判員:[副審] Brooke Mayo、Felisha Mariscal [第4の審判員] Danielle Chesky ●観衆:14,758人

日本(監督:高倉麻子):[GK](1)池田咲紀子 [DF](2)清水梨紗<→45'(19)遠藤純>(3)三宅史織(16)富川麻都(22)土光真代 [MF](6)杉田妃和(7)中島依美(10)初本結花(17)三浦成美 [FW](8)岩淵真奈<→66'(11)植木理子>(15)田中美南<→76'(23)上野真実>

控え:(18)山下杏也加(21)平尾知佳(4)熊谷紗希(5)南萌華(9)菅澤優衣香(12)猪本光(13)池尻菜由(14)長谷川唯(20)松原有沙

イングランド(監督:Phil Neville):[GK](13)Ellie Roebuck [DF](2)Rachel Daly(5)Steph Houghton(6)Millie Bright(12)Demi Stokes [MF](4)Keira Walsh<→60'(14)Leah Williamson>(10)Jordan Nobbs<→90+1'(8)Jill Scott>(16)Georgia Stanway<→69'(17)Lucy Staniforth> [FW](9)Bethany England<→69'(18)Ellen White>(20)Lauren Hemp<→60'(11)Toni Duggan>(22)Chloe Kelly<→60'(7)Nikita Parris>

控え:(1)Carly Telford(21)Alexandria MacIver(3)Alex Greenwood(15)Abbie McManus(19)Alessia Russo(23)Grace Fisk

得点 [イングランド]83'Ellen White(0-1)

警告 [日本]61'杉田妃和 [イングランド]54'Chloe Kelly

第3戦

なでしこジャパン 1 (前半0-2 後半1-1) 3 アメリカ女子代表

●2020年3月11日 19:08 ●Toyota Stadium ●試合時間:90分 ●審判員:[主審] Melissa Borjas ●審判員:[副審] Shirley Perello / Yudilia Briones [第4の審判員] Tatiana Guzman ●観衆:約19,000人

日本(監督:高倉真子):[GK](18)山下杏也加 [DF](3)三宅史織(4)熊谷紗希(5)南萌華(22)土光真代 [MF](6)杉田紀和(7)中島依美(10)稻本結花<→84'(11)植木理子>(17)三浦成美 [FW](9)菅澤優衣香(15)田中美南<→HT(8)岩淵真奈>

控え:(1)池田咲紀子(21)平尾知佳(2)清水梨紗(12)堀本光(13)池尻菜由(16)宮川麻都(19)遠藤純(20)松原有沙(23)上野真実

アメリカ(監督:Vlatko Andonovski):[GK](21)Adrianna Franch [DF](5)Kelley O'Hara(7)Abby Dahlkemper(12)Tiarna Davidson<→HT(4)Becky Sauerbrunn>(19)Crystal Dunn<→61'(20)Casey Short> [MF](3)Samantha Mewis<→72'(16)Rose Lavelle>(8)Julie Ertz(9)Lindsey Horan [FW](15)Megan Rapinoe<→61'(2)Mallory Pugh>(17)Tobin Heath<→78'(13)Lynn Williams>(23)Christen Press<→71'(10)Carli Lloyd>

控え:(1)Alyssa Naeher(18)Ashlyn Harris(6)Andi Sullivan(11)Ali Krieger(14)Emily Sonnett(22)Jessica McDonald

得点 [日本]58'岩淵真奈(1-2) [アメリカ]7'Megan Rapinoe(0-1)、26'Christen Press(0-2)、83'Lindsey Horan(1-3)

警告 [日本]5'田中美南、90+1'植木理子 [アメリカ]50'Tobin Heath



第3戦 なでしこジャパン vs アメリカ女子代表

全日本大学選抜 第34回デンソーカップチャレンジサッカー 宮崎大会

(※新型コロナウイルスの影響により中止)

一般財団法人全日本大学サッカー連盟およびJFAが主催する本大会は、2019年度のJFAおよび全日本大学サッカー連盟登録選手(原則3年生以下の者)に参加資格が与えられた。今大会は3月3日~5日に宮崎県で開催、8チームの出場が予定されていた。

【参加予定チーム・選手】

<全日本大学選抜> 監督:根本直也
中野小次郎・早坂勇希・稲葉亜我志・山原裕音・角田涼太郎・森岡隆・蓮川壮大・高木友也・常本佳吾・林尚輝・佐藤琢大・橋田健人・宮本優太・菊地泰智・シマブクカズヨシ・鳥海芳樹・梶玉駿斗・神垣隆・佐藤大樹・佐藤凌我・松本幹太・小柏剛

<東海選抜> 監督:朝倉吉彦
稲葉亜我志・坪歩夢・北島新輝・山下柊哉・岸田悠佑・金子力矢・前田結菜・宮田和哉・速水修平・安藤智哉・秋山仁・谷口祐亮・加田淳哉・加藤弘也・根本啓吾・原科勇我・中島郷・白川大吾・東山達稀・久保藤次郎・山本慎真・濱田竜輝

<中国・四国選抜> 監督:野野真也
中村将英・中島豊輝・山下翔也・濱口俊介・永田魁・塚本和輝・藤武剛・佐々木敦河・松下大祐・長井響・倉本奏・福島凌・直江勇輝・南野心・久保田蓮・泉勇也・坂東春吾・原田啓史・西山雄大・吉田源太郎・小倉貴太・山本駿亮・崎山賢斗・今田海斗・河田大聖・柳迫仁

<関東選抜A> 監督:長山一也
早川友基・佐藤久弥・飯吉将通・須貝英大・三國ステビアエクス・関口正大・遠藤凌・杉山耕二・岩下航・アビアタウ・アウ・山崎大地・野本幸太・渡邊陽・田中和樹・奥村晃司・伊藤教樹・知久航介・平松昇・松岡大智・大谷京平・狩土名禰・長谷川元希・大森真吾・森本ヒマン・塩浜凌

<九州選抜> 監督:西野晃平
真木晃平・中村駿介・清水翼偉・宮崎海斗・濱口功聖・前野翔伍・阿部海斗・斎藤諒・河野秀汰・岡野凌平・田中純平・藤本一輝・倉原宏人・立岩玄輝・井上龍太・木橋順輝・山口卓己・田畑篤郎・根本凌・梅木翼・宇津元伸弥・藤野裕樹

<北海道・東北選抜> 監督:三田和典
井岡海都・武村勇希・坂井甫・原巧佑・泉山凌馬・石川陸・藤田一途・向山裕麻・細山海斗・中山和紀・相田勇樹・嵯峨理久・鈴木理久・高橋耕平・鮎田太陽・小林義樹・棚田佑斗・下田友也・金城光希・人見大地・吉行豊輝・河合悠人・山内陸・秋元優・伊藤宙・樋口颯太

<関西選抜> 監督:尾内伸行
田中颯・馬場裕斗・泉森淳太・真瀬拓海・木出雄斗・堂鼻起唯・長井一真・山下令雄・森路大・本山遥・小林海・松尾勇佑・田中康介・坪井一真・佐藤昂・藤井智也・安藤雅修・山見大登・松本歩夢・堤原翼・山口拓真・延祐太・矢野龍斗・木村勇大・高橋一輝

<関東B・北信越選抜> 監督:安武亨
山内康大・坪井湧也・薄井剛斗・浅野嵐人・養田広大・深澤大輝・高部大己・今掛航貴・猪俣主真・藤原光・井川玄・鍛冶祐弥・平山駿・鈴木康幸・安居海渡・満田誠・東出壮太・松本雄真・鈴木翔太・寺山翼・岩本輝・荒木駿太・加藤拓己・権原友哉・大竹将吾・小森飛南

JFA 第31回全日本O-30女子サッカー大会

(※新型コロナウイルスの影響により中止)

JFAが主催する本大会は、1989(平成元年)年12月31日以前生まれのJFA登録選手(女性)によって構成されたチームに出場資格が与えられた。今大会は、3月20日~22日に静岡県裾野市で開催が予定されていた。

【参加予定チーム・選手】

<室蘭アイスバーズ> 監督:武藤貴啓
高橋遥・渡野部京・波佐谷灯子・大門春奈・澤田一恵・赤間奈津美・武藤希代美・河野沙夜花・伊原このみ・稲森律子・小松良子・中村麻衣・堀真以子・冨田舞・小林富樹子・浅川清美・尖戸智子・村本結子・田中恵・伊原八重子・則松由美子・中島綾香・尾野美香

<BLAUE WALD> 監督:相馬真以
鈴木千尋・伊藤さとみ・平栗詩乃・田澤裕子・館祐子・石塚史乃・成田千秋・奥村のどか・森満穂・川村香織・佐々木良美・竹中ユキ・成田未央・石村良美・相馬真以・齋藤菜・樺田早苗

<FCベにはな> 監督:菅野博子
岡部真依・渡邊とも子・片山容子・三原まゆ・武田優・遠藤千明・鈴木朱美・石田智子・友野朋子・菅野博子・松村菜津子・仁藤千晶・五十嵐あゆみ・小田千絵美・三坂麻紀・渡部祥子・坂本慶子・鈴木未央・佐藤愛

<UHLANI FC> 監督:鈴江紗希
濱田由貴・松原萌・山田ゆり香・中野絵美・吉本空美・川添沙緒莉・木本育代・松本あゆみ・渡部かほり・滝口敦子・鈴木有希・河村乃里子・森岡寛美・窪田飛鳥・岩倉三恵・堀広実・大門亜紗乃・豊田奈々葉・鎌倉彩・伊藤美菜子・岩田美之里・鈴木薫子

<東京アルテミスSC> 監督:増田康行
名嘉地麻美・阿部三恵・柿沢和美・石田美雪・小田島雪枝・西口柄早・高橋優子・大山百合子・小田嶋有希・住谷恵理子・萩野泰子・笠嶋由恵・佐藤久理・秋山美帆・高柳紀代江・今野茉莉・中村公美・大谷明香・小谷野優・石塚千智・金子えり・藤本まどか・高橋純子

<小平サッカークラブ> 監督:滝澤貴一郎
馬場鏡・渡邊仁美・竹村茜・町田真子・滝澤志那・山内由希・小楠志乃・泉美幸・山崎玲美・古藤宇南・石川恵理子・藤田知子・中島彩子・豊増由美子・萩原鐘・手塚梓・長谷川歩美・鈴木美帆・岸澤育代・阿多珠美・高島樹理・佐藤聡美・岡田未央

<横須賀シーガルズレディース> 監督:早坂啓三郎
吉田絵美・榎橋和子・静川有希・宮崎千春・西村由紀子・川村寿子・三笠祐子・渡邊亜紀・吉田瑞季・鈴木藍子・平野綾子・櫻堂由希子・坂田瑞恵・堂下弥生・橋井明香・加瀬菜子・高橋奈緒子・早坂優・箕輪文緒・幸田佳織・山口一美・金谷美奈子・小山舞・久保川由美・八木田ゆづみ

<長野フレンズ> 監督:池田貴子
唐木あかね・富之尾寛子・高木奈央・水守里衣・菅澤みゆき・松澤道代・太田綾子・山口由香・徳武智美・田中舞・松林早矢香・橋浦さつき・藤澤麻貴・吉田葵

<Legame> 監督:宮本ともみ
山口絢子・山岸靖代・道倉宏子・山田真理・那須麻衣子・澤井理恵・宮本ともみ・田中千代・小野鈴香・山岡裕子・佐藤愛・吉澤ひかり・中嶋喜美・小林真規子・大野摩耶・宮川葉月・宮内賀恵・有馬静佳

<おいでやす京都> 監督:西村慶太
佐々木香織・阿漕洋子・道下愛子・福岡あかね・細川元代・柳原久見子・柏教恵・神社藍・生本あゆみ・吉田優美・谷口絵美・小村美聡・谷原ゆかり・山田奈央・富田恵未子・奥田伶香・柳節英・葛間理代・池内里紗・増田志乃

<鳥取レディース> 監督:松長俊和
鎌末美樹・原洋子・中村めぐみ・穴田圭美・門脇真弓・足川めぐみ・奥田裕子・平田静・井上雅子・竹之内真理子・遠田佳織・岩崎美佳・野村幸子・上田成美・松本奈美・河村優美子

<SORRISO広島> 監督:佐川誠
吉田春香・重本祐佳・酒井まどか・飯井奈緒・石川琥珀・上田絵未・佐川ルリ・築本志穂・中野麻衣・杉裕美・上谷久美子・藤坂美奈・難波明子・津田里美・若見直美・大塚涼子・國吉美由紀・竹下颯

<Angora> 監督:池田知佳
桂本泰子・永田加奈恵・原田靖子・三宅なつみ・田中陽子・池田浩子・下山千晴・森安理恵・酒井三和・山川莉々加・武地裕子・瀧元麻希・清藤恵子

<高知ユナイテッドSCレディース> 監督:江澤みずほ
近藤倫・岡林直子・原田靖子・福島雪恵・高瀬葵・秋山信恵・江澤みずほ・川原三鈴・山沖真美・溝淵真記・谷口貴代・中西ひろ・浜口牧・杉本美里・島田佐代・江澤のぞみ・浜田美保・山下志保・黒川恵・崎本華絵・公文葉子・川久保香

<沖繩県レディース> 監督:仲程七絵
山内夕莉・神谷絵美・藤野愛子・白土佳那・園村奈菜・木村絵梨・久志美野・金城恵奈・比嘉真理保・山城貴子・渡辺樹里・仲程美鈴・金城恵・仲程七絵・大塚夏希・中村安希・譜久村美波・伊井清乃・平山愛・光延さち・藤原聖羅・宜志富千夏・山川智恵美・屋比久愛美

<SAGAN WAVE> 監督:浪瀬隆一
松本明子・古川こよみ・寺崎あゆみ・横山知美・中山なつみ・吉賀久美子・山口智美・樋口麻美・古川未来・永松佐知子・龍あかね・寺井裕子・上岩玉恵・宮崎美由紀・大塚公美子・前田奈美・碓臈子・妹尾知恵子

JFA 第31回O-40女子サッカーオープン大会

(※新型コロナウイルスの影響により中止)

本大会は、JFAが主催し、1979(昭和54)年12月31日以前生まれのJFA登録選手(女性)によって構成されたチームに出場資格が与えられた。今大会は3月20日~22日、兵庫県三木市で開催が予定されていた。

【参加予定チーム・選手】

<HABATAKE> 監督:田山加奈子
蝦名宏美・田山加奈子・白鳥早苗・伊勢まゆみ・氣境聖子・武田智美・水本理恵・菊池志帆・成田律子・末永千草・杉本麻衣・井下麻梨乃・正木小雲・斎藤忍・若本淳子・岡田由香・福島りり

<F.C.V.イレブン> 監督:片桐美智哉
青木史江・山崎美由紀・高野愛子・小関紀子・白岩尚美・植松みゆき・鈴木聖子・鈴木祥子・菅本統子・高田道子・佐藤加菜子

<千葉・ベイスワーズ> 監督:渡邊孝
山根充世・森田朱美・山下弘子・山本ひろみ・鎌谷育子・伊藤美恵子・山中里絵・佐藤ともえ・新村麻乃・村山理恵・風岡佐和子・河野映

<大崎クラブすみれ・八王子ステキニスト> 監督:前田洋
島田友子・岡村美保・堀口セイ子・渡辺宏美・今野久美子・是枝恵美子・谷口美智子・宇佐美直子・秋山洋子・日置クミエ・熊澤珠貴・馬場佳津子・渡邊恵・村上拓子・河野孝子・井上伊都子

<長野ファミリー> 監督:川原幸子
川原幸子・浦野雅子・平出ひとみ・坂本佳子・永田日出子・村上文・関忍・横山恵美子・小澤真由美・大和亜矢子・竹内好恵・瀬戸美保・小林千穂・牛山麻衣子・金子玲子・山口妙佳

<FC JEWEL> 監督:大谷淳子
秋山あゆみ・柳幸枝・佐野裕子・小泉俊子・菊地千恵・矢久保玲子・山本麻子・中澤真理子・大木かずみ・上原江利子・斎藤弘美・佐藤栄子・山崎栄子・木原幸子・坂井淑子・枝並素子・土屋晶子

<La Bell Equipe> 監督:井上奈美
山崎順子・水永英恵・山本由紀・藤田智子・黒田幸子・浦野由里・井上奈美・吉田聡子・上田詔子・萩中愛香・中谷貴馨恵・松井のみ子・丸山みさ・岩行富子・東真理子

<FC.TONレディース> 監督:源野貴
坂本小百合・奥村玲美・高瀬真理子・上野尚子・霞原百合子・西川真美・越野慎子・菅野泰子・下田悦子・松本多美子・不野真奈美・吉永真美子・宮本希世子・萬谷暁子・牛村智美・相布浦智恵子・松本恵美子・坂田由紀子・辰巳志麻子・田丸江理

<オール清水レディース> 監督:岩崎清巳
石橋嘉代乃・藤川浩子・河本千秋・林由紀・山田光恵・安池友美・矢野加奈子・望月真理子・杉山千恵美・加藤みずほ・伏見有希・谷内民恵・小泉雪子・福永久代

<LFC TOYOTA> 監督:佐々木友美
伊藤あかね・寺倉正恵・河村ひで美・佐々木友美・窪美根子・磯村理恵子・佐々木里香・中野さおり・井上希美・中野悦子・後藤まき・山本奈美

<刈谷FCプロジェクト ソニア> 監督:矢崎由佳
川瀬ふみ・黒野慶子・小坂美貴・古市理絵・森本弘子・山口日登美・小原敬子・矢崎由佳・田辺由美・田口靖子・今枝梢・浅井絵美

<刈谷マドレー> 監督:金子幸代
沼沢百合子・山崎美智子・拓橋奈津紀・金子幸代・深谷和子・鈴木佐代子・鈴木みき・柴山友貴・神谷真由美・田中亜紀子・佐野史子・小林礼奈・松尾純子・倉知桂子

<四日市FCエルマーナ> 監督:窪田和彦
広瀬和子・飯口藤喜・辻美津子・中西優子・大立目みのり・宇佐美美恵子・鈴木豊子・今井ゆづき・田海みどり・高橋泰代・中道尚美・牧田ひとみ・有村美穂子・伊藤美奈子・奥井圭未・荻内浩美・松井由紀・西上喜美子・塩田真由美・立花さとみ

<JUVEN.FC.FLOR> 監督:深尾茂樹
畑中敬子・菱沼涼子・河口百花・浦田江里・水上幸子・安田なみえ・田中百合子・植田智美・女ヶ沢充代・深尾直美・工藤治代・服部みゆき・杉下麻美・吉村雅美・山下暁美・渡邊寿美恵・福田和子・栗本智子

<滋賀 甲賀忍> 監督:森島美穂子
八里八重子・神宮由美・正田千里・南田菊江・小林千秋・加藤知子・若林久美・狩野優子・森島美穂子・猿口和美・鳥家幸代・伊東新・川中里恵・伊藤せい子

<おいでやす京都> 監督:木村リエ
和井田早苗・大村薫・世良記子・林憲子・木村リエ・谷村朱知子・高橋直美・堀あさひ・誤合由恵・尾中清香・中村真美・出村安希子・十二里有紀・清水順子・山内美津留・加藤桂子・村上航

<グスターレ大阪> 監督:奥田亜希子
轟奈都子・吉田直子・藤井春美・細川真由美・井口佳世・渡邊史帆子・山本味穂・西田美穂子・石川成子・藤原美佳・中沢彩衣里・黒島有希・武谷彰子・藤川絵利子・鎌谷友希・藤本美和・井上亜耶・森本敬子・東丸美沙・松世伴美

<Maring SAKURA> 監督:中岡麻衣子
西田洋子・花田真里・田辺輝・田村昌美・中村直子・毛利知歩・大飼尚子・秋山愛・大澤直子・水口智美・城戸志絵・梶山直子・久保幸子・古田美代子

<トバス神戸> 監督:村田文夫
森兼朝子・石井紀世・位田由佳子・高田晃子・岡部博子・位田香里・北川容子・鈴木直子・岡田緑・城田律子・内田典子・樋口彰子・青木さや香・須方和美・樋口宏美

<バンヴェール兵庫> 監督:難波達也
角田容子・野中めぐみ・堀田歩・安田夏子・大西芳枝・尾崎晶子・安部充子・加古由希子・石田亜也子・高橋加奈・高橋玲奈・鈴木由美・石原尚美・塩田裕子・沼澤子

<ボルト神戸FC> 監督:加治真弓
田中靖子・兼吉裕子・加治真弓・金田明子・中野美八・泉紀子・田中真由美・中谷明子・吉田智美・吉田万帆・沖田絵美・小林美加・小笠原としみ・東川彩・榎木舞子・福垣昌子・久保田美香・有持寿美代・由良薫・横橋美代子

<高砂フットボールクラブ'72&夢野ファイターズ> 監督:赤星光男
古谷久代・西林光・佐伯静・永井珠美・榎上愛貴・服部博子・多喜眞由美・松岡江利子・室井奈美子・十亀浩実・清水有希子・矢野直美・上林のり子・井奥美紀子・栗津よしい・佐野加奈子・松尾みよー原美和

<NARAレディース> 監督:川端知美
保井智香子・中村悦子・高岡訓子・板東加奈子・松上安代・島山民枝・大谷有紀子・橋本由美・南理絵・八尾晴美・奥田洋好・筒井美智子・齋須玲奈・川端知美・小松原玲・山本真弓・北村直子・伊藤依子

<Angora> 監督:池本几子
池本几子・川江由佳里・牧野都・山崎敬子・平尾永子・角南紀恵・廣川智恵子・植田仁美・治郎丸和子・藤木みゆき・三木佳子

<FC EFFRONTE> 監督:丸本明
平田優子・佐々木由巴子・濱田則江・永来夕子・古市智恵美・永木ユカリ・三谷睦美・西村知子・橋本知子・林敬子・藤田早苗・山形美由紀・戸羽万里子

<広島FCLレディース> 監督:三樹博恵
片山由賀・大垣直美・日高利江・古川アイ子・橋本かおり・永留かおる・島尾尚美・大和忍・高松ひとみ・長尾節子・米広明子・藤本陽子・山西裕恵・石丸圭子・岩田美香・畑村和美・宮崎昭子・長谷川奈保美・三樹博恵

<萩レディース> 監督:重枝清一
林尚美・山崎綾子・高田由紀子・辰巳雅香・野口有里・川岸恵美・宮本智子・濱田裕美子・小田裕子・藤井美園・田中理沙・春永陽子・吉村亜弥・伊藤奈美江・中川恵・末岡民枝・井上章江

<CSP madre> 監督:榎本恵美
井内美紗・浅香志津・端村範子・富田美保・高橋史子・田辺泰子・谷本利恵・西川恵美・武市千春・濱田和代・筒井早苗・伊藤寛子・稲山由佐・佐藤ゆかり・小松りか・長谷英子・吉田晃子・橋本結佳・林依恵子

<オムニバス愛媛> 監督:島津一也
小田智子・島津香里・前野麻記・金村茂子・山内和江・松本香代子・吉田美亜・吉見あや・菊池恵
弓山千亜紀・三浦香子・田中真利子・森明美・松岡佳子・増井日登美・油内亜子・松下美智子
高橋元子・辻麻紀子

<スポーツの森・大津マリノス> 監督:今村英香
鈴木聖美・今村英香・藤田由美子・田代智美・村上寿美・濱崎覚美・西嶋弥生・福田史・松浦和
美・守田有純佳・上土井真実・坂田幸・武富波路・島田佳由子

<中津フットボールクラブPOMATO> 監督:古西譲司
岩田知香・佐藤裕美・諸熊千穂・井口三千代・奥村真琴・佐藤和美・運輸和恵・小木戸由佳・河
野千恵子・林京子・小野友美子・村本弥寿美・高しのぶ・寺本江理子・有馬菜探子・廣本智佳子
野田初美・松原マヤ

<沖縄県レディース> 監督:倉原英弘
川井裕美・江藤真生子・春日うつき・平良美奈子・米盛佳織・植村敦子・松田紫織・増田舞・高良
ひ子・金城尚美・金城恵・仲程七絵

JFA 第25回全日本フットサル選手権大会

(※新型コロナウイルスの影響により中止)

JFAが主催する本大会は、フットサル1種または2種の種別で加盟登録を行い、2004年4月1日
以前に生まれた選手で構成されるチームに出場資格が与えられた。1回戦・2回戦は3月14日
〜15日に静岡県 愛知県 大坂府 兵庫県で、準々決勝〜決勝は3月20日〜22日に東京都 駒
沢オリンピック公園総合運動場体育館で開催。32チームの出場が予定されていた。

【参加予定チーム・選手】

<エスポラーダ北海道> 監督:小野寺陸彦
坂柱輔・高山剛寛・小幡貴一・内田洗介・小島翼・宮原勇哉・十川祐樹・鈴木裕太郎・鶴岡広之・
田辺健・阿部恭也・佐藤明生・木村優太・水上玄太・三浦憂・和田泰斗・佐藤辰之介・堀米将太・
三上優貴

<ヴォスクオーレ仙台> 監督:清水誠
柿原諒一郎・柴田孝平・荒牧太郎・小野寺那央・田村研人・森村孝志・藤山翔太・井上卓・内野
脩蔵・ウシヤマ イザケ・鈴木紳一朗・丸山将輝・加藤賢・坂口勇樹・梶田拓基

<バルドラール浦安> 監督:アルベルト リケル
ディドゥダ・原辰介・永島俊・加藤竜馬・藤原潤・青山竜也・石田健太郎・西村祐貴・三浦慎太郎・
野村啓介・福重剛徳・小林蒼二・宮秀文・丸結生・長坂拓海

<フウガドールすみだ> 監督:須賀寛大
大黒章太郎・外川海斗・春木啓佑・緒江剣語・岡村廉平・宮崎暁・ガリシヤ・田村佳翔・田口元
氣・上堀元俊哉・三笠貴史・デネル・栗本博生・渡井博之・鈴木翔太・丹羽脩人・岸将太・ダニー
ロ・中田秀人

<立川・府中アスレティックFC> 監督:山田マルコス勇誌
田中俊則・皆本晃・間尚貴・内田隼太・上村充哉・金澤空・完山徹一・渡邊知晃・新井裕生・マル
キーニョ・ジョー・小村航生・浅井凱斗・堤優太・水田貴明・酒井遼太郎・クロモト

<ベスカドーラ町田> 監督:ルイス ベルナルト
ピレス イゴール・日根野谷建・森谷優太・金山友紀・横江裕・クレバウジ ヴィニシウス・室田祐希・
小野寺優介・伊藤圭法・藤原幸紀・毛利元亮・甲斐稜人・二井岡嘉登・倉科亮佑・中村充・新倉
康明・本石望裕・菅谷知寿

<湘南ベルマーレ> 監督:奥村敬人
高橋大太郎・野口健吾・久光重貴・植松崇都・中島孝・別達真人・マルロン・ロドリゴ・林田フェリペ
良孝・徳元元氣・内村俊太・高崎崇磨・山崎歩夢・浦上浩生・飯田千馬・本田真流虎洲・フィウ
ザ

<ポアルス長野> 監督:横澤直樹
山田正剛・ウイリアン・北原健治・西巻直直・花嶋悠・小林大晃・松本裕功・松永翔・堤浜ヒデキ・
田口剛志・藤原哲也・原山英之・有江拓平

<名古屋オーシャンズ> 監督:フエンテス
浅田龍馬・関口俊志・水谷颯真・星龍太・安藤良平・ヘビータ・ヴァルチーニョ・星翔太・ラファ・西
谷良介・吉川智貴・八木聖人・橋本優也・笠井大輝

<シュライカー大阪> 監督:比嘉リカルド
高見政嗣・アルトゥール・齋藤日向・堀内迪弥・加藤未清美・前鈍内マティアス エルナン・相井忍・
小曾戸尤哉・永島天太・仁井貴仁・今井翔・田村友貴・楠山昇吾・アンドレウ・鈴木雄大・福田瑞
穂・ドウドウ

<バサジィ大分> 監督:伊藤雅範
矢澤大夢・石黒結久・田村龍太郎・瀧澤大将・ヴィン・レイチ・仁部屋和弘・山田ラファエル ユウ
ゴ・バカッ・白方秀和・吉田圭吾・小門勇太・森深・橋野司・岩永汰紀・芝野創太

<トルエーラ柏> 監督:松田大次郎
鎌塚剛史・永野雅也・北丈純・山崎元明・樋口岳志・坂崎良太・林賢治・チーニョ・柴田祐輔・大江
トム・根津卓巳・宗像結輝・大塚直希・半田淳一・小島義瑛・山口友輔

<Y.S.C.C.横浜> 監督:前田佳宏
鈴木隼太・高橋健・伊藤玄・北野聖夜・中野和也・宿本諒太・橋本裕貴・滝沢拓也・黒田隼二郎・
廣戸大志・山口諒・井原智・稲葉洗太郎・樋口末樹也・山形拓斗

<アグリメーナ浜松> 監督:豊島明
伊名野慎・堀北一輝・萩原洪拓・松本行令・松浦勇武・田中智基・中村友亮・山崎正謙・山元優
典・須藤慎一・磯田剛志・日永田拓作・岡島工・野嶋倫・河原田達・中村章

<デウソン神戸> 監督:鈴木拓也
馬場翔太郎・金尾裕太・高丹泰聖・三村里菜・柿本輝・濱崎仁嗣・森本碧・小村優太・藤川朋樹・
小西雄大・伊藤公哉・和田洋平・ジョンウ

<ボルセド浜田> 監督:山本尚希
中田貴大・角祐梧・久保田二・霰出聖也・三浦祐人・布田有祐・橋岡翔大・遠岡昌弘・宮本拓・岡
本生成・本橋勇太郎・安藤拓真・川内廉幹

<広島エフ・ック> 監督:村上哲哉
吉村和大・尾関潤・水田伸明・永井聡・和崎翔大・津田卓・川田尚幸・武田侑也・小松遊斗・佐々
木諒・寺本芳希・江藤良輔・富廣洋平・阿部寛大・南口竜雅・三島光太郎

<ポルケレット北九州> 監督:馬場源徳
澤野亮太・村山竜三・田口友也・末村尚也・横山巧・安嶋健至・小林謙太・ウーゴ サンチェス・宮
川太陽・長坪優希・清水誠也・山根純平

<サフィールヴァ> 監督:小松竜也
石井圭・志田翔翼・工藤健太・鈴木雅人・関大吾・石本学・櫻田鏡介・小松竜也・伊藤謙・南清
也・萩根沢剛・岡市拓人・小川泰成・山田海・佐藤健・岩野黎音・山住柚葵・戸田貴英・江良祐哉

<レジェンダフットサルクラブ> 監督:村上琢也
須金賢治・高橋圭・藤原一哉・村上琢也・浦山将輝・岸稔之・綱木謙・高木朋成・中俣徹・三浦元
気・浦山義人・小関圭太・酒井基成・北村孝一・和泉隼・石橋理志・箕輪佑允

<ベスカドーラ町田アスピランテ> 監督:岡山孝介
後藤鏡介・阿部成那・眞中佑斗・千葉涼平・荒木駿成・佐藤達也・福田亮・鈴木幹太・松村泰平・
板橋瑠聖・田代孝幸・藤山敬太・宮崎貴史・田島亮・高橋裕大・岩本大輝・雲切啓太・田嶋良安・
清水翔・土間優慶

<コロナFC/権田> 監督:鈴木正太
野崎紀行・藤川優佑・小倉真生・山本直・島島慎吾・山村和士・池田健・水川航平・山村朋也・寺
尾幸嵩・崎井心・八木流輝・船島賢佑・江成裕明・大塚徹・小池太郎・木藤彩季・黒沢雄太

<マルバ茨城fc> 監督:浅野智久
山本汐音・早島島幸・緑川毅輝・酒井康平・鈴木永樹・伊藤俊輔・船橋龍人・渡辺新一・遠藤昂
岡田朋也・加本剛史・藤尾圭吾・小島優人・菊地雄介・馬場和也・根本久敬・荒井佑太・柳敬馬

<トロボラボ山> 監督:戸田博康
橋和徳・中塚浩和・白川佑也・左尾豊博・善浦晴貴・酒井深平・中村俊志・橋田匠・中山良彦・小
林恵嗣・柏原徳明・二口大樹・西内康裕・森川雄二・中井晃・細川陽平・中村祐大・永田周也・阿
部智樹・上田勇斗

<名古屋オーシャンズ サテライト> 監督:若山伸太郎
塚祥慶・矢内大介・中村亮治・板井佑駿・エッジ カルロス・武田彰・川邊寛悟・野村悠翔・川本
樹樹・加藤翔輔・巽優太・福富颯大・安彦憲史郎・大澤将士・村川翼・仲井大貴・イワシ ナオキ・
藤川侑哉・美馬直輝・下田康聖

<テラヤオーネ岐阜/AGM> 監督:荒川博行
石原健太・木村圭佑・吉田達矢・日高真吾・荒川博行・那須信夫・伊藤雅士・星友彬・塚原健太・
福垣秀弥・星塚隼紀・岡山和司・田中凌太郎・田辺康太・野村祥太

<びわこ成蹊スポーツ大学フットサル部> 監督:吉倉秀和
布施幸也・水口哲兵・河内裕介・藤本哲平・中林伽樹・松本拓海・西嶋有也・村松翔・中井聖士・
田中康貴・難波智博・吉賀健汰朗・奈良井哲平・藤田啓輔・山本泰誠・田村顕児・下村隼大・横
田圭右・篠原拓馬・前田将輝

<SWHフットサルクラブ> 監督:渡辺平太郎
高橋宏征・前野俊哉・山野隼・佐々木諒・武石高弘・森田都・日置隆夫・加藤藤馬・今道拓也・香
村慧・菅沼匠臣・吉野諒太郎・太田夏樹・佐川裕己・杉山哲一

<ラック ザドライブ> 監督:松岡進吾
上岡孝徳・山上肇・山本優太・岩崎豪・荒木竜也・山岡優馬・谷口将太郎・阿草邦之・都築卓哉・
中野陽太・中島翔・田中努・宮本雄太・岡野拓也・浅野祥吾・塚原馬・中野翼・村上豊・黒目雄
大・村上正

<エルブランコ高知> 監督:下村勉
小野貴司・岡本知明・仁尾涼平・西岡大志・川村文人・植弘賢・松本和幸・土居環太・仁井田竜
星・竹内優太・平岩和也・山崎稜斗・曾我部麗市・横山星也・高橋英也・野崎大輝・窪田秀平

<クレセルフットサルクラブ> 監督:江口孝一
仲野雄登・瀧越健司・江口将志・竹内七海・江口孝一・戸田慈太・江口学・渡辺要・小山剛史・岡
本佳祐・横田佳亮・柳田大輝・満家大葵・吉村俊紀・妹川祐大・吉原凌介・増田雄哉・黒子直樹・
松永託・瀧瀬光

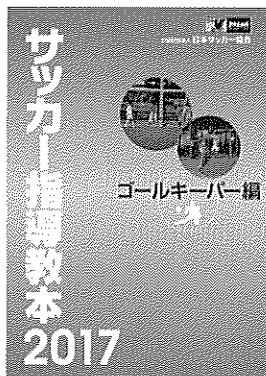
<エスボールカーナMFC> 監督:和田健作
山下真之介・高橋成貴・室内康行・宮里拓斗・竹脇雄大・永田隼・永盛雅大・権屋俊輝・鈴木修
平・田崎奏・大谷晃平・宮里祥太・小代聖平・吉丸馨星・池田健朗・串間亮太



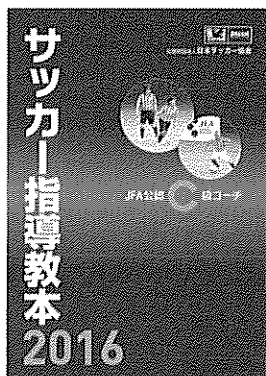
JFA 関連発行物のご案内

JFA公認指導者資格保有者限定

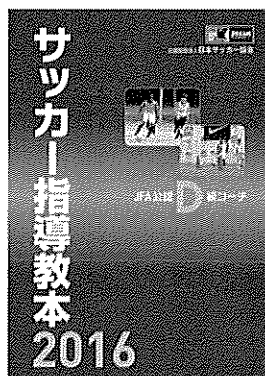
▼購入希望者は、申込書の①をご記入ください



サッカー指導教本・
DVD2017
ゴールキーパー編
▶ ¥7,700

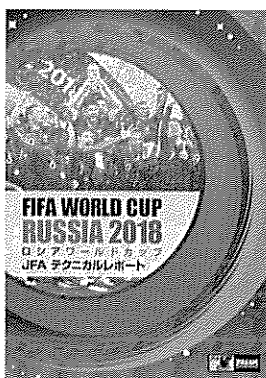


サッカー指導教本・
DVD2016
JFA公認C級コーチ
▶ ¥7,700



サッカー指導教本・
DVD2016
JFA公認D級コーチ
▶ ¥5,230

▼ KICKOFF サイトよりご購入ください (※ KICKOFF サイトのみでのご購入となります。下記 URL からご購入ください)



2018FIFAワールドカップロシア
JFAテクニカルレポート
▶ ¥2,970

【内容】

- ・動画
 - ・補助資料 (PDFデータ)
 - ・補助資料 (電子ブック)
- ※PDFデータと電子ブックは同一の内容です。
※映像と電子ブックは同時には開けません。

【購入方法】

- ① KICKOFFサイトにログイン
(URL: <https://jfaid.jfa.jp/uniid-server/login>)
- ② 講習会・研修会検索画面より下記の内容で検索
講習会・研修会区分: 「その他研修会」
主催協会: 日本サッカー協会
eラーニングに「」を入れてください
※講習会番号「000R10001891」でも検索ができます。

- ・本コンテンツはリフレッシュポイント付与対象ではありません。
- ・視聴可能期間は2022年10月31日までです。

どなたでも購入できます



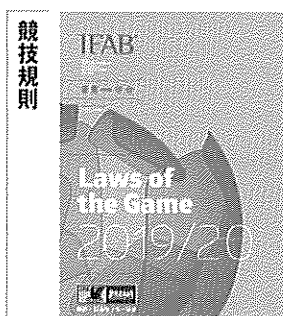
指導指針・ガイドライン
JFA指導指針
(U-10~18) 2017
▶ ¥2,200

JFA指導指針を改訂しました。今回の改訂では、U-10年代、またU-16年代の先、完成期に近づくU-18年代までカバーしました。そして、全体像、その中の各年代を意識していただくために、分冊とせず1冊にしました。



指導者スキルアップ
第10回フットボール
カンファレンス報告書
▶ ¥2,640

2017年1月7日~9日に広島県・広島国際会議場で開催した第10回フットボールカンファレンスの報告書です。



競技規則
IFAB
Laws of the Game
2019/20
▶ 日本語 ¥1,100
▶ 英語 ¥1,320

国際サッカー評議会 (IFAB) が制定したサッカー競技規則です。

※審判員・審判インストラクター資格をお持ちの方は、KICKOFFよりお求めください。



年間購読
▶ ¥5,000 (送料込)

JFAが発行するオフィシャルマガジンです。1冊600円、年間購読は送料込で5,000円 (12冊) です。

※毎月1日~14日にWeb申込またはご入金確認が取れたご注文は同月の発行号から、毎月15日~末日にWeb申込またはご入金確認が取れたご注文は翌月の発行号から購読開始となります。

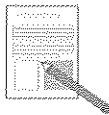
インターネットからも購入できます (クレジットカード決済のみ)

日本サッカー協会 Official Online Shop ▶ <https://webshop.jfa.jp/fs/jfagoods/c/top>

※上記サイトでは、JFAが発行するさまざまな刊行物が購入できます。以前とURL、申込方法が変更となっておりますのでご注意ください。
※JFA公認指導者資格保有者・JFA加盟登録チーム限定のものは購入できません。

申し込み方法

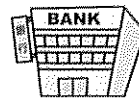
FAX送付先：03-5361-6565



専用申込書にご記入の上
FAXにてご連絡ください



お申し込み確認後、
受付番号をご返信いたします



受付番号ご確認後、
お振込みをお願いいたします



ご入金確認後、発送いたします

JFA公認指導者 資格保有者限定	<input type="checkbox"/> サッカー指導教本・DVD2016 JFA公認C級コーチ	¥7,700	◎はJFA公認指導者 資格保有者限定の 販売となります。購入 ご希望の際は下記① 欄にご記入ください
	<input type="checkbox"/> サッカー指導教本・DVD2016 JFA公認D級コーチ	¥5,230	
	<input type="checkbox"/> サッカー指導教本・DVD2017 ゴールキーパー編	¥7,700	
JFA公認指導者資格 保有者・JFA加盟登録 チーム限定	<input type="checkbox"/> 2014 FIFAワールドカップブラジル JFAテクニカルレポート / DVD	¥4,400	
	<input type="checkbox"/> FIFA女子ワールドカップドイツ2011 JFAテクニカルレポート / DVD	¥1,670	
	<input type="checkbox"/> 2010 FIFAワールドカップ南アフリカ JFAテクニカルレポート / DVD	¥4,700	
①	保有資格	<input type="checkbox"/> 級コーチ / <input type="checkbox"/> キッズリーダー	お一人様1セット のみの販売と なります。
	指導者登録番号	C _____	

どなたでも 購入できます	JFAnews	<input type="checkbox"/> JFAnews 年間購読 ※年間購読のみご注文の場合は送料無料です	¥5,000 (送料込)	5,000円
	大会レポート	<input type="checkbox"/> JFAテクニカルレポート2013	¥1,310 × ()冊 =	円
		<input type="checkbox"/> UEFA EURO 2012 JFAテクニカルレポート	¥1,250 × ()冊 =	円
	指導指針 ガイドライン	<input type="checkbox"/> JFA指導指針 (U-10~18) 2017	¥2,200 × ()冊 =	円
		<input type="checkbox"/> JFAキッズ (U-10) 指導ガイドライン	¥1,100 × ()冊 =	円
		<input type="checkbox"/> JFAキッズ (U-8) 指導ガイドライン	¥1,100 × ()冊 =	円
		<input type="checkbox"/> JFAキッズ (U-6) 指導ガイドライン	¥1,100 × ()冊 =	円
	トレーニング教材	<input type="checkbox"/> コンディショニングプログラムDVD (育成年代)	¥2,750 × ()冊 =	円
		<input type="checkbox"/> 小中学生対象 サッカー選手のためのランニングドリルDVD	¥2,200 × ()冊 =	円
		<input type="checkbox"/> 育成年代のコアトレーニングDVD	¥2,200 × ()冊 =	円
<input type="checkbox"/> JFAキッズドリル		¥1,030 × ()冊 =	円	
指導者スキルアップ	<input type="checkbox"/> JFAキッズドリル②アイスブレイク集	¥1,250 × ()冊 =	円	
	<input type="checkbox"/> Technical news 対談集 ビッチからのことば〜世界のトップ10を目指して〜	¥1,100 × ()冊 =	円	
競技規則	<input type="checkbox"/> 第10回フットボールカンファレンス報告書	¥2,640 × ()冊 =	円	
	<input type="checkbox"/> サッカー競技規則2019/20 (日本語)	¥1,100 × ()冊 =	円	
	<input type="checkbox"/> サッカー競技規則2019/20 (英語)	¥1,320 × ()冊 =	円	
	<input type="checkbox"/> フットサル競技規則2019/20 (日本語)	¥1,100 × ()冊 =	円	
		<input type="checkbox"/> ビーチサッカー競技規則2015/16 (日本語)	¥1,100 × ()冊 =	円

お振込み先				送料	+550円
三菱UFJ銀行	新宿新都心支店	普通預金	口座番号：1052178	合計	円
口座名義	マッシュコーポレーション(株)				
ご依頼人	○○○○○○○○ (8桁の受付番号) + お申込者氏名				

※ご依頼人様入力の際、申込者氏名の前に下記受付番号を入力してください。
 ※インターネットバンク等でのご入金の際、上記振込み先「口座名義」は、「マッシュコーポレーション(カ)」となります。

- ・領収書の発行はいたしません。払い込み取扱票の払込受領証が領収書となりますので大切に保管してください。
- ・商品の発送は、入金確認後3~5日前後にお届けいたします。
- ・お客様のご都合による返品はお断りしております。ただし、お届けした物品が万が一、配送中の事故などで破損キズおよび初期不良の場合には当方送料負担でお取り替えさせていただきます。
- ・海外からの注文も可能ですが、送料は実費となり購入者負担となります。
- ・入金の際、振込手数料は購入者負担となります。
- ・商品到着まで時間がかかる場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- ・DVD商品については、国によって発送できないため、購入できない場合があります。

申込者情報 ※お申込者様ご本人 以外への発送はで きません	チーム登録番号	フリガナ	受付日
	チーム名	氏名	
	住所	〒()-()	受付番号
	TEL	FAX	

※FAX受信が不可の場合は、TELのみご記入ください。お電話にて受付番号をご案内いたします。

通信欄	※受付番号返信時、JFAnews 年間購読ご希望者様へ連絡事項を記入させていただきます
-----	---

お問い合わせ先	マッシュコーポレーション(株)	TEL 03-6709-8717
---------	-----------------	------------------

ご連絡いただいた個人情報はマッシュコーポレーション(株)にて厳重に管理し、発送以外の目的では使用いたしません。

※コピーしてご使用ください。



なでしこリーグ便り

セレッソ大阪堺レディース
<https://www.cerezo-sportsclub.com/ladies/>



2020シーズン、なでしこリーグ1部に参戦

セレッソ大阪堺レディース 広報担当 横井 素子

2019シーズンは、なでしこリーグ2部で2位となり1部・2部入替戦に出場、AC長野パルセイロ・レディースとの対戦は2試合ともドローに終わったものの、アウェイゴールルールにより、1部昇格を果たすことができました。

今シーズンの指揮を執るのは、2018年以來の就任となる竹花友也監督です。「なでしこリーグ1部で戦えるよう、セレッソらしい攻撃的なサッカーでチャレンジしていきたい」と、抱負を語っています。また、前回(2018年)1部で戦った際は勝利が遠く、10チーム中10位となり、1シーズンでの降格を味わいましたが、「あの苦い経験を生かして臨む」(竹花監督)と意気込みます。

立ち上げ当初から育成型クラブを標榜し、中学生年代から選手を育てることでチームづくりをしてきたため、今シーズンも中心となるのは20歳前後の若い選手たちです。チームを引っ張るキャプテンの林穂之香選手は、昨シーズンの入替戦で1部昇格を決定づけるゴールを挙げるなど大活躍。12月には初めてなでしこジャパンのメンバーに選出され、EAFF E-1サッカー選手権のチャイニーズ・タイペイ戦に出場しました。「追加招集で選ばれた自分が試合に出ることができて本当によかった。大会を通じてなでしこジャパンの一員として活動させてもらい、さらに強くオリンピックを意識するきっかけになりました」と、決意を新たにしています。

そのほか、昨年のFFA女子ワールドカップ出場を経験した宝田沙織選手は、昨シーズン終盤に負ったケガから復帰して万全のコンディションで今シーズンに臨みます。なでしこチャレンジキャンプに参加し、代表入りを狙う脇阪麗奈選手や北村菜々美選手らのプレーも注目したいところで、昨シーズン、なでしこリーグ1部で経験を積んだ浜野まいか選手、小山史乃観選手ら10代の選手のはつらつとしたプレーも楽しみにしていただきたいと思います。

「今回は1部にチャレンジするというのではなく、勝利にこだわる気持ちが強い。サポーターの皆さんと一緒にたくさん喜び合えるシーズンにしたいです」と的林選手の言葉通り、強豪を相手に結果を残せるシーズンになるようチーム一丸となって戦います。2020年もセレッソ大阪堺レディースに温かいご声援をお願いいたします。



2020シーズンはセレッソらしい攻撃的なサッカーで勝利にこだわっていく

JFL便り

奈良クラブ
<http://naraclub.jp/>



奈良クラブ、信頼回復に向けて

株式会社奈良クラブ 代表取締役社長 浜田 満

2月1日より、奈良クラブの代表に就任した浜田満と申します。当クラブが起こしたホームゲーム入場者数水増し行為により、ご支援をいただいている自治体、奈良県サッカー協会、パートナー企業はもちろん、サポーターの皆さまの期待と信頼を裏切り、多大なるご迷惑をおかけすることとなり深くお詫び申し上げます。

今季の奈良クラブは、信頼回復に向けて取り組む年だと位置付けています。そのためには、ガバナンスの強化はもちろん、これまでクラブが行ってきた日々の姿勢をあらゆる角度から見直し、改善していくことに全力を尽くしていく所存です。

選手たちはクラブの不祥事の渦中にあっても、下を向くことなく、意識を高く持ってシーズン開幕に向けて準備してきました。どうか、温かい目で応援していただければ幸甚です。「奈良クラブ良くなったね」と一人でも多くの方々に言ってもらえるよう、今年一年は全力を尽くします。

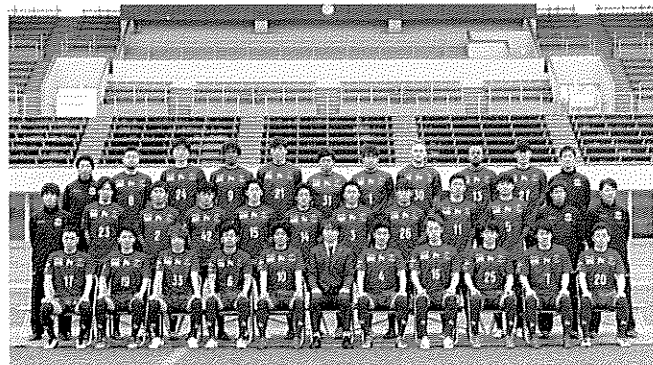
新監督には林舞輝が就任しました。JFL最年少監督ながら、林監督自身が学んできた知識と世界最先端のサッカー解析・体系化の枠組みを用いて、トレーニングや戦術面から新たな「奈良らしいサッカー」をつくり上げていきます。

今年のチームは昨年も奈良クラブのために戦ってくれた実力十分な選手たちに、色濃いキャラクターを持つ新加入選手たちが加わり、28人で構成されました。今シーズンの目標は、「次の試合に勝つこと」。経験豊かな人材と若い世代のコーチ陣で2020シーズンに挑みます。

奈良クラブではトップチームだけでなく、奈良県社会人1部リーグに所属する「ソシオス」、知的障がい者サッカーチーム「バモス」もその名を背負って戦っています。

アカデミーの部門では奈良クラブジュニア、奈良クラブジュニアユースに次ぎ、2020年度より新たに「奈良クラブユース」が誕生します。「J1で活躍する選手を育てる」「奈良とサッカーの価値を上げられる選手を育てる」ことを目標にこの春から活動を始めます。

今後も奈良クラブは街の誇りとなるクラブを目指し、地域のために尽くしていきます。奈良クラブへのご声援をよろしくお願いいたします。



ホームスタジアム「ならでんフィールド(奈良市)」にて、JFL最年少監督がチームを率いる

チャレンジリーグ便り

静岡SSUアスレジーナ
<https://www.asregina.com/ssu>



女子サッカーをメジャースポーツにする

一般社団法人静岡スポーツユナイテッド 代表理事CEO 三浦 哲治

静岡SSUアスレジーナは、静岡産業大学磐田ボニータを継続・発展させるため、2020年1月、一般社団法人静岡スポーツユナイテッドとして始動しました。独立した運営法人として動き出したことに伴い、チーム名、ユニフォーム、エンブレムを変更し、気持ち新たに歩んでいます。

ビジョンは、スポーツを通じて共生社会の創造や地域活性化に貢献し、チームに関わる全ての人々がスポーツで幸せになることを願うことです。

私たちは、女性スポーツを応援し、サッカー競技の普及および振興することを目的とし、それを達成するために以下の事業を行います。

- ①女子サッカーのトップリーグで継続的に活躍
- ②女子サッカーの普及活動
- ③女性アスリートの環境改善
- ④学校地域融合型クラブの創造

女子サッカーはFIFAとJFAの重点施策です。世界各国でプロリーグが発足し、女子サッカーの普及・強化が急速に進み、日本でも2021年のプロリーグ開幕が決まりました。地域のサッカー関係者からは、静岡県にプロチームが1つはほしいと要請されており、将来に向けてプロリーグへ参入することを視野に入れて活動を開始しました。

2008年のチーム創設以来、静岡産業大学の持つ資源(施設、研究教育力、人材)を活用し、競技力向上や人材育成に取り組んできました。地域活動としては、年間を通じた地域交流センターラジオ体操をはじめ、産官学合わせて毎年30回前後のイベントに選手が参加し、女子サッカーのPR活動をしています。

チーム所在地が同一の磐田東高女子サッカー部、ジュビロ磐田レディース(U-15)とは、JFAクラブ申請を10年以上継続し、選手育成システムを昇華させてきました。このような活動により、女子サッカー普及および振興においては一定の成果は得られましたが、代表選手輩出などトップアスリートの育成・強化には課題を残しています。そこで、女性指導者のパイオニアで静岡出身の「本田美登里」氏を監督に招へいし、新たにスタートを切ることになりました。チームは、「インテリジェンス」「イマジネーション」「アグレッシブ」を3本柱にスペクタクルなサッカーを目指します。

静岡SSUアスレジーナは、新体制の下、強化育成に注力しながら、地域貢献や女子スポーツの振興活動を並行して行い、地域の財産となれるよう努めています。



チーム名等を一斉、本田美登里監督を指揮官に迎え2020シーズンに臨む

なでしこリーグ便り

オルカ鴨川FC
<http://www.orcakamogawafc.com/>



普及、育成、そしてトップチームへ

オルカ鴨川FC U-15監督/普及担当 永井 良明

2016年より取り組んでいる普及活動「オルカスマイルコミュニケーション」(本誌2019年8月号参照)の認知度を上げるには、教育機関の協力が不可欠です。活動の目的には、基礎体力の向上、地域のスポーツ文化の向上、青少年のキャリア教育を掲げ、子どもたちの健やかな成長とその子どもたちが担う将来のまちづくり、まちの活性化に貢献することを目指しています。

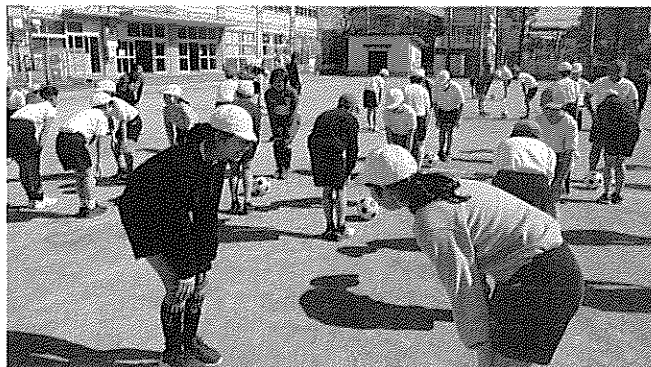
昨年、各市町村の校長会でこの趣旨を説明する機会をいただき、積極的に授業の一環として取り入れてもらえるよう打診しました。また、各学校の職員会議に出席した際には、実際にボールを使って授業内容を説明しました。その結果、今まで以上に教育機関から依頼をいただくことができ、こども園、小学校、特別支援学校への巡回指導が増えました。

実際に授業を体験した子どもたちからは「また来てほしい」「オルカの試合を観に行く」と、うれしい声。先生方からはサッカーの技術だけでなく「話の聞き方」「思いやりの心」「諦めない気持ち」「チームワーク」など教育についても「伝えてもらえてうれしかったです」との評価をいただきました。

オルカスマイルコミュニケーションが子どもたちの健やかな成長へ少しでも貢献できるよう活動する一方で、オルカ鴨川FCを知ってもらい、スクール、U-15につなげ、千葉県南部地域から有望な選手を育成していくこともチーム存続には大切な要素です。

今年で7年目を迎えた当クラブでは、スクール生だった選手がU-15を経てU-18に昇格、また、U-15からトップチームへの飛び級昇格などが決まる中、いずれはトップチームで活躍することを目標にしている選手もあり、自然に上を目指す流れができつつあります。地元出身の選手が地域のクラブで活躍することは、地域の方々にとっても特別な思いが芽生えますし、それに続くとする他の選手たちの意識や取り組みなどにも想像以上に良い影響を与えています。

このように、まちづくりやまちの活性化と選手の成長は別物のようで多角化すると大きく関わっているのです。だからこそ、普及から育成、そしてトップチームへと選手をつなげること、それと同時に、前述の活動を通して率先して地域の力となり、相互作用の実現を目指していくことが重要であると考えています。



年々活動の場が増えているオルカスマイルコミュニケーション



日本ビーチサッカー連盟便り

日本ビーチサッカー連盟
<http://jbsf.or.jp/>



BSC明石アレイアを取り巻く 環境と現状について

BSC明石アレイア 監督 山本 哲也

BSC明石アレイアは、兵庫県明石市にある明石大蔵海岸を拠点に活動するビーチサッカーチームです。設立は2015年と歴史の浅いチームですが、兵庫県サッカー協会、明石サッカー協会、明石市、大蔵海岸公園等と連携し、地域一体型のチームとして誕生しました。

チーム創設2年目での関西ビーチサッカーリーグ初優勝以降、昨年は同リーグ4連覇を達成しました。2017年には「第12回全国ビーチサッカー大会」でベスト8の成績を残しましたが、近年では、全国大会に出場しても予選敗退といった結果が続いています。

関西ビーチサッカーリーグは、以前と比べると決して盛り上がっているとは言えない状況にあり、明石アレイアとしても慢性的な選手不足やチーム内の平均年齢の上昇など、チームとしての積み上げが難しくなっているのが現状です。通常であればビーチサッカーのレベルを向上させて全国で戦えるチームづくりを行うべきですが、それ以前に選手の発掘と若手の育成が第一の課題となっています。

ビーチスポーツが盛んな大蔵海岸をホームビーチにしているということもあり、普及活動を積極的にやっているほか、各カテゴリーにおけるビーチサッカー大会の運営、ビーチサッカークリニック、体験会などさまざまな企画を兵庫県サッカー協会、兵庫県フットサル連盟、明石サッカー協会、そして明石市の方々と連携して実施しています。

昨年パラグアイで行われたFIFAビーチサッカーワールドカップにおいて、ビーチサッカー日本代表はベスト4という素晴らしい成績を残しましたが、関西のチームから日本代表選手が選出されることはありませんでした。

チームとしては成績を残し、地域に根ざした普及活動を行うことが大切ですが、それとは別にチームからビーチサッカー日本代表選手を輩出したいという思いもあります。

日本代表選手を輩出して全国から注目されるようなチームとなり成長できるよう、チーム全員でそれぞれがその時にできることを日々の積み重ねとして取り組んでまいります。



大蔵海岸をホームビーチとするBSC明石アレイアは、選手の発掘・育成、普及活動と並行して日本代表選手の輩出を目指す

日本フットサル連盟便り

山口県フットサル連盟
<http://yamaguchi-ff.site/>

女子カテゴリーの普及・育成へ向けて

山口県フットサル連盟 理事長 横山 裕樹

現在、中国地域では、Fリーグディビジョン2に「広島エフ・ドウ」と「ホルセイド浜田」が参加しており、全国規模の2020年度日本女子フットサルリーグには、昨年度、新たに山口県から「MINERVA UBE(ミネルバ宇部)」が参戦することが決定しました。中国地域からの参加は女子では初めてとなります。

地方の都市の抱える若者の人口流出、過疎といった問題は、例外なく本連盟にとっても深刻な課題であり、選手層の薄さ・競技人口の少なさは中国地域全体でもたびたび議題に挙がります。

特に女子カテゴリーにおいてはその影響が顕著です。山口県では2011年に第1回的女子県リーグを10チームで開催しましたが、徐々に参加チームが減少。2017年には2チームとなってリーグ戦を実施できず、2018、2019年度の実施もかかないませんでした。しかしながら、このような状況下でも日本女子フットサルリーグという全国の舞台上で戦うチームが現れたことで、県内で活動する全ての女子選手にとって、女子フットサルの試合観戦や選手と触れ合う機会が広がり、フットサルというスポーツがより身近な存在になるのではと期待しています。

全国リーグ参入にあたり、MINERVAは、チーム結成以来15年もの長きにわたって活動を続けてきた継続力と経験を生かし、セカンドチーム、アンダー世代の育成を始めています。この活動は女子フットサルの普及・育成を目指す私たちの目標と合致します。互いに情報を共有し、協力関係を築くことで、さらに活発な活動へとつなげていきたいと思えます。

女子選手の育成と並行して、女性指導者の育成も非常に重要な課題だと認識しています。県内で女性のフットサルC級指導者はいまだおらず、フットサルを指導しているという情報もありません。ここにも力を入れていきたいと思えます。また、女性審判員の育成ということも非常に重要なキーポイントだと考えています。

こういった活動を継続していくことが山口県、そして中国地域のフットサルの発展と成長につながっていくものと信じて推進してまいります。



中国地域から全国規模のリーグへの参加は女子では初となる「MINERVA」。県内に女子フットサルの魅力を伝えていきたい

全日本大学女子サッカー連盟便り

全日本大学女子サッカー連盟
<https://juwfa.jp/>

JUWFA

東海学生女子サッカー連盟の現状

東海学生女子サッカー連盟 理事 大家 利之

東海学生女子サッカー連盟に所属する大学は、静岡産業大学、愛知東邦大学、名古屋経済大学、中京大学、名古屋学院大学、至学館大学の6校です(2020年3月現在)。本連盟に所属する各大学の部員数は増加傾向にあるものの、新規に加盟する大学がなかなか増えないのが現状です。加盟大学が増えるような仕組みを整えることが、連盟としての喫緊の課題の一つです。

東海学生女子サッカー連盟は年間4回程度の会議を設け、各大会の規定や連盟の在り方について議論しています。各大学の指導者がオープンマインドであることから、常に活発な議論になります。

2019年度からの新たな取り組みとして、前期(5月~7月)に新規の大学リーグを開催しました。2018年度までは9月~11月にかけて全日本大学女子サッカー選手権大会(インカレ)の予選を兼ねた東海学生女子サッカーリーグを開催していましたが、2019年度からはこれを独立させました。この前期の大学リーグは試行錯誤中で、今のところは東海地域の前期のチャンピオンを決めるに留まり、その結果が9月頃から始まるインカレ予選に反映されることはありません。今後は前期と後期の通年リーグとして大学リーグを成り立たせ、その結果を踏まえてインカレの東海地域代表校を決定したいと考えています。

各大学がさまざまな地域リーグにも参加していることから、各地域リーグと大学リーグとの日程調整が困難なことがあり、各地域リーグと大学リーグとを共存させるために知恵を出し合う時だと考えています。

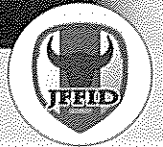
最後に、東海学生女子サッカー連盟がさらに発展していくために最も重要なことは、学生主体の組織にすることです。「学生主体」と言葉にするのは簡単であり、響きも良いですが、学生を中心に大会や組織を運営していくことができる仕組みを整えるには、かなりのエネルギーを注ぐ必要があります。関東大学女子サッカー連盟では、すでに学生が主体となって大会や組織に携わっています。その知恵を拝借しながら、東海学生女子サッカー連盟でもさまざまなことに対して学生の携わる機会を増やしていきたいと考えています。



大学の垣根を越えて、学生が主体となって活動できる組織づくりを目指す

日本障がい者サッカー連盟便り

日本知的障がい者サッカー連盟
<http://jffid.com/>



「もう一つの高校選手権」に込められた願い

特定非営利活動法人 日本知的障がい者サッカー連盟
理事 斎藤 敏一

今年で5回目を迎える「全国知的障害特別支援学校高等部サッカー選手権」が2月15日・16日、静岡県藤枝市で開催されました。15都府県から75校が参加し、そのうち予選を勝ち抜いた12校が今大会に出場しました。決勝は、愛知県立豊田高等特別支援学校が前回覇者の東京都立志村学園を5-0で破り、見事に優勝を勝ち取りました。

この大会は、特別支援学校に通う学生がサッカー部での練習を積み重ねチームづくりを行ってきた成果を試す、ただ一つの場所です。今年の本戦参加校は10校から12校に拡大されました。また、全参加校に試合の機会を確保するため、敗れたチームが参加する交流大会も合わせて行っています。ここには青春をかけたドラマが詰まっています。そのドラマの一端に、より多くの人に触れていただけるよう尽力してまいりますので、成長を続けるこの大会にぜひ足をお運びいただけましたら幸いです。

一方で、大会自体に課題がないわけではありません。大きな課題は予選に参加する都道府県がなかなか増えていかないことです。少子化の中、知的障がい者が通う特別支援学校数、生徒数は共に増加の一途をたどっています。しかし、特別支援学校は自立に向けた日常生活の指導や職業訓練を主な目的としており、なかなか部活動の活性化が進まない地域があります。特に地方都市は学区が広く、遠方から通う生徒が多いだけでなく、練習場所の確保も難しいため継続的な部活動参加が難しいケースも報告されています。

大会に参加した選手たちは仲間と同じ目標に向かって進む中で、友情や協力することの大切さを口にします。保護者からは、自主的に懸命に取り組む姿を通して高校生活での成長を強く感じているという声を多くいただいています。サッカー、ひいてはスポーツを通して、将来に向けた確かな成長を遂げていく姿は、特別支援学校に通うことの意味と重なります。私たちは、大会の活性化を図ることで選手個々の成長や未来につながることを信じ、参加校が広がるようこれからも取り組んでいきます。

例えば、交流戦には多くの参加機会を設けています。これは単独校だけでは難しい選手や練習場所を確保する機会の拡大が、部活動を行うことにつながると考えているからです。全国から集まるチームとの対戦は、選手にとって大きな目標となります。体力も付き、多感な知的障がいがある高校生が、サッカーを通じて将来に向け実り多き時間を過ごしてくれることを願っています。



全国知的障害特別支援学校高等部サッカー選手権では、愛知県立豊田高等特別支援学校が前回覇者を破って優勝した



JAPAN NATIONAL TEAM

Japan National Team would like to thank its partners for their support.

SAMURAI BLUE



©JFA / キリンチャレンジカップ2019 対ベネズエラ代表戦 先発メンバー (2019.11.19)

OFFICIAL PARTNER



KIRIN

OFFICIAL SUPPLIER



SUPPORTING COMPANIES

朝日新聞

SAISON CARD

大東建託

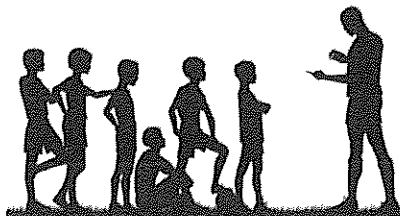
FamilyMart

JAPAN AIRLINES

au

MIZUHO

MS&AD



隔月連載

Vol.6

フットボールにできること

Sports assist you ～いま、スポーツにできること～

一人一人の意識と行動で世界は変わる。サッカー、スポーツの力を合わせて共に行動を起こそう。今、この危機を共に乗り越えるために――。

世界中が新型コロナウイルスの脅威にさらされている中、日本サッカー協会(JFA)は「Sports assist you ～いま、スポーツにできること～」と銘打ち、サッカーファミリーと共に新型コロナウイルスの感染拡大防止に取り組んでいる。

国内すべての地域で密閉、密集、密接のいわゆる「3密」の環境を避けるほか、人との接触回数や外出を極力控えるなど行動自粛や活動の自粛が要請されていることから、自宅で行うことができ、また、室内でも取り組める運動などをインターネット上で配信。JFAが持つ知見やノウハウを基にした専門家たちによる健康維持、促進に向けた情報やエクササイズ、サッカーに特化したプログラムのほか、取り組みの趣旨に賛同するサッカー選手やフットサル選手、日本代表コーチングスタッフらから寄せられたメッセージやレッスン動画を配信している。

それぞれのテクニックやアイデアを生かした動画が、ハッシュタグ「#SportsAssistYou」をつけて配信されている。レッスン動画は、「リフティング」「ボールコントロール」「日本代表トレーニング」「GKトレーニング」「フィジカルトレーニング」「頭脳トレーニング」などで、順次更新される。

また、サッカーファミリーが積極的に参加できるよう、ツイッターでは参加型のキャンペーン「#JFA全日本いまスポーツにできること選手権大会」を実施した(4月5日に終了)。「Sports assist you ～いま、スポーツにできること～」で掲載されているレッスン動画やコンテンツを実際に行い、その動画や静止画を投稿するというもので、参加者には抽選で森保一監督と高倉麻子監督のサインが入った日本代表ユニフォームがプレゼントされた。

新型コロナウイルス感染者の治療に携わっている医療従事者らへのメッセージも「#医療従事者へエールを」「#ClapForOurCarers」つけて配信。医療従事者はもちろんのこと、人々の生活を支える流通や、生活必需品を販売するスーパーマーケットなどで働く全ての人々への感謝と励ましの声を届けている。

これら全てのコンテンツはインターネット上で無償で閲覧



多くの選手から寄せられたメッセージやトレーニング動画などをインターネット上で配信

することができる。さまざまな活動が自粛される中、サッカー界およびスポーツ界にできることは何か――。サッカーファミリー、スポーツ界が一丸となって取り組むことでこの事態が少しでも早く収束に向かい、また笑顔でサッカーを、スポーツを楽しめる日が来ることを願っている。

【コンテンツ内容】 ※毎日更新中(4/10現在)

Sports assist you
～いま、スポーツにできること～
https://www.jfa.jp/grass_roots/sportsassistyou/



- プロサッカー選手らによるメッセージ動画
全国のサッカー少年少女へ、プロサッカー選手たちからのメッセージ動画を掲載
- プロサッカー選手らによるトレーニング動画
全国のサッカー少年少女へ、プロサッカー選手たちからの楽しく体を動かすレッスン動画を掲載
- JFAチャレンジゲーム
子供に必要な動きづくりを徐々にステップアップしながら取り組んでいく個人向けプログラムを無料公開
- 育成年代向けコンディショニングプログラム
JFAフィジカルフィットネスプロジェクトによる育成年代(中学生)を対象とした体カづくりのためのトレーニングプログラムを無料公開
- 日本サッカーミュージアム おうちで出来る!自宅学習素材
日本サッカーミュージアムが毎年夏休み自由研究イベントで配布している学習教材を無料提供
- サッカー日本代表 360° 映像「The Blue 360°」
自宅でもスタジアムにいるような臨場感や選手視点を楽しめるサッカー日本代表 360° 映像を公開
- ルールを知ろう!
4級審判員に配布している「サッカー競技規則と実践的審判法」から一部コンテンツを期間限定で掲載
- 正しいウイルス対策のポイント
新型コロナウイルスの感染拡大を受け、今一人一人ができる「日常生活で気を付けること」や「正しい対策」を掲載
- 田嶋会長便り
JFAの田嶋幸三会長からサッカーファミリーの皆さまへ情報を発信
- Jリーグクラブの取り組み
取り組みに賛同いただいたJリーグクラブのコンテンツを紹介。選手やマスコットがいるいろいろな取り組みをしている
- 賛同スポーツ団体取り組み紹介
取り組みに賛同いただいたスポーツ団体のコンテンツを紹介

ブルーノ・ガルシアの フットサル道場

ピンチのときこそ すべき振る舞い



Bruno GARCIA Formoso

フットサル日本代表のブルーノ・ガルシア監督の連載は隔月の掲載となります。

自分のマインドは自分で操ることができる

現在、私は生まれ故郷スペイン北西部のガリシア州フェロル市の自宅にいる。2月下旬に、スペインに帰国した。所用を済ませた後にフットサルスペインリーグでプレーする日本代表候補選手の試合を視察して日本へ戻る予定だったが、試合は新型コロナウイルスの影響で中止になり、私自身も自宅で待機することになった。そうしているうちにスペイン全土に感染が拡大し、3月14日に15日間の、同30日に2週間の外出禁止令が出された。正直、これだけ長い時間を家で過ごしたことはない。親が高齢ということもあり、自宅から2キロ離れたところに

ある実家にも行くことができない状態だ。

とはいえ、落ち込んでいても仕方がない。困難な状況でもあえて前向きな気持ちで日々を過ごすべきだと思っている。これまでの自分は、シーズン開幕とともに試合視察、合宿、講習会、クリニックと次々とやることをこなし、ともすれば物事を「処理」しがちだったが、今は違う。期せずしてできた時間を、手つかずになつてきた業務や、やりたくてもできなかったことに充てることができる。

自宅待機している中で二つ思っていることがある。一つは、自分のマインドは自分でコントロールでき、それを日常に生かせるということ。例えば、朝起きてジムに行つて、仕事場で会議をするという日常を過ごせなくとも、それに近いことができる。朝起きた後、自宅でエクササイズをし、自分のデスクで働き、WEB会議に参加することは可能だろう。つまり、苦境に陥つても案外平時時と同じように生活できると感じることで、物事をポジティブに捉えることが重要だと思ふのだ。

良い選手ほどエゴを捨てられる

もう一つ、感染症のリスクにさらされ、スポーツができない状況でもそれを乗り越えるために何をすべきか、それを意識するため価値観を持つておくことが不可欠だと考える。

これは、チームが苦戦を強いられているときに自分に何ができるかを考えることと同じだろう。本場に頼れる選手、私ができる良い選手は、劣勢のときほどエゴを捨ててチームプレーに徹する。こうした選手は、組織に勝る個人はいないと知っているから、「自分」はどうか、「自分」ではなく、常に「自分たち」はどうかとチームを主語にしてプレーする。

その意味で、いま世の中をにぎわしている買占め問題を見ていると、誰がソリタリティー（社会的な団結心）を持っていて、誰がエゴイストかがよく分かる。広義に言えば、社会もチームと捉えられる。そのチームが苦境に陥り、そこから挽回を図

りたいのであれば、「われわれはどうすべきか」と考えた方が問題解決につながる。そう考えることができれば、買占めもおのずとなくなると思う。

今、自分たちは二つの病に直面している。一つは新型コロナウイルスで、もう一つはエゴイズムという病だ。後者は意識次第で治すことができる。だから、社会というチームがピンチに陥つていき取らるべき行動を取るだけにピンチのときほどすべき振る舞いがあると思う。それを今回のクライシスをきっかけに学び、全員で困難を乗り越えていきたい。



現在は自宅待機が続いているが、ブルーノ監督はチームスタッフたちとWEB会議などを通じて精密にコミュニケーションを取っている

コーチとしての役割

通勤で歩く遊歩道に桜並木があります。春の近づきを感じると、桜の花がポツリポツリと咲き始めます。ちょっと暖かいなと思ったらあつという間に満開です。新しい年度の始まりに気持ちが高まります。

IFAは今年度からC級コーチ養成講習会のカリキュラムを改訂しました。改訂の一つのポイントとして、これまで以上にサッカーの現場で起こることを意識し、受講者の経験や知識を大切にしながら現場で生かせる実践力を高めることを目指します。サッカーはもともとコーチング法やスポーツ科学について、指導者が多くの知識を持つことは大切です。そして、その知識は用語や原理、理論などを知っている(宣言的知識)だけではなく、どのように使うと良いのかといった(手続的知識)レベルで身につけておく必要があります。そのため、講習会のインスタクターは受講者がより積極的に行動しながら学ぶことを促進します。いわゆる「アクティブラーニング」です。インスタクターにも新しいチャレンジが求められます。

世界中で、いろいろな種目で、スポーツのコーチ教育は常にブラッシュアップされています。特に最近では、指導者の競技者への働きかけをより有効なものにするには、スポーツに関わる専門知識だけでなく、競技者と一緒に仕

事をするスタッフとの関係を良好にするための知識(人間関係的知識)、自身を批判的かつ客観的に見つめて己を知ること(個人内知識)が大切であるとされています。個人内知識は、他人に自分の指導実践を評価してもらうことでも深めることができます。普段の指導中、自分がどのような言葉を使い、どのような行動をしているかは意外と知らないものです。

良い指導者になりたい。これはサッカー指導者全ての人の思いです。指導者の評価は一般的に「試合に勝った」「より高いレベルで成功した」選手が上手になった」など、競技者のパフォーマンスによってなされます。しかし、最近のスポーツ科学の研究者たちは、指導者は競技者のパフォーマンスを高めるだけでなく、競技者の「人」としての「能力」「自信」「人間関係」「人格」や思いやり」に良い影響を与えられたかを評価する必要がありますと主張しています。指導者は競技者の人格を発達させ、スポーツを愛し、社会に貢献できる人材を育成する役割を担っているのです。

また、指導者は指導対象のニーズを理解しなければなりません。サッカーをプレーする楽しみは大きく分けて二つあります。一つは「サッカーは相手との競争であり、勝利を目指すこと」によって上達するし、それが楽しいといった競技志向あるいはパフォーマンス志向です。もう一つは「勝ち負けよりも、体を

隔月連載

サッカー心育論

Vol.61

～指導者は何を考えるべきか～



中山 雅雄 (JFA技術委員会普及部会部会長 / JFAキッズプロジェクトメンバー / 筑波大学体育系教授)

動かしたり、自分なりに上達していくことや健康的であることに価値を持ってサッカーを楽しむ」といったレクリエーション志向あるいは参加志向です。サッカーの普及を考えると、中学生、高校生、大学生、そして、社会人、シニアと全ての年代において後者の志向を大切にすることがあります。サッカー経験がない人がプレーしてみたいと思ったときに気軽に参加できる環境も必要です。自分の指導対象が何を志向しているかによって働きかけは違ってきます。

同じように、年代によっても働きかけの違いがあります。サッカーを始めてから10歳くらいまでは動きづくりやサッカーの基本的な技術の習得を目指し、ミニサッカーを中心にサッカーのゲームを理解して楽しむことが中心になります。小学高学年くらいから中学生年代

は、グループやチーム戦術などとも意識しながらゲームを行えるようになっていきます。また、フィジカルトレーニングも取り入れていく必要があります。そして高校生年代以降は、本格的に競技者としてサッカーに取り組む時期です。各年代に応じた指導が求められます。

この年代の軸に、競技志向とレクリエーション志向の軸を合わせて考えると、サッカーを始めた若い年代では、両方の志向を同時に満たすことが大切です。年代が進むにつれて志向は分かれます。特に中高生年代では異なる志向を持った人が混在することが多いと思

います。指導者には、競技者の志向を汲んで関わるのが求められます。しかし、競技でもレクリエーションでも、いざれにしても生涯にわたってサッカーと関わりたいと思える良い経験を積ませることが指導者の役割です。

プロフェッショナルなレベルの指導者、子どもたちにサッカーとの出会いや楽しみを伝える指導者、競技志向が始まる育成年代の指導者、レクリエーションや参加志向をサポートする指導者など、タイプは多様です。しかし、この立場であっても、必ず競技者(参加者)と関わらなければなりません。指導者と競技者の関係が常に健全であれば、おそらくサッカーの価値は常に高いはずですが、スポーツが嫌になる理由が指導者にあることは少なくありません。スポーツ現場での暴力の連鎖はコーチから競技者へ、その競技者が指導者になって次の競技者へとつながります。日本の高校スポーツにおける指導者と競技者の人間関係は、同じ年代の外国人と比べるとあまり良好ではないように見るといった研究報告があります。人間関係的知識が不足しているのかもしれない。引き続きの検討が必要ですね。

新型コロナウイルスの影響で、今年例年の新年度とは状況が違います。解決には時間がかかると思います。再び思う存分にサッカーができる日を待ちながら、サッカー指導者として、サッカーに関わる一人として、あらためて自分の役割を考えてみたいと思います。

サッカーなら、どんな障害も超えられる。

日本の人口の7%は障がい者です。その障がいは多様で、ひとつとして同じ在り方はありません。障がいがあっても、いつでも、どこでも、サッカーを心から楽しめる環境を。彼ら彼女らが社会にある"障害"を超えていきつかけつくりやサポートも、サッカーならできる。私たちはそう信じて、日本障がい者サッカー連盟を推進していきます。

障がい者サッカー7団体は、日本サッカー協会と連携し、サッカー界の発展のために取り組みます。



切断障がい



脳性麻痺



精神障がい



知的障がい



電動車椅子



視覚障がい



聴覚障がい

日本アンブティサッカー協会

アンブティサッカーとは、足や腕に切断障がいのある人が行う7人制サッカーです。日常生活で使用する義足・義手を外してロフトランドクラッチで体を支えながらプレーします。

日本ソーシャルフットボール協会

ソーシャルフットボールとは、精神障がいのある人が行うフットサルやサッカーです。基本ルールは健常者と同じで、フットサルでは女子選手を含む場合に最大6人がコートでプレーするなど、一部特別ルールを採用しています。

日本知的障がい者サッカー連盟

知的障がい者サッカーとは、知的障がいのある人が行う11人制サッカーです。フットサルも行っています。ルールは健常者のサッカー・フットサルと同じで、プレーヤーの障がいの度合いにより試合時間が異なります。

日本電動車椅子サッカー協会

国際的にはパワーチェアフットボールと呼ばれ、自立歩行が困難な重度の障がいのある人が多く行う4人制サッカーです。手やアゴでジョイスティック型のコントローラーを操り、電動車椅子でプレーします。

日本CPサッカー協会

CPサッカーとは、脳の損傷によって運動障害がある人が行うサッカーです。Cerebral (脳からの) Palsy (麻痺) の頭文字をとり、そう呼ばれています。

日本ブラインドサッカー協会

ブラインドサッカーとは、視覚障がいのある人が行う5人制サッカーです。転がる音が出るボールを使用し、まわりの声を頼りにプレーします。2004年からパラリンピックの正式種目です。

日本ろう者サッカー協会

デフサッカーと呼ばれる、聴覚障がいのある人が行うサッカーです。サッカーとフットサルがあり、審判は笛だけではなくフラッグも使用するなど、視覚情報を頼りにプレーします。



一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟

公式ユニフォームサプライヤー



支援団体



パートナー



住友ベークライト



General Partners

McDonald's

城南信用金庫

東京海上日動

MSOL

三菱商事

Bewith

日本とオリンピック(3)

文・國吉好弘(サッカージャーナリスト)

メキシコ大会の後 長いトンネルに入る

1968年にメキシコオリンピックで銅メダル獲得という偉業を果たした日本だが、その後は長いトンネルに迷い込むことになる。4年後のミュンヘン大会の出場を逃すと、76年のモントリオール、80年のモスクワ、84年のロサンゼルス、88年のソウル大会と予選敗退が続いた。64年の東京大会に向けて進めた強化が少人数に偏っていたこともあり、後に続く世代の成長へつなげられなかったのだ。

代の流れと共に変わり、ロサンゼルス大会からはプロ選手の参加が認められるようになった。ソウル大会にはブラジルのロマリオ、西ドイツのユルゲン・クリンスマンなど、まだFIFAワールドカップには出場していないが、世界的に有望な選手も参加した。

プロの参加を認め、より高いレベルの選手の出場を求めるIOC(国際オリンピック委員会)と、あくまでFIFAワールドカップを最高峰としたFIFA(国際サッカー連盟)の思惑の綱引きの結果、男子サッカー競技は92年のバルセロナ大会から23歳以下の代表チームによって行

われることになる。予選にも23歳以下の選手たちが出場したが、日本はここでも突破することはできず、メキシコ大会以降、6大会連続でオリンピックの出場権を逃した。

92年にはJリーグ前哨戦のヤマザキナビスコカップが行われ、日本サッカーのプロ化がスタートした。日本代表は同年のAFCアジアカップに初優勝、翌年にはJリーグが開幕する。FIFAワールドカップアメリカ大会の出場権は最後の最後で逃したが、94年に行われたAFC選手権をU-16代表、U-19代表とも勝ち抜き、共に初めてアジア予選を突破して世界大会への出場を決めた。

そんな機運に乗り、西野朗監督率いるU-23日本代表も96年から96年にかけて行われたアジア予選を突破。68年のメキシコ大会以来、実に28年

ぶりとなるオリンピック出場を決める。GK川口能活、MF中田英寿、前園真聖、FW城彰二といった、後に日本代表を支える選手たちはプロとして上を目指す意識も高く、自信を持ったプレーで難敵を退けた。

**28年ぶりの本大会で
王国ブラジルを下す**

迎えた96年のアトランタ大会、日本はグループステージ第1戦でブラジルと対戦する。ブラジルはDFロベルト・カルロス、FWロナウドたちに、オーバーエイジ枠をフルに活用してMFリバウド、FWベベットなどワールドクラスの3人に加え、「フル代表」と言っても差し支えない陣容だった。日本は劣勢を強いられるが、粘り強く守り、川口の神がかり的なセーブにも助けられてゴールを許さない。逆に相手のミスを利用して伊東輝悦が得点、この1点を守り切って勝利をつかんだ。

グループステージ突破の期待が膨らんだが、続くナイジェリアには0-2で敗れる。最終戦でハンガリーを激戦の末に前園の2ゴールなどで3-2と逆転勝利するが、ブラジル、ナイジェリアと2勝1敗で並び、得失点差で3位に。2勝を挙げながらグループステージ敗退に終わった。

また、この大会から女子サッカーもオリンピックの競技種目となり、前年のFIFA女子ワールドカップで8強入りして出場権を獲得した日

本は、グループステージ3戦全敗で敗退となった。

2000年のシドニーオリンピックに臨むチームは、日本代表も指揮するフランス人のフィリップ・トルシエが監督を兼任した。トルシエ監督は99年のFIFAワールドユース選手権(現FIFA U-20ワールドカップ)で日本をFIFA公式国際大会初の準優勝に導いており、U-23日本代表ではU-20日本代表でも主力だった小野伸二、高原直泰らと、年長の中田や中村俊輔、柳沢敦らを融合させる。タレントぞろいの日本はアジア予選を順当に勝ち抜き、前回に続くオリンピック出場を果たした。

本大会初戦、日本は南アフリカに先制されながらも逆転勝ちし、続くスロバキア戦も2-1でものにした。グループステージ最終戦の相手はブラジル。日本は、勝たなければグループを突破できない相手に対し、0-1で敗れた。それでも、そのブラジルに勝った南アフリカが最終戦でスロバキアに敗れたため、日本は2位でグループステージを勝ち抜いた。

ベスト4を懸けた準々決勝の相手はアメリカ。日本は優勢に進めながら2度のリードを追いつかれ、延長でも決着はつかずPK戦へ。ここで4人目の中田がミスし、4-5で敗れた。日本のチーム力、相手との力関係から見てもメダル獲得のチャンスがあっただけに、悔やまれる大会となった。

隔月連載

日本サッカー タイムスリップ

1921年に誕生した日本サッカー協会(JFA)は、2021年に創立100周年を迎える。本連載では、JFA各種事業や日本サッカーの歩みを振り返っていく。第10回も引き続き、オリンピックにスポットを当てる。

※本連載は隔月の連載になります



連載 | オリンピックの記憶

Vol. 3 伊東 輝悦 (アスルクラロ沼津)

東京オリンピック・パラリンピックに向けて始まった本連載では、日本サッカー界のレジェンドが毎月登場し、オリンピックにまつわる思い出や2020年大会への期待を語る。第3回は「マイアミの奇跡」を演じた一人、伊東輝悦に話を聞いた。

○インタビュー日：2020年4月1日
※取材は2m以上の距離を確保し、インタビューは手洗いをし、マスクを着用して実施



やってみないと、分からない！

触るべきか否か
ぎりぎりまで迷った

——日本代表が28年ぶりにオリンピック行きの切符をつかみ、世界を驚かせたアトランタ大会から24年です。

伊東 かなりの年月が経ちましたね。4年に1度、オリンピックが始まる前になると、こういった取材を受けます(笑)。僕は今、所属しているアスルクラロ沼津のスクールで小学生たちにサッカーを教えているのですが、父兄の方と僕がアトランタオリンピックの話をしていても、子どもたちはきょとんとしています。

——アトランタオリンピックと聞いて、まず頭に浮かぶことは何ですか。

伊東 やはり、ブラジル戦です。

——「マイアミの奇跡」と呼ばれ、語り継がれている勝利ですね。

伊東 これまでずっと話題にされてきました。自分が決めたゴールは映像を見返すまでもなく、鮮明に覚えています。もう、脳裏に焼き付いているんです。

僕自身がゴール前が上がっていく景色も、すぐに目に浮かびます。ゾノさん(前園真聖)に縦バ

スが入った瞬間、味方と相手の位置関係を見て、「これはチャンスになる」と思いました。左サイドの路木(龍次)さんにパスが渡ったとき、自陣から相手のペナルティエリア内へ入っていったんです。

——なぜ、あの場面で大胆なオーバーラップを仕掛けたのですか。

伊東 直感です。僕はあのチームではボランチでしたが、もともとアタッカーでしたので。攻撃の感覚が体に染み付いていたのでしょう。

——そして、路木さんの山なりのクロスボールが、ブラジル代表のDFアウタイルとGKジーダの間に落ちました。

伊東 僕は逆サイドで路木さんのボールを受けるつもりで走っていましたが、

——ただ、路木さんがクロスボールを合わせようとしたのは、その前にいるFWの城彰二さんでした。

伊東 彰二より先にボールに追い付いたアウタイルと、ゴールから飛び出してきたGKのジーダが交錯して、ボールが僕の前にこぼれてきたんです。あの瞬間、交錯したアウタイルとジーダ、そして彰二の姿が視界に入ったけれど、ボールがこぼれてくるとは思いもしませんでした。

ボールがころころと転がってくる間に、ふと頭によぎりました。「ひょっとしたら、彰二がボールに触っているかもしれない」って。もしもここで僕が押し込んだら、彰二のゴールにならない。僕はボールに触るべきか、触らずにいるべきか、本当にぎりぎりまで迷いました。間違いないボールは、ゴール方向に転がっていましたから。

最後は「触っちゃえー」と思い、押し込みましたけど、後で周りに聞いたら、ブラジルのディフェンダー(アウタイル)が触っていたんですよ。結果的に僕が押し込んでよかったと思えました。



写真：アフロ

優勝候補と目されたブラジルとの初戦で、血千金の決勝ゴールを挙げた伊東輝悦(写真右)。ゴール前に走り込んだのは「奇跡」だった

第3戦の決勝アシストは初戦のゴールと同じ価値

— 72分にスコアが1-0になりました。リードした後のことは覚えていきますか。

伊東 ブラジルが慌て始め、個々が強引に攻めてきました。でも、僕らとしては、その方が組織で守りやすかったです。「俺たち、やれているな」という実感もありました。GKの(川口)能活のセーブが際立っていました。シュートを打たれる前の段階である程度は相手にプレッシャーをかけることができていました。だからこそ、持ち堪えることができたと思っています。

— 試合終了の笛がなった瞬間はどのような気持ちでしたか。

伊東 シンプルにうれしかったです。「お、勝ったよ」と。マイアミのスタジアムはざわついていました。まさか日本がブラジルに勝つとは誰も思っていなかったでしょう。でも、僕らは勝つための準備をしていたので精神的に充実しています。ブラジル戦はグループステージの初戦でしたし、次にナイジェリア戦が控えていたので、勝利したからといって、その後、ホテルで大騒ぎするようなことはありませんでした。チームはすぐに移動する準備を整

え、2戦目に備えました。

— ブラジル戦が終わった夜、「ちよっとした事件が起きた」と当時のチームスタッフが話しています。ホテルの部屋に戻ると、廣長優志選手の財布が盗難被害に遭ったとか。

伊東 そうそう。僕は廣長と同部屋だったのでよく覚えていますが、実際に警察の鑑識が来て、白い綿みたいなので壁をボンボン叩いて犯人の指紋を検出していました。

— そんな事件がありながらも、1日でナイジェリア戦を迎えます。

伊東 いま考えたらすごい日程です。よね。どうりでナイジェリア戦はきつかったわけだ(笑)。

— 第2戦でナイジェリア戦に0-2で敗れた後、第3戦のハンガリー戦を迎えます。自力でのグループステージ突破には4点差以上の勝利が必要でした。

伊東 相手に先制されましたが、最後まで諦めずに戦って3-2で逆転勝ちできたので、一つ仕事ができたと感じました。

— 伊東選手は前園さんの3点目(決勝点)につながるラストパスを通しました。

伊東 われながら良いアシストだったと思います。周りからあまり言われることはありませんが、自分ではしっかりと覚えていきますよ。僕の中ではブラジル戦のゴールと同じくらい価値あるものです。でも、チームとしては決勝ラウンドに進めませんでした。2勝1敗という成績だったにも関わらず、得失点差でグループステージ突破はなりませんでした。

— 日本代表のアトランタオリンピックは3試合で終わりました。ハンガリー戦の後はどのような心境でしたか。

伊東 「もう終わっちゃったな」と。試合後はホテルでみんなといろいろ話しました。内容までは覚えていませんが、秋葉(忠宏)、(鈴木)秀人たちとそれまでのことを振り返っていたと思います。

— 秋葉さんはハンガリー戦後の打ち上げで「みんなにオウンゴールのことをいじられた」と話していました。

伊東 ナイジェリア戦のオウンゴールのことですね(笑)。その話の輪に僕もいたような気がします。笑いながら「グループステージ敗退はお前のせいだよ」みたいな話になったのかな。

肩の力を少し抜いて遊び心を持って

— 当時のメンバーには、「世界に日本のサッカーをアピールするんだ」と意気込む選手もいたかと思えます。

伊東 僕はそこまでの思いは持っていませんでしたが、対戦相手はブラジル、ナイジェリア、ハンガリーと決まったときは「僕はどれくらい、やれるんだろう」とわくわくしました。

— 大会を終えた後の手応えはいかがでしたか。

伊東 やれないことはない、と感じました。少し自信がついたかな。実際、オリンピックを楽しめましたし、プレッシャーに押しつぶされるようなこともありませんでした。

— オリンピック独特の空気は味わえましたか。

伊東 お祭りのような街の雰囲気は感じました。とはいえ、僕は選手村で過ごしていたわけでもないですし、開会式もホテルのテレビで見ていたので、変な感じとか。正直、オリンピックではなく、ただの海外遠征に来ているような感覚もありました。

オリンピックを実感したのは、警

備の厳しきでしょうか。日本の移動用バスで爆弾騒ぎがあったんです。大会が始まる前の出来事だったと思いますが、警備の犬がかぎつけて、練習に向かうのを一時見合わせたのを覚えていきます。これがオリンピックのセキュリティかと思いました。

— オリンピックでの経験を踏まえた上で、アスルクラロ沼津の若い選手たちやスクールでサッカーをしている子どもたちに伝えたいことはありますか。

伊東 サッカーを楽しんでもらいたいです。肩の力を少し抜いて、遊び心を持ってプレーできるといいですね。ブラジル戦のように相手と力の差がある試合もありますが、創造性や直感が大事。試合で勝敗を分けるのは、むしろそこかなって思うんです。

— 最後に、およそ1年の延期が決定した東京オリンピックに期待することは。

伊東 個人として、チームとして、最高のパフォーマンスを披露できるように準備してもらいたいです。どれだけ相手が強くても、結果はやってみないと分かりません。

ほんの数分前まで懸命にボールを奪い合いゴールを狙い合っていた両チームのプレーヤーたちが、まるでひとつのチームのように並んで「トンボ」と呼ばれる道具を引っぱって歩いていきます。日本ならではの光景。私はいつもその美しさに見とれてしまいます。

正式には「グラウンドレーキ」というのでしょうか。私たちは昔から「トンボ」と呼んできました。木や金属でつくられたT字型の用具。80センチほどの「T」の横棒の部分の地面に置き、1層5層ほどの「縦棒」を引っぱって、試合で荒れたグラウンドを平らにします。

サッカーグラウンドは68層×105層の広さがありますから、仮に20人でいっせいにやったら、それでも、軽くはないこの道具を引っぱってグラウンドを2周以上歩かなければならない（走ると平らにすることができません）ことになりません。その時間を見越して、グラウンド使用時間の10分ほど前には試合を切り上げます。そして試合終了のホイッスルが鳴ったら、あいさつもせず両チームのプレーヤーが道具置き場のところに走って行って「トンボ」を取り出し、グラウンド整備を始めるのです。

いつも心に

連載 Vol.84

大住良之
(サッカージャーナリスト)

リスペクト

RESPECT
大切に思うこと

グラウンド整備という文化

「グラウンド整備」でいつも見事だなど感心するのは、野球のプレーヤーたちです。少年用、大人用のグラウンドを問わず、どこもとてもいいねいに整備されています。ピッチャーズマウンドの周囲をきれいな丸の形に整備してあるのを見ると、グラウンドに対する彼らの愛情や感謝を感じます。

ほとんど「文化」にまでなっている（と私は感じます）野球グラウンドの整備の習慣がいつ始まり、どう受け継がれてきたのか、私は知りません。しかしサッカーグラウンドの整備は野球を手本にしたのではないかと想像しています。

空き地があればそこに芝生が広がり、国土が「緑芝生」のようになっていくイングランドには、「トンボ」のような道具さえないのでないでしょうか。グラウンド整備は、長い間、基本的にグラウンドが土だった日本サッカー特有のもののような気がしません。

しかし日本でも、最近では少年少女や「グラスルーツ」のプレーヤーが使うグラウンドが次々と人工芝になり、整備など不要なことが多くなっています。リーグのプレーヤーたちの多くは、「グラウンド整備」？ そうですねば子どもにやった

な」というような人が多いかもしれません。

イレギュラーのない人工芝での練習や試合が、日本のサッカーのレベルアップに貢献したのは間違いありません。ボールコントロールに苦勞するピッチャーより、ボールから目を離してもプレーを続けられる人工芝のピッチのほうが、はるかにプレーヤーのアイデアを生かすことができるからです。人工芝ならウェアや体も汚れませんし、何より雨が降っても練習や試合ができるという、土のグラウンドにはない大きな長所があります。

しかしその一方で、人工芝のグラウンドはプレーヤーたちから「グラウンド整備」という大切な時間や経験を奪ってしまったような気がしてなりません。

疲れた中、重い「トンボ」を引っぱって広大なグラウンドを整備するのは、非常に「しんどい」作業です。もしかしら、中には、嫌々やっているプレーヤーもいるかもしれません。しかし私は、多くのプレーヤーが「トンボ」を引きながら次第にきれいになっていくグラウンドを見て、自分自身をほめてやりたいような誇らしい気持ちを感じているのではないかと

思っています。きちんと整備されたグラウンドに行くと、前に使った人々への感謝の念がわいてきます。使用後のグラウンド整備は、目の前にいない他の人々への心づかいの作業でもあります。それは、



土のグラウンドを整備するトンボかけ。
グラウンドへの感謝、次に使う人々への心づかいが表れる

他の人々を大切に「リスペクト」の姿勢がとてよく表れたものだと思うのです。グラウンド整備によって培われてきた日本サッカーの「文化」。それがなくなるなら、何か代わるものが必要とさえ思えるのです。

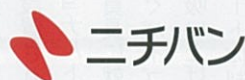


日本サッカーの発展のため、
さらなる普及や次世代選手育成の促進を。

JFA Youth & Development Programme



OFFICIAL PARTNER



GREENPROJECT PARTNER



JYD SUPPORTER



JYD



日本サッカー協会、新体制の発足



田嶋幸三会長、3期目に向けて

就任の抱負

この度、日本サッカー協会（JFA）3期目となる会長職を拝命しました。

今回の改選にあたっては、加古真さん（ワシノ機器（株）代表取締役社長／愛知県サッカー協会会長）を委員長とする役員等推薦委員会を立ち上げ、下記表1の通り、①継続性、②スポーツの本質と価値を理解していること、③スポーツ庁ガバナンスコードへの対応、また、それに伴う④女性理事の登用、⑤外部理事の登用、⑥後継者を見据えた新人の登用、の6つをポイントに新しい理事を選考しました。

また、今後の2～4年を見据えた

重点項目を掲げ、それぞれの担当理事、委員長を配置しました。「JFA中期計画2020-2023」に掲げた課題を中心に理念の実現に向けて取り組んでいきます。

今、新型コロナウイルスによって尊い命が奪われているだけでなく、経済や産業、文化・芸術、芸能、スポーツなどさまざまなところに甚大な影響が出ています。JFAとしても今後、発生するであろう問題に対し、より機動的な対策を講じていかなければなりません。登録料の免除や、現在、プロ、アマチュアから徴収している納付金（入場料収入の3%）を凍結するといった思い切った策を断行していく必要があると考えています。

3月29日、日本サッカー協会の新たな理事会メンバーが決定した。

JFAは3月14日に第3回理事会を開催し、理事の改選に伴う役員等予定者を選出。同日の定時評議員会で新役員（理事28名と監事3名）が選任され、その後に新役員による理事会を開催した。新理事会では、田嶋幸三現会長の再任が正式に承認されたほか、村井満現副会長（Jリーグチエスマン）と岩上和道現副会長が、須原清貴専務理事、原博実現常務理事（Jリーグ副理事長）と植田昌利現常務理事

（関東サッカー協会専務理事）が再任。新副会長には林義規理事が就き、47都道府県サッカー協会選出の池田洋二現副会長は常務理事に就任した。池田氏に代わる47F A選出の副会長は、同都道府県代表者会議で人選された後、JFAの理事会に諮られることになっている。

各種委員会の委員長も表4・5の通り、決定した。なお、今回の理事は表1の6つの考えによって選出された。

女性理事の登用については、スポーツ庁が策定したスポーツ団体ガバナンスコードで40%以上登用することが定められているが、JFAは現行の規約ではすぐにその条件を満たすことができないため、2年後の理事改選に向けて規約を変更し、女性を多く登用する考えだ。また、新たにアスリート委員会が設置されることが決まり、元日本代表でJFAナショナルトレセンコーチ（GK担当）の川口能活氏が委員長に就いた。同委員会は現役選手とJFAをつなぐパイプ役として主に現役選手からの要望や声を吸い上げて選手のサポート体制を強化し、日本サッカー全体の発展につながるなど新たな役割を担う。

なお、新理事会はこの先の2～4年で取り組むべき重要課題を明文化し、それぞれ担当理事の下で活動を推進させていく。

【表1】2020年新理事の考え方／方針

1. 継続性	公益財団法人として、女子のプロ化、ユース大会のスケジュール調整等。現行規約の規定に伴い、すぐに変えることは難しい。（9地域、Jリーグ等）マーケティングストラテジー。部活動。ユース年代大会スケジュール。
2. サッカー	スポーツの本質と価値を理解している
3. スポーツ庁ガバナンスコードへの対応	4年の猶予期間（2023年まで）がある。2020年は、スポーツ庁によるJFAの承認が行われる。現行足りないもの・調整の必要のあるもの→①アスリート委員会、② 理事の任期等。
4. 女性理事の登用	ガバナンスコードにおいて、40%以上女性を登用することが定められている。現行の規約からするとすぐに満たすことは難しいが、2年後に向け、規約を変更し、現行よりも女性を多く登用する。
5. 外部理事の登用	外部理事の定義を確認し、スポーツ庁とのすり合わせが必要
6. 新人の登用	積極的に取り入れるようにしていく



3月29日の定時評議員会および新理事会は、新型コロナウイルスの感染予防対策のためWEB会議システムを導入して実施され、70人の評議員が出席した

一方で、JFAこころのプロジェクトやSDGsといった社会貢献活動、アジア貢献活動などを継続していくこと。また、高田宮記念JFA夢フィールドに日本サッカーの全ての機能を集約させ、そこに集約された知見やノウハウを全国のサッカーファミリーに発信していくことも重要な使命です。

多くの皆様のご理解とご支援を得ながら、日本サッカーのさらなる発展を目指していきたいと考えています。

スポーツ界が一丸となってこの困難を乗り越える

今、世界は見えない敵と戦っています。

JFAはこの新型コロナウイルスに対し、早い段階から徹底した感染予防策を講じてきました。政府の方針が出た翌日には在宅勤務を導入することを決め、翌27日から実施しました。

私が新型コロナウイルスに感染したことでサッカー界に危機感と緊張が走り、より踏み込んだ形で感染予防に取り組むようになりました。それによってJFAハウスがクラスターにならず、感染者の発生を防いでいるのではないかと思います。

未曾有の事態にさまざまな問題が生じているでしょうが、一方で、この困難と戦っていく過程で大切なことに気づいたり、プラスの面もたらずのではないかと思います。

社会が平和で、人々が心身ともに健康であることが私たちの活動のベースであるということを確認することになるでしょうし、差別や偏見に立ち向かう力を備えることにもなるでしょう。また、健康経営につながる在宅勤務制度の導入に拍車がかかることにもなると思います。

日本サッカーも99年の歴史の中で多くの困難を乗り越えてきました。JFAが創設して間もなく起こった関東大震災、第二次世界大戦、SARS(重症急性呼吸器症候群)、東日本大震災、不況――そのほかにも多くの危機を切り抜けてきました。

今こそ、サッカー界、スポーツ界が団結力を強め、知恵を出し合い、困難に立ち向かっていくときです。サッカーを通じて人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献することを念頭に、サッカー界が一枚岩になって勇氣ある決断と行動をしてきたいと考えています。

サッカーファミリーの皆さんへ

特に若い世代の皆さんにお願いします。友だちと遊んだり、思い切りサッカーをしたりしたいでしょう。しかし、今は我慢の時です。危機的状況の中では強い人間力が試されます。品格も問われます。サッカーファミリーとしての誇りを持ち、この困難に打ち勝つために良識ある行動をしてほしいと思っています。

【表3】2~4年のタームでやるべきこと

課題	担当
1. 国内サッカーカレンダーの最適化、改革	田嶋、村井、林、反町
2. 女性の活躍、プロ化、グラスルーツ推進	岩上、今井、手塚、佐々木、山岸
3. 技術委員会 三位一体+普及の更なる推進、幕張NFCの活用	今井、反町、黛、山岸
4. VARの導入とレフェリーの養成・改革、女性レフェリーの養成	黛、山岸
5. ガバナンス・コンプライアンス	田嶋、須原
6. 評議員・ステークホルダーの選定、選挙制度 改革	田嶋、三好、須原
7. サッカーファミリー・登録の拡大、グラスルーツ推進	林、今井、池田(洋)
8. 健康・シニアへの投資	植田、宗政、池田(浩)
9. 47FAの強化、部活動の整備	池田(洋)、櫻井
10. 施設・スタジアム整備→1年を通してプレーできる環境整備、グリーンプロジェクト、ポット苗	徳田
11. 社会貢献活動、プロモーション・情報発信	日比野

敬称略

【表2】理事会

(任期2年)

役職	名前	備考	役職	名前	備考
会長	田嶋 幸三		理事	大金 直樹 *	Jリーグ(Jクラブ)
副会長	村井 満	Jリーグ	理事	反町 康治 *	
副会長	岩上 和道		理事	今井 純子	
副会長		47FA	理事	手塚 貴子	
副会長	林 義規 *		理事	佐々木 則夫	
専務理事	須原 清貴		理事	北澤 豪	
常務理事	植田 昌利	関東FA	理事	黛 俊行 *	
常務理事	原 博実	Jリーグ	理事	山岸 佐知子 *	
常務理事	池田 洋二 *		理事	池田 浩	
理事		北海道FA	理事	三好 豊	
理事	櫻井 覚 *	東北FA	理事	日比野 克彦 *	
理事	田中 厚	北信越FA	理事	鈴木 寛	有識者
理事	徳田 康 *	東海FA	理事	山口 香	有識者
理事	田中 克紀 *	関西FA	監事	佐藤 太郎 *	常勤
理事	宗政 潤一郎	中国FA	監事	西本 強	
理事	矢間 雅司 *	四国FA	監事	福田 雅	
理事	竹田 孝	九州FA			

*新任

【表5】委員会委員長

(任期2年)

	委員会	委員長
専門委員会	施設委員会	徳田 康*
	リスペクト・フェアプレー委員会	山岸 佐知子*
	殿堂委員会	大仁 邦彌
	コンプライアンス委員会 ※名称変更	須原 清貴*
	社会貢献委員会	日比野 克彦
特別委員会	アスリート委員会 ※新設	川口 能活*
	将来構想委員会	田嶋 幸三
	100周年記念事業委員会	須原 清貴
大会実施委員会	復興支援委員会	上田 栄治
	天皇杯実施委員会	須原 清貴
	国体実施委員会	植田 昌利

*新任

(全て2020年3月29日現在)

【表4】常設委員会委員長

(任期2年)

	委員会	委員長
常設委員会	国際委員会	田嶋 幸三
	競技会委員会	林 義規
	財務委員会	須原 清貴
	技術委員会	反町 康治*
	女子委員会	今井 純子
	審判委員会	黛 俊行*
	フットサル/ビーチサッカー委員会	北澤 豪
	医学委員会	池田 浩
	法務委員会	三好 豊

*新任

委員長からのメッセージ

各委員長の意気込みや日本サッカーへの思いなどを紹介する。

※その他の委員長は次号に掲載予定

技術委員長（新任）

反町 康治（そりまち やすはる）



プロフィール

現職：サッカー指導者
学歴：慶應義塾大学 卒業
サッカー歴：
慶應義塾大学体育会サッカー部、
全日空横浜サッカークラブ、横浜フ
リユージュース、ベルマーレ平塚、日本
代表選手
職歴：全日本空輸（株）、
Jリーグ選手・監督等

新たに技術委員長に就任した反町康治です。今回、田嶋会長から日本サッカーの中核を担う役割のお話をいただき、光栄に思うと共に直接そうした仕事に携わること強く責任を感じています。

技術委員長としての役割はJFAが掲げる三位一体（代表強化、ユース育成、指導者養成）と普及の指針を明確にし、推し進めていくことだと考えています。特に育成部門を含めた代表チームのさらなる高みを目指すためにはカレンダー上のスケジュールを整え、環境の整備に努めることが重要であると考えています。この過程で新たに幕張にオープンした高円宮記念JFA夢フィールドを最大限活用し、強い日本サッカーをつくるためにバックアップしたいと思います。

今は感染拡大防止のため自宅で待機し、じっと我慢をする時期ですが、ここを乗り越えてサッカーファミリー全員が応援でき、喜んでいただける日本サッカーを目指し、努力し、覚悟を持って臨んでまいります。皆さんのご指導、ご鞭撻をよろしくお願い致します。

審判委員長（新任）

黛 俊行（まゆずみ としゆき）



プロフィール

現職：JFA審判委員会 常勤インストラクター
学歴：日本体育大学 卒業
サッカー歴：
日本体育大学サッカー部、埼玉教員
サッカークラブ
職歴：埼玉県立高校教諭、
（公財）日本サッカー協会

この度、審判委員会委員長に選任されました。この度、審判委員会委員長に選任されました。日本のサッカー審判界を牽引していくという重責に身の引き締まる思いです。2019年度審判員、審判指導者登録者数は308,598人に達しました。地域・都道府県のすべての関係者に感謝します。

サッカーはプロからグラスルーツ、老若男女、障害者の方を含め、見る人、する人、支える人、他にも多くの方が関わっています。この環境の中で審判員の果たす役割は、それぞれの環境の中で安全に留意し、競技規則の精神（公平・公正）に基づき判定を下し、関わる全ての人がサッカーを魅力的で楽しくなるようにしなくてはなりません。与えられた役割は非常に難しいものですが、難しいからこそ、やり甲斐や達成感が得られると思います。

日本サッカーのさらなる発展には、審判員の資質の向上と審判員への理解がさらに進むことが重要だと考えます。明確なビジョンを持ち全身全霊で審判組織の運営に取り組みたいと思います。

施設委員長（新任）

徳田 康（とくだ やすし）



プロフィール

現職：（公財）愛知県サッカー協会 専務理事、
（一社）東海サッカー協会 専務理事
学歴：筑波大学 卒業
サッカー歴：
筑波大学蹴球部、
名古屋サッカークラブ
職歴：愛知県立高校教諭

JFAには「サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、人々が幸せになる環境を作り上げる」というビジョンがあります。その環境をつくり上げる重要な要素の一つが施設であり、サッカーの発展のために必要なものです。芝生のグラウンドは、トップレベルのチームや選手、大会を勝ち抜いてきたチームや選手がプレーするためだけのものではなく、誰もが利用できるものにならなければならないと思います。また、施設は、支える人、みる人の施設であるとともに、サッカーやスポーツにあまり関心のない人も「楽しい」「心地いい」と感じる施設でなければならぬと考えています。

まだまだ、芝生のグラウンドなど施設は不足しています。整備にあたり、資金面や運営面など多くの課題がありますが、思い描いたビジョンは、多くの人の人たちの思いや努力などで実現できると思います。

「夢があるから強くなる」は、そんな思いを継続させてくれる言葉です。皆さまと共に良いサッカー環境をつくっていききたいと思えます。よろしくお願いたします。

日本サッカー協会、新体制の発足

リスベクト・フェアプレー委員長(新任) 山岸 佐知子(やまぎし さちこ)



プロフィール

現職: JFA審判委員会 女子部会長、(公社)千葉県サッカー協会 理事、AFC Referee Academy Educator
学歴: 東京女子体育短期大学 卒業
サッカー歴:
東京女子体育短期大学、女子国際主審、サッカー女子1級審判員、サッカー1級審判員
職歴: 国立スポーツ科学センター、東京大学附属病院、(公財)日本サッカー協会等

JFAが掲げる理念とバリエーションに深く関わりのある委員会を担当させていただくことになり、責任を感じています。今回の就任により、私自身、本来のスポーツの持つ意味や役割を考える大きなきっかけとなっています。今まで推し進めてきた事業を継続しつつ、各所と連携することでさらに向上させていきたいと思っています。

サッカーが抱えている課題と社会が抱えている問題は共通しているように思います。さまざまな取り組みを通じて暴力や差別のない社会の縮図をサッカーで示していくことで、安心安全で誰もが伸び伸びと楽しめる環境を提供していかなくてはなりません。

サッカー環境をより良いものとしていくためには、現場にいる一人一人が自らを律して行動することが、改善の何よりの早道です。勝つことだけに価値を見いだすのではなく、サッカーを通じて豊かなスポーツ文化が醸成されるよう、皆さまと共により良い環境をつくり上げていきたいと考えております。

アスリート委員長(新任) 川口 能活(かわぐち よしかつ)



プロフィール

現職: サッカー指導者
学歴: 清水市立商業高等学校 卒業
サッカー歴:
横浜 F.マリノス、ポーツマス FC(イングランド)、FC ノアシェラン(デンマーク)、ジュビロ磐田、FC 岐阜、SC相模原、日本代表選手
職歴: ナショナルトレセンコーチ

新設されたアスリート委員会の委員長に任命され、大変光栄に思っていると同時に重大な責任を感じております。現場の最前線で戦っているアスリート(選手)たちの意見や考えていることを汲み取り、JFAとアスリートが共有しながら、競技レベルの向上、環境整備に貢献できる活動をしていきたいと考えています。

私自身、日本代表や海外、そして国内ではJ1、J2、J3と幅広いカテゴリーでプレーしてきました。各カテゴリーのアスリートがピッチ内外で直面している問題点、自らが肌で感じてきたことを、より具体的にJFAの関係者に伝えることができると思っています。

サッカーファミリーの皆さまと共に日本サッカーの社会的認知、地位向上に努め、サッカーを人気スポーツから文化へと根付かせ日々の生活になくてはならないものになるよう、そして日本サッカーが世界の数々の強国と対等、それ以上の存在になるよう尽力していきたいと思えます。

医学委員長 池田 浩(いけだ ひろし)



プロフィール

現職: JFA理事・医学委員長、順天堂大学保健医療学部理学療法学科 教授
学歴: 順天堂大学医学部 卒業、順天堂大学医学部大学院 修了
サッカー歴:
順天堂大学医学部サッカー部、日本代表チームドクター
職歴: 順天堂大学医学部等

2014年に医学委員長を拝命しましたので、4期目に突入します。この間、熱中症ガイドラインの策定、スポーツ救命講習会の立ち上げなど、サッカーファミリーの安全・安心を第一に考えてきましたが、このメッセージを書いている今は、「新型コロナウイルス感染症」が頭から離れません。

長い闘いになると思いますが、乗り越えられない壁はありません。ただ、サッカーと同様で、このウイルスに打ち勝つためには緻密な戦略が不可欠です。手洗い、うがい、咳エチケット(マスク着用)は当然ですが、3密(換気の悪い密閉空間、多数が集まる密集場所、間近で会話する密接場面)も回避しなければなりません。そして、今、最も重要な戦略こそが「Stay Home」です。

サッカーでは闘いに敗れても、必ず次の闘いがやってきます。しかしこのウイルスとの闘いは「命」に直結します。サッカーファミリーには、大切な命を守るための行動「Stay Home」を遂行し得る団結力があると、私は信じています。



1920年、ロンドンで創業した
 Dunhillは、英国の伝統的な
 紳士服の製造者として知られ
 ます。その歴史は、英国の紳
 士文化の発展と共に歩んで
 きました。Dunhillの紳士服
 は、洗練されたデザインと高
 品質の素材を組み合わせ、時
 代を超えて愛用されていま
 す。Dunhillの紳士服は、英
 国の上流社会の象徴として
 知られており、その伝統は
 今日まで継承されています。


 dunhill



©JFA/NORIKO HAYAKUSA

3連敗で最下位に終わる

2020 SheBelieves Cupが3月5日～11日にアメリカで開催された。

アメリカ、イングランド、スペインが参加したこの大会で、2大会連続出場となるなでしこジャパン(日本女子代表)は3連敗を喫し、最下位に終わった。

※なでしこジャパンメンバーは34ページ、公式記録は34～35ページに掲載

東京オリンピックの前哨戦

2016年にスタートした本大会は、毎年3月上旬にアメリカで開催されている。今年は新型コロナウイルスの感染が世界的に広がっているが、当初、アメリカではまだ影響が少なかったことから大会の開催が実現した。

感染予防に万全の対策を講じて出発したなでしこジャパン(日本女子代表)にとっては、東京オリンピックの開催延期が決定する前の開催だったため、オリンピックの前哨戦として位置づけられ、高倉麻子監督も「(本大会を見据えて)選手を見極める大会になる」と話すなど、最終メンバー18人への絞り込みという観点からも貴重な国際大会となった。

ミスで失点を重ね 黒星スタート

初戦の相手は、巧みにパスをつないでくるスペイン。日本の4-4-2とスペインの4-3-3ではフォーメーションのミス



前半終了間際に岩淵が見事なボレーシュートを決めた(スペイン戦)

©JFA/NORIKO HAYAKUSA

マツチが起り、中盤にギャップが生じてしまう。世界と戦う上で必ず攻略しなければならぬタイプの相手に対し、まずは先手を取って相手のアンカー封じを試したいところだったが、日本は早々に失点してしまっ

8分、左サイドバックに起用された遠藤純(日テレ)が振り切られて中に折り返されると、JENNIFER Hermoso Fuentes がつないで最後はALEXIA Putellas Seguraに決められた。日本が警戒していた、スペインが得意とするパターンか



チーム最年少、攻撃力が持ち味の遠藤が左サイドバックを務めた(スペイン戦)

©JFA/NORIKO HAYAKUSA

らの失点だった。
この失点でスペインの厳しいプレスに後手に回った日本は、マークを簡単に外されるようになる。ボランチの杉田妃和(一神戸)は「どこにもプレスに行けなかった」と、苦しい戦いを強いられた前半を振り返った。悪い流れを断ち切れずにいた日本だったが、前半終了間際に岩淵真奈(一神戸)が見事な同点ゴールを決める。清水梨紗(日テレ)のクロスに反応した岩淵が思い切り足を伸ばして放ったループシュートは、GKの頭上を抜けてゴールネットを揺らした。

終盤の失点で2連敗

日本は後半、立て直しを図るが、ディフェンスラインの連係ミスから相手にボールを奪われるという同じ形で2失点を重ねてしまう。榎木結花(日テレ)、上野真実(愛媛)ら前線の選手を投入して攻撃の活性化を図るもスコアは動かせず、1-3で敗れて黒星スタートとなった。

移動を含む中二日で挑む第2戦の相手は、2019年のFIFA女子ワールドカップで敗れているイングランド。攻守ともに組織力が高いチームだ。
チームを立て直したい高倉監督は初戦から先発6人を入れ替えた。最大の変化はディフェンスライン。スペイン戦の後半から出場した宮川麻都(日テレ)を左サイドバックに、そして、公式試合では初めてコンビを組む土光真代(日テレ)と三宅史織(一神戸)をセンターバックに据えた。
「攻撃につながるように高い位置を取ろうと(三宅と)話



©JFA/NORIKO HAYAKUSA

再三訪れた前半のピンチの場面も池田が好守で防いだ(イングランド戦)



アンダーカテゴリーの代表時代から切磋琢磨してきた土光(左)と三宅。なでしこジャパンの公式試合で初めてコンビを組んだ(イングランド戦)

©JFA/NORIKO HAYAKUSA

ルネットを揺らすことはできなかった。
好機をつくるも決められず
最終戦の相手は女子ワールドカップチャンピオンのアメリカ。イングランド戦で右サイドバックの清水が負傷したこともあり、高倉監督は「以前から考えていた」という布陣を試

していた」という土光の言葉通り、強気なラインコントロールでイングランド攻撃陣をオフサイドトラップに掛けながらピンチの芽を摘み、さまざま攻撃へ転じる。GK池田咲紀子(浦和)のファインセーブもあり、攻め込まれながらも守備陣が持ちこたえる。
後方の奮闘に因應するように前線から懸命なプレスを見せたのが、岩淵と2トップを組んだ田中美南(一神戸)だった。終始、高い位置からボールを奪うためのプレスを掛け続けた。そして、ひとたび味方がボールを

奪えば、次の瞬間にはディフェンスラインの裏のスペースでボールを受けようと走り出す。拮抗した展開が続くが、後半になってからイングランドは、温存していた主力を次々に投入し、攻撃を仕掛けてくる。疲労困憊の日本は徐々に防戦一方になっていく。
耐えていた守備が崩れたのは83分だった。三宅のパスをインナーセプトされると、素早いショートカウンターアタックからMien Wiebeに決められてしまった。その後、日本も反撃に打って出るが最後までゴー

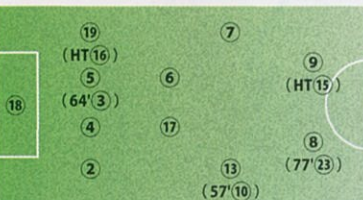
みる。センターバックに熊谷紗季(リヨン)と南萌華(浦和)を配置。イングランド戦でセンターバックを務めた土光を右サイドバック、同じく三宅を左サイドバックに起用し、ディフェンスラインにセンターバックを本職とする4人を並べた。
しかし、この試合でも早々に先制される。7分、昨年の女子ワールドカップで最優秀選手賞と得点王を獲得したWendie RenardにFKを決められた。27分にはGK山下杏也加(日テレ)のパスミスから最後はChristen Pressに決められて

2020 SheBelieves Cup

■第1戦

2020年3月5日 16:23
アメリカ/ Exploria Stadium

日本 **1-3** スペイン
44' 岩渕 真奈 **1-1**
0-2 8' ALEXIA PUELLAS SEGURA
46' 76' LUCIA GARCIA CORDOBA

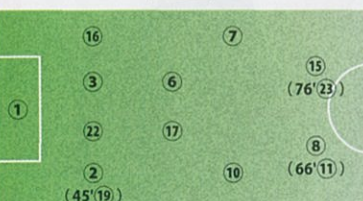


GK 18 山下 杏也加
DF 2 清水 梨紗
4 熊谷 紗希
5 南 萌華
19 → 64' 三宅 史織
10 遠藤 純
→ HT 16 宮川 麻都
MF 6 杉田 妃和
MF 7 中島 依美
17 三浦 成美
FW 8 岩渕 真奈
→ 77' 23 上野 真実
9 菅澤 優衣香
→ HT 15 田中 美南
13 池尻 菜由
→ 57' 10 榎木 結花

■第2戦

2020年3月8日 14:23
アメリカ/ Red Bull Arena

日本 **0-1** イングランド
0-0
0-1 83' Ellen White



MF 1 池田 咲紀子
DF 2 清水 梨紗
→ 45' 19 遠藤 純
3 三宅 史織
16 宮川 麻都
22 土光 真代
MF 6 杉田 妃和
MF 7 中島 依美
10 榎木 結花
17 三浦 成美
FW 8 岩渕 真奈
→ 66' 11 榎木 理子
15 田中 美南
→ 76' 23 上野 真実

■第3戦

2020年3月11日 19:08
アメリカ/ Toyota Stadium

日本 **1-3** アメリカ
0-2
1-1 58' 岩渕 真奈
7' Megan Rapinoe
26' Christen Press
83' Lindsey Horan



GK 18 山下 杏也加
DF 3 三宅 史織
4 熊谷 紗希
5 南 萌華
22 土光 真代
MF 6 杉田 妃和
7 中島 依美
10 榎木 結花
→ 84' 11 榎木 理子
17 三浦 成美
FW 9 菅澤 優衣香
15 田中 美南
→ HT 8 岩渕 真奈

■大会結果

順位	チーム	アメリカ	スペイン	イングランド	日本	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	アメリカ	1 0 0	2 0 0	3 0 1	9 3 0	0	0	6	1	5		
2	スペイン	0 0 1	1 0 0	3 0 1	6 2 0	1	4	2	2			
3	イングランド	0 0 2	0 0 1	1 0 0	3 1 0	2	1	3	-2			
4	日本	1 0 3	1 0 3	0 0 1	0 0 0	3	2	7	-5			

○:勝ち(勝点3)、△:引き分け(勝点1)、●:負け(勝点0)

このゴールを足掛かりに日本の攻撃が活性化される。75分には三浦成美(日テレ)がペナルティエリアに進入してシュートを放つが、これは惜しくもゴールポストをたいた。日本は何度も好機はつくったが、83

2失点目を喫してしまう。前半でゲームプランは大きく崩れたが、後半に入ると日本が躍動を見せる。キープレーヤーとなったのは、後半からピッチに立った岩渕だった。前線でボールをキープし、榎木ら攻撃陣の攻め上がりを促す。待望のゴールは58分。杉田、中島依美(神戸)、岩渕とパスをつなぎ、岩渕が右足を振り抜いて今大会2点目となるゴールを決めた。



ボランチの三浦(写真)と杉田は共に3試合フル出場。攻守にチームを支えた



攻撃的MFとして3試合にフル出場した中島は、アメリカ戦で岩渕のゴールをアシスト

オリンピック開催までにさらなる成長を

分にセットプレーから追加点を奪われて1-3。3戦全敗で大会を終えた。

東京オリンピックの前哨戦として臨んだ国際大会で多くの課題が出たことは事実だ。懸念の一つは、ディフェンスラインからのパスを奪われて喫した失点が多いこと。高倉監督は「3試合ともやっつては

いけないミスから自分たちでゲームを壊した」と、厳しい表情で語る。実際に今大会では、ディフェンスラインから中盤にかけての危険なエリアが奪いどころの一つとして狙われていた。高倉監督が指摘した通り、選手の判断や

で金メダルを獲得するには、今大会のような相手を打ち破っていかなければならない。不本意な結果となったが、それでも明るい材料はあった。アメリカ戦の後半に見せた攻撃は、バリエーション豊かで日本の特長を發揮していた。また、センターバック4人で構成したディフェンスラインも対戦相手や戦い方によっては有効なオプションとなるはずだ。

ポジションニング次第で回避できる失点が大半だった。なでしこジャパンは昨年女子ワールドカップ以降、国際親善試合で5戦全勝と好調ぶりをを見せてきたが、今回は厳しい現実を突き付けられた。東京オリンピックで再び世界の頂点に立つことができるのか、その真価が問われる。

TOKYO 応援宣言



東京オリンピック・パラリンピックに向けて盛り上がるスポーツ界。
そこで起きた最新ニュースから東京2020で活躍が期待される新星、
あなたの知らないスポーツの話題を隅々まで
松木安太郎を中心に伝えます！

さらに松岡修造は2020に向け
情熱を捧げる人たちを全力応援！！



毎週

日曜あさ サンデー LIVE! 内放送



アイスランド視察報告



他国に学び、秋田県の未来へとつなげていく



秋田県サッカー協会の安井誠悦副会長兼専務理事と同県の特定非営利活動法人AKISPO・加藤光平理事長が2019年11月にアイスランドを視察した。アイスランドサッカー協会と三つのクラブを訪問して得られたこと、今後に生かせることは何か——。視察レポートをお届けする。

アイスランドのサッカー

アイスランドは北欧に位置する島国で、人口約35万人の小さな国だ。面積は北海道よりやや大きいくらいで、人口は高知市や秋田市などに近い。サッカーの登録選手数は、総人口の約7.3%にあたる2万5000人で、全70あるクラブのうち男女のユースチームを有するのは47クラブである。

しかし、そうした小国ながらもヨーロッパや世界のサッカー強豪国と対等に渡り合っている。ヨーロッパ王者を決めるUEFA EURO 2016ではイングランドに勝利するジャイアントキリングを起こし、ベスト8に進出。また、ヨーロッパ予選を突破して2018FIFAワールドカップロシアに初出場を果たし、同大会で強豪のアルゼンチンと引き分けるなどして世界を驚かせた。

視察の背景

日本サッカー協会（JFA）が主催した「第11回JFAフットボールカンファレンス高知2019」（2019年1月12日～14日に開催）



駐日アイスランド大使館の北川靖彦大使（右から2人目）とも意見交換を行った（左から2人目が秋田県FAの安井副会長兼専務理事、右端がAKISPOの加藤理事長）

でアイスランドサッカー協会のテクニカルダイレクター兼指導者養成ダイレクターのアルナル・ビル・グンナーソン氏が招待され、同国の



アイスランドサッカー協会や同国のサッカーについて説明するアルナル・ビル・グンナーソン氏（左）

取り組みを紹介した（本誌2019年2月号に掲載）。

同カンファレンスに参加したAKISPOの加藤理事長がアイスランドの取り組みに関心を持ち、秋田県サッカー協会（FA）へ現地視察を打診。秋田県FAの安井副会長兼専務理事がJFAに相談し、JFAがアイスランド協会に視察を依頼した。そしてビル氏や駐日アイスランド大使館などと連絡を取り、具体的な視察スケジュールを組んで安井副会長兼専務理事と加藤理事長が現地に赴いた（スケジュールは下表参照）。

■視察スケジュール

日付		内容
11月13日	午後	日本発
14日	午後	アイスランド着
15日	午前	駐日アイスランド大使館 訪問 アイスランドサッカー協会 視察
	午後	Stjarnam FC 視察 HK FC 視察
16日	午前	Grindavik FC 視察
17日	終日	自由視察(レイキャビク市内)
18日	午後	アイスランド発
19日	夜	日本着

一般社団法人 秋田県サッカー協会

安井 誠悦 副会長兼専務理事

スポーツ環境の整備に加えて
指導者の資質向上が大事

当初、アイスランドに関する情報はほとんど持っていませんでしたが、その人口規模や環境を知り、またフットボールカンファレンスの内容を聞いて非常に興味を持ちました。

視察を実現させるにあたり、JFAやビル氏、そして駐日アイスランド大使館の方々のご協力をいただいたことに心から感謝しています。

アイスランドのスポーツは、地域にあるスポーツクラブを中心に発展しています。われわれが訪れたグリンダヴィックは「ブルーラグーン」で有名な観光都市ですが、人口わずか3500人にもかかわらず、大規模なスポーツ施設を有していました。

グリンダヴィックだけでなく、多くのクラブが屋外、屋内共に立派な施設を持っています。子どもたちがスポーツ活動を行う際は自治体はその費用を一部負担するなど、スポーツをする土台が築かれていることも大きな特徴です。

火山大国であるアイスランドは、1973年のオイルショックを機に地熱開発を本格化させ、現在、水力と地熱といった再生可能なエネルギーでほぼ100%電力を賄っています。そうしたエネルギーを活用し、屋外のグラウンドでは地中に温水パイプを敷設して雪を溶かしているそうです。また、地熱発電の過程で出る温水や地下水を利用した冷暖房の普及も進んでおり、それらが屋内施設などにも完備されています。

アイスランド代表はEURO 2016で8強入りし、FIFAラン

子どもの頃からスポーツをして
体を動かす土壌が出来上がっている



地中にパイプが敷設された屋外のグラウンド。
雪が降っても溶かすことのできる仕様となっている



アイスランドのナショナルスタジアムの施設内に同協会が入っている。ビル氏(左)からさまざまな情報が提供された

キング40位(視察当時)にいます。ビル氏は、施設が充実したことで代表チームが強くなったわけではないと話していましたが、施設が整備されて以降、サッカー人口も増加したそうです。

今回の視察から、秋田県にとって参考になる点がいくつかありました。秋田県も地熱エネルギーを有しています。それをうまく活用できれば、降雪期の屋外スポーツの実施につながるのではないかと思います。

ビル氏からは「指導者の資質向上が大事」というアドバイスもいただいたので、秋田県内からも良い指導者を多く輩出できるように取り組んでいきたいと思います。

ビル氏をはじめとするアイスランド協会の皆さんも各クラブの関係者の方々も非常にフランクで、われわれを温かく迎え入れてくれました。視察で得られたことを秋田県FAでも伝達し、未来につなげていきたいと思っています。

特定非営利活動法人AKISPO

加藤 光平 理事長

スポーツ文化を いかに生活に根付かせるか



JFAフットボールカンファレンスでビル氏のプレゼンテーションを拝聴し、実際に現地へ行ってみたいと思ったのが今回の視察の始まりでした。アイスランドの人口は約35万人、私の住む秋田市の人口もそれに近い約30万人です。また同国には降雪地域というイメージがあったので、良いロールモデルになるのではないかと考えました。

今回の視察では、各クラブの施設などを見て今後の秋田県におけるスポーツ環境の改善に向けたヒントにすることが一番の目的でした。短い滞在期間の中で3クラブを回りましたが、どのクラブもハード面が充実していることに驚きました。



総合型スポーツクラブとして充実した施設が整っている

アイスランドは潤沢な税収により社会保障が充実しています。国や自治体が施設を建設・整備してクラブに提供しているといった土壌があります。そのため、全てのクラブに天然芝ピッチや人工芝ピッチ、屋内施設、プール、ジム、クラブハウスなどが完備されています。

われわれが視察したクラブも例外ではなく、ハンドボールやバスケットボール、水泳など複数のスポーツに対応した施設を有し、「総合型スポーツクラブ」としての役割を果たしていました。中でも、コーパヴォグルにあるHK FCというクラブは、サッカーのフルピッチの広さの屋内施設を持っていました。観客席も完備しており、「屋内型スタジアム」という表現がぴったりの施設でした。

首都であるレイキャビクでは、平均して子ども1人あたり2種目のスポーツをしているそうです。その受け皿となって



体育館などの屋内施設も活用してサッカーのトレーニングが行われる

いるのが総合型スポーツクラブです。季節や天候に関係なく、また老若男女がやりたいスポーツをできることがこの国の素晴らしいところです。スポーツが生活にしっかりと根付いていると感じました。私自身もクラブの在り方として、総合型スポーツクラブを目指していますので、スポーツ文化の形成の仕方などを含めて非常に勉強になりました。

秋田市では、昔から屋内施設の必要性が叫ばれていますが、そうした施設が十分ではないのが現状です。「秋田市に屋内施設を」という思いでやってきた結果、当団体も携わる新たな屋内運動施設が誕生することとなり、この4月から運用していくこととなりました。サッカーだけでなく、他の競技でも使用できる施設です。アイスランドのようなスポーツ文化を根付かせていけるように、視察で得たことを生かし今後も活動していきたいと思います。



HK FCの屋内施設はフルサイズのピッチ1面のほか、観客席も設置されている



栄光

挫折

日本サッカーの 記憶と記録が 宿る場所

日本サッカーミュージアムは、95年を超える日本サッカーの歴史を今に伝え、未来につなげる場所です。日本サッカーは多くの人たちの情熱と努力によって発展してきました。日本サッカーミュージアムでは、その歩みを物語る数々の資料や文献、映像、優勝トロフィーなどのほか、国際大会や各種大会で選手が着用したユニフォーム、スパイクなども随時展示。どれもが、ここでしか目にすることができない貴重な物ばかりです。また、特別展示室では、期間限定の企画展を年に数回開催。子どもたちには日本サッカーの歴史を知るだけでなく、身近に感じ学んでほしいという思いから、夏休み自由研究イベントや学習プログラムも実施しています。

※企画展やイベント等の詳細はホームページをご確認ください

歓喜

試練

?

有料チケットのデザインは全4種

(1998年FIFAワールドカップ仕様1種、2002年FIFAワールドカップ仕様3種)

日本サッカーミュージアム

- 開館時間 火曜日～金曜日 13:00～18:00(最終入場17:30)
土日祝日・特別開館日 10:00～18:00(最終入場17:30)
- 休館日 毎週月曜日(祝日の場合は翌火曜日)
- 入場料 一般料金 大人 550円、小中学生 300円、幼児 無料
割引適用※ 大人 450円、小中学生 200円
※団体(20名様以上)、障がい者の方・その付添者の方、JFAサッカーファミリー、日本サッカー後援会会員、来館日より1年以内に国内で開催されたサッカーの有料試合のチケット持参の方
- 住所 〒113-8311 東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15)JFAハウス
TEL:050-2018-1990

- アクセス JR「御茶ノ水駅」・東京メトロ丸ノ内線「御茶ノ水駅」より徒歩約7分、東京メトロ丸ノ内線「本郷三丁目駅」・同千代田線「新御茶ノ水駅」・都営地下鉄大江戸線「本郷三丁目駅」より徒歩約9分
- URL https://www.jfa.jp/football_museum/



※日本サッカーミュージアムは、新型コロナウイルス感染予防および拡散拡大の防止のため、2月26日(水)から臨時休館しています。開館可能な状況になりましたら、ミュージアム公式サイトにてお知らせさせていただきます。

日本サッカーミュージアムを支援いただいている企業(五十音順) ※2020年4月1日現在

株式会社ADKマーケティング・ソリューションズ
アスカ美装株式会社
株式会社インターナショナルスポーツマーケティング
麒麟ビール株式会社
麒麟ビバレッジ株式会社
KDDI株式会社
J-GREEN 堺・DREAM CAMP
株式会社JTBグローバルマーケティング&トラベル

株式会社リーグ
株式会社シエブ
株式会社シミズオクト
株式会社スケール
ソニーネットワークコミュニケーションズ株式会社
株式会社テレビ朝日
株式会社テレビ東京
株式会社電通

株式会社電通ライブ
西鉄旅行株式会社
日本テレビ放送網株式会社
株式会社野村総合研究所
びあ株式会社
株式会社ビッグ・バーン
ホテル東京ガーデンパレス
マッシュコーポレーション株式会社

株式会社マッス
株式会社ムラヤマ
株式会社モルテン
ヤマザキビスケット株式会社
株式会社ユース・プランニングセンター

2002 FIFAワールドカップ記念
日本サッカーミュージアム 11+

サッカーファミリー広場



■アルベルト・ザッケローニ元日本代表監督からのメッセージ

親愛なる日本の皆さんへ

今、世界中が大きな不安に包まれています。新型コロナウイルスの蔓延を防ぐために、日本の皆さんも多くの努力と犠牲の上に責任のある行動が求められていると思います。

日常生活で習慣にしていることを我慢したり、自由な行動が制限されたりすることもしばらくの間は求められますが、それは再び素晴らしい世界を取り戻すために必要なことだと思います。

私の第二の故郷である日本には、困難に打ち勝つために自己犠牲を払い、他人を思いやって行動できる多くの人たちがいることを知っています。

皆さんもご存じの通り、イタリアでもこの新しいウイルスとの戦いが続いています。

自分自身、愛する家族や友人、多くの人々の健康を守るためにできることは、私たちが家に留まることです。

まだまだ厳しい状況ですが、イタリアでも1カ月以上にわたって人々が家に留まる努力を続けた結果、少しずつ光が見えてきているように感じています。

再び素晴らしい世界を取り戻すという同じ目標に向かって、一致団結して共に頑張っていきましょう。



※写真：2014年当時のもの

アルベルト・ザッケローニ stay@home
2020年4月8日

読者プレゼント

応募締切：2020年5月15日(金) 当日消印有効

アディダス ジャパン(株) 提供

日本代表のオフィシャルサプライヤーであるアディダス ジャパン(株)より、「プレデター20.3 HG/AG(硬い土用/人工芝用)(27.5cm)」を1名様にプレゼント。



JFA STORE 提供

「JFA STORE」は日本代表のグッズなどが揃うJFAのオフィシャルeコマースサイトです。さまざまなシーン、目的に合わせてグッズを確認できるページに加え、特集ページも用意しました。今号では「ユニフォーム型チケットホルダー」を1名様にプレゼント。

<https://official-store.jfa.jp/>

JFA STORE



プレゼント応募方法

■Web

URL：<https://forms.gle/YFEqmDgLkmjQRRkc7>

今号より、Webのプレゼント応募フォームを設けました。上記URLもしくはQRコードよりアクセスしてご応募ください。



■はがき

〒113-8311

東京都文京区サッカー通り(本郷3丁目10番15号) JFAハウス
公益財団法人 日本サッカー協会・広報部
「JFAnews プレゼント応募」係

①名前、②郵便番号・住所、③電話番号、④希望プレゼント名、⑤JFAnewsのご感想・ご意見などを明記の上、郵送でお送りください。

当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。発送は2020年5月下旬の予定ですが新型コロナウイルスの感染拡大対策の影響により、お届けに大幅な遅れが生じる可能性があります。

※収集した個人情報は厳重に管理し、他の目的には使用いたしません。 ※お送りいただいた葉書は返却いたしません。

公益財団法人 日本サッカー協会機関誌

JFA news

発行人：須原清貴

発行所：公益財団法人 日本サッカー協会
〒113-8311

東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15) JFAハウス
TEL.050-2018-1990(代) / FAX.03-3830-2005
URL <https://www.jfa.jp>

監修：公益財団法人 日本サッカー協会 広報部

編集：編集長 加藤秀樹
JFAnews編集部 / (株)ウォールニクス

印刷：サンメッセ(株)

定価：600円/本体545円

次号2020年5月情報号は、2020年5月22日発売予定

[特集テーマ] 強い体をつくる(前編)

※特集テーマ・内容は変更となる可能性があります

ご購入のお知らせ

・インターネットからのご購入

日本サッカー協会 Official Online Shop

<https://webshop.jfa.jp/fs/jfagoods/c/top>

※クレジットカード決済のみ。

上記サイトでは本誌のほかJFA関連発行物の
購入が可能です(38~39ページ参照)



・年間購読

JFAnewsの年間購読料は、送料・税込みで1年間(12冊)5,000円で、
年間2,200円お得です。

ご希望の方は上記インターネットまたは39ページの専用申込書にご記入
の上お申し込みください。

・チーム登録をされているご購入者さまへ

JFAnews発送における住所変更、名義変更を希望される場合は、JFA公
式Webサイトの「JFAへの登録」よりJFA IDシステムにログインしてい
ただき、変更をお願いします。

万一の
事故やケガに
備えて、
損害保険に
加入しませんか？

損害保険取扱代理店



株式
会社

ジェイ・セーフティ

〒113-0033 東京都文京区本郷3-10-15 JFAハウス9階

TEL:03(3830)1925 FAX:03(3830)1929

受 保 險 会 社

- 三井住友海上火災保険株式会社(代申社)
- 損害保険ジャパン日本興亜株式会社

- 東京海上日動火災保険株式会社
- 明治安田損害保険株式会社

© J.LEAGUE adidas, the 3-Bars logo and brazuca are trade marks of the adidas Group, used with permission.

よろこびがつなぐ世界へ

KIRIN



新しい応援、ひろがる。



KIRIN

2019年6月~9月A代表戦出場時間トップ11 © JFA

#届けてキリン



SAMURAI BLUE

